

通刊第20号

20 - 9	財千教振学 報8
--------	----------

千葉市生涯学習センター 事業体系に関する調査・研究報告書

平成21年3月

千葉市生涯学習センター

目 次

I . はじめに	1
II . 千葉県生涯学習センターをとりまく現状	2
1 新事業体系の趣旨	2
2 生涯学習の必要性と社会的背景.....	3
3 現在の事業体系	7
III . 事業の現状	9
1 学習活動の推進事業	9
2 ネットワーク化事業	11
3 指導者の養成事業.....	12
4 情報提供事業	13
5 学習相談事業	14
6 メディア学習事業	14
7 施設管理運営事業	15
IV . 市民の現状～市民意識調査から～	17
V . 受講者アンケート	31
1 調査概要	31
2 調査結果	35
VI . 検討委員会	55
1 委員会の設置	55
2 第1回委員会	56
3 第2回委員会	66
VII . 新事業体系（まとめ）	71
1 千葉県生涯学習センターの基本理念	71
2 新事業体系案	72
3 事業内容と方向性	74

1. はじめに

情報化、国際化、少子高齢化、科学技術の高度化等々、私たちの生活、社会を取り巻く状況は、かつてない変化にとりまかれ、生活の向上と自己の充実を求めて生涯にわたって学ぶことは、ますます必要性を増しています。

このような社会の大きな変化を受け、平成 20 年 2 月に中央教育審議会は、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」を答申し、生涯学習社会の実現に向けた国としての目指すべき施策の方向性、方策などを明らかにしました。また、平成 20 年 6 月には、教育基本法改正に伴う社会教育法等関連法の改正も行われました。

本調査研究は、これらの情勢を踏まえ、生涯学習推進の中核施設としての千葉市生涯学習センターは、市民のニーズにこたえていくためにどのような役割を果たすべきか、どのような事業を展開すべきかを検討したものです。

研究に当たっては学識経験者、民間の研究機関および当センター職員で構成する「千葉市生涯学習センター・事業体系検討委員会」を設立し、平成 19 年度に実施した「千葉市生涯学習に関するアンケート調査」と平成 20 年度前期の「生涯学習センター主催講座受講者アンケート」及び国、市の行政動向をもとに、現在の生涯学習センターの事業を検証し、将来の生涯学習推進の方向についての検討を行い、新しい事業体系案という形でまとめを行いました。

本調査研究が、多くの教育関係者をはじめとする行政関係者、関係団体、生涯学習・社会教育研究者、そして、生涯学習にかかわる多くの市民の皆様に、今後の生涯学習センターの事業、さらには、広く生涯学習全般について考える上での参考に供され、お役に立てれば幸いに存じます。なお、この調査研究で明らかになった新しい課題や方向性の中で、すぐにでも反映できるものについては当センターの平成 21 年度事業においてすみやかに実施していくこととしました。

最後になりましたが、聖徳大学教授清水英男様、千葉市女性団体連絡会事務局長杉本明行様、元千葉市生涯学習センター学習課長前田秀典様におかれましては、ご多用の中、本委員会委員をお引き受けいただきましたこと、二度の検討委員会で精力的にご審議いただきましたことに心よりお礼申しあげます。

平成 21 年 3 月

千葉市生涯学習センター
所長 田中晋二郎

II. 千葉市生涯学習センターをとりまく現状

1 新事業体系の趣旨

(1) 策定の目的

千葉市生涯学習センターは、市民の生涯学習及び交流の場を提供するとともに、生涯学習活動を総合的に支援し、本市における生涯学習の振興を図るための中核的施設として、平成13年に設立された施設です。

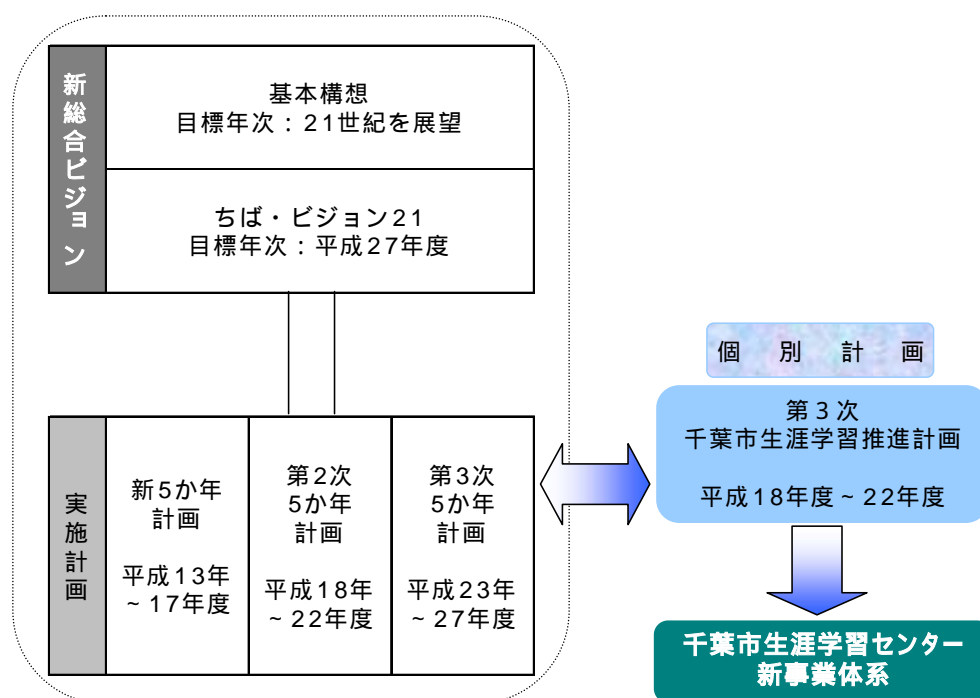
現在は6つの学習事業体系に基づき、千葉市の生涯学習推進のために事業を行っています。この6つの学習事業体系は、「千葉市生涯学習推進基本構想」(平成4年)及び「千葉市生涯学習推進計画」(平成6年)をもとに、平成11年の生涯学習審議会において確定されたものです。しかし、設立後7年が経過し、社会情勢やライフスタイルの変化、また環境問題や少子高齢化の深刻化、高度情報化の進展など、市民を取り巻く環境は刻々と変化し続けています。

そこで、今回の調査・研究では、現在の6つの学習事業体系の現状と課題を明らかにし、国、県、市などこれからの生涯学習の方向性を踏まえたうえで、さらに市民のニーズに合った事業体系を検討していきます。

(2) 事業体系の位置付け

新たな事業体系は千葉市生涯学習センターが今後の事業を組み立てていくうえでの一つの方向性を示すものです。

千葉市には「ちば・ビジョン21」、「第2次5か年計画」、「生涯学習推進基本構想」、「第3次生涯学習推進計画」など、生涯学習に関する上位計画があり、本事業体系は、これらに基づき検討されたものです。



2 生涯学習の必要性と社会的背景

(1) 生涯学習とは

生涯学習とは、学校における教育や学習のみにとどまらず、自らの意思と選択によって、人生のあらゆる成長過程で、各人の興味・関心や生活領域に応じ、さまざまな学習を続けていくことです。

生涯学習の考え方は、昭和40年(1965年)のユネスコの成人教育に関する会議において、人生の諸段階、生活の諸領域における教育・学習の全てを含む総合的・統一的な概念である「生涯教育」が提唱されて以来、世界的に注目されるようになりました。昭和60年(1985年)には人々の学ぶ権利をうたったユネスコの学習権宣言が採択されました。

わが国では、昭和56年(1981年)の中央教育審議会の答申「生涯教育について」で初めて生涯教育の考え方を取り上げ、昭和59年(1984年)から昭和62年(1987年)にかけての臨時教育審議会の答申で、「生涯学習社会の実現」が教育改革の一つ柱(基本理念)として提言されました。

平成2年(1990年)には、「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」(生涯学習振興法)が制定され、生涯学習振興のための体制整備並びに施策が、国及び地方(都道府県・市町村)で進められてきました。

平成4年(1992年)の国の生涯学習審議会答申では、「いつでも、どこでも、誰でも自由に取り組めるものであり、組織的な学習活動だけでなく、スポーツ活動、文化活動、趣味の大きな変化の潮流を踏まえ、教育の基本理念として生涯学習の理念を明確化することや、家庭教育の支援、社会教育の振興の重要性が提言されました。

近年の動きとしては、平成15年(2003年)3月の中央教育審議会の答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」において、少子高齢化社会の進行などの社会が目指すべき施策の方向性や施策を推進する際に必要な視点が明確にされています。

これを受けて、中央教育審議会生涯学習分科会においては、生涯学習の振興方策全般について審議され、平成16年(2004年)に「今後の生涯学習の振興方策について」(審議経過の報告)がまとめられました。

また、平成20年(2008年)2月には答申「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」が発表されたばかりです。更なる時代の変化に合わせ、審議会でも数多くの議論がなされ、その上で社会全体の教育力の向上や家庭教育の強化など、レクリエーション活動、学習ボランティア活動など、幅広い活動の中でも行われるものである」と述べられ、その内容は多岐にわたっています。

さらに改正された教育基本法に基づいて、平成20年(2008年)6月に社会教育法が改正されました。生涯学習の新たな時代に対応するために市町村教育委員会の事務が改定されました。

1点目は、家庭教育支援について家庭教育に関する情報の提供が加えられたこと。

2点目は、情報化の進展に対応した任務が加えられたこと。

3点目は、学齢児童・生徒を対象に放課後または休業日に学習その他の活動の機会を提供することが加えられたこと。

4点目は、人々の学習成果を活用することが加えられたこと。

5点目は、社会教育に関する情報を収集、整理、提供することが加えられたこと、等です。

学習に対する個人の要望は、趣味的なものから職業能力の向上まで多様化している一方、環境教育、防犯教育、消費者教育、裁判員制度に関する教育等の公共的課題に対応した「社会の要請」としての社会教育も求められています。今後生涯学習はますます個人の生活と切り離せないものとなってくると考えられます。

(2) 生涯学習の役割の変化

国の方針

平成18年(2006年)12月には時代の変化に対応すべく、約60年ぶりに教育基本法が改正されました。これにより、「生涯学習の理念(第3条)」が新しく規定されたことをはじめ、「教育の目標(第2条)」、「家庭教育」、「社会教育」、「学校、家庭及び地域住民等の連携協力」等学校教育のみならず、生涯学習・社会教育関係の規定の充実も図られました。

これをうけて、第4期中央教育審議会生涯学習分科会では、国民一人ひとりの学習活動を促進するための方策や、地域住民等の力を結集した地域づくりなど、家庭や地域社会における子どもの育ちの環境の改善のためについて検討してきました。そこで、平成20年(2008年)2月、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」が出されました。

そこでは「国民一人一人の生涯を通じた学習の支援 - 国民の「学ぶ意欲」を支える」、「社会全体の教育力の向上 - 学校・家庭・地域が連携するための仕組みづくり - 」が施策の方向性として挙げられており、国民一人一人が今後必要とされる総合的な力を身につけることを支援するために、生涯学習の振興方策の展開を図るとされています。

平成20年(2008年)6月に改正された社会教育法では、社会教育行政は学校、家庭、地域住民等との連携、協力を促進するよう努めることが明記されました。

千葉市の方針

千葉市では、「第2次5か年計画の中」で『心のふれあう生涯学習社会を振興する』と施策の方向性を定め、主に施設・設備の充実を進めています。また、個別計画である「第3次千葉市生涯学習推進計画」の中でも『社会の要請と個人の学習ニーズに対応した生涯学習の推進』、『生涯学習の成果を活かした参画と協力による地域づくり』、『生涯学習支援ネットワークの充実・強化』を基本的な方向性とし、施策を展開しています。

千葉市生涯学習センターは、この「第3次千葉市生涯学習推進計画」においても、生涯学習を総合的に推進するための中核的施設として位置づけられています。

(3) 千葉市の特性

全国的な傾向である少子高齢化の進行は、本市でも同様の状況にあります。人口は増加傾向にあり、平成20年9月末現在で944,557人となっています（前年同月比10,182人、1.08%増）。世帯数は407,366世帯で、行政区別の人口をみると、中央区が19万人、花見川区が18万人を超えています。今後も人口増加が進み、平成22年には955,000人になると推計されています。

しかし、国立社会保障人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口（平成15年12月推計）」によると、平成32年（2020年）ごろから減少に転じると推計されています。

図1 千葉市の特性

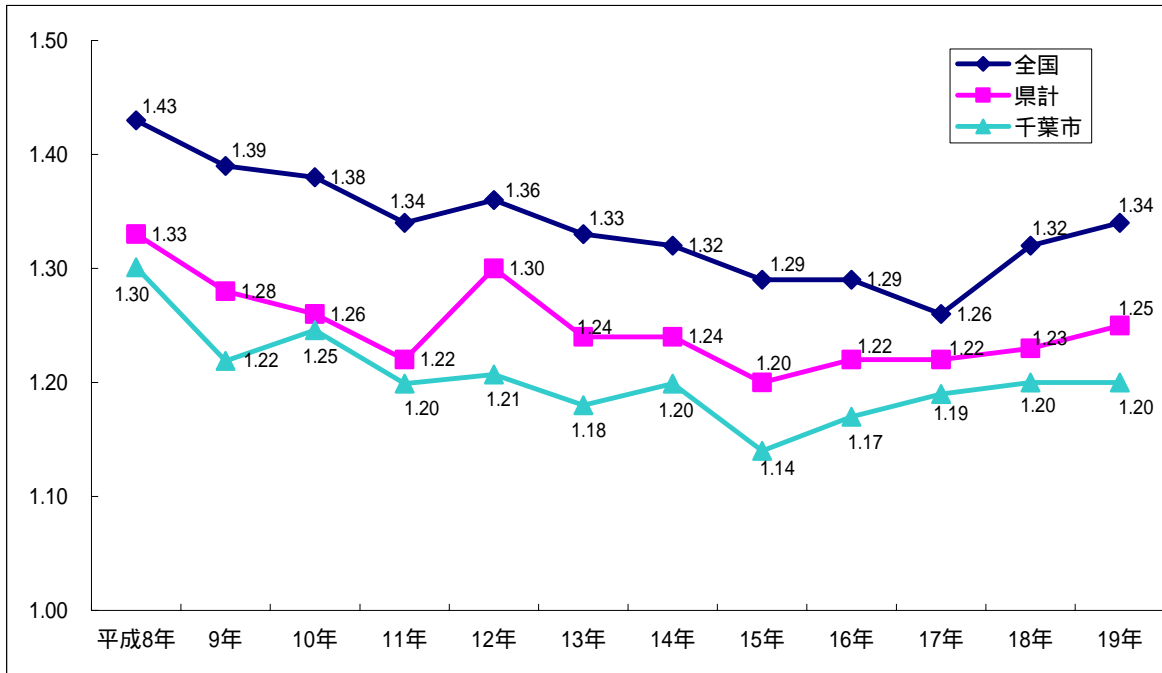
区 分	人 口			対前年同月人口		世 帯 数	面 積 (km ²)
	総 数	男	女	増 減 数	増減率(%)		
千葉市総数	944,557	472,276	472,281	10,182	1.08	407,366	272.08
中央区	191,440	96,528	94,912	2,468	1.29	90,514	44.81
花見川区	180,186	90,536	89,650	166	0.09	77,399	34.24
稲毛区	153,603	76,917	76,686	2,473	1.61	66,772	21.25
若葉区	150,202	75,463	74,739	648	0.43	65,012	84.21
緑区	118,796	58,886	59,910	2,418	2.04	44,901	66.41
美浜区	150,330	73,946	76,384	2,009	1.34	62,768	21.16

出所：千葉市ホームページ

(平成20年9月末現在)

また、合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生む子どもの平均出生数)は、全国平均と比較しても低い水準にあります。こうした状況から、家庭や地域の教育力の向上による子育て環境の整備が求められています。

図 2 合計特殊出生率



出所：厚生労働省「平成 19 年度 人口動態統計」

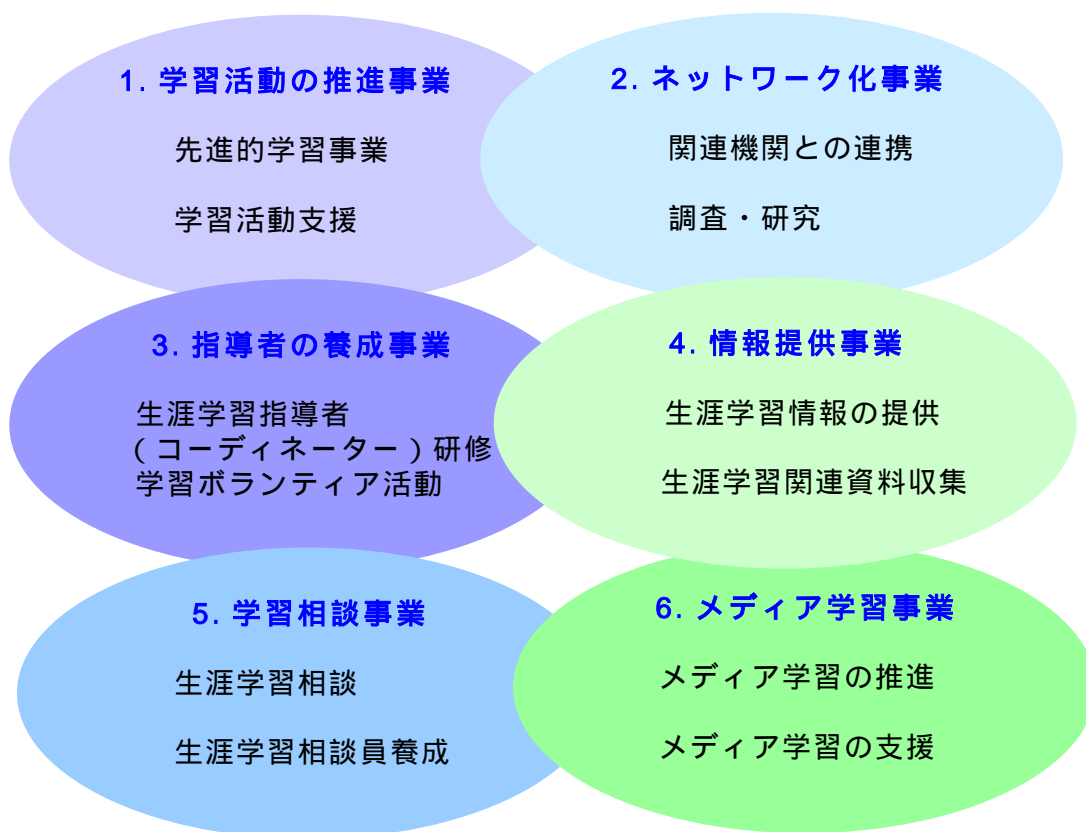
平成 17 年（2005 年）我が国の人口は戦後初めて前年より減少し、人口減少社会を迎えました。今後は、人口減少と少子高齢化の同時進行による人口構成の急速な変化や、市場の縮小に伴う経済活動の停滞などを見据え、千葉市を支える人材の確保が重要になります。

具体的には、人材を充実させるための、地域における生きがいづくり、地域での学びあい・支えあいの体制づくり、高齢者の健康づくり、職業能力の向上などに取り組む必要があります。あわせて、団塊の世代の大量退職の時期を迎え、地域における受け皿づくりや、この世代のもつ能力の継承・活用の方策について検討していく必要があります。

3 現在の事業体系

(1) 6つの学習事業体系

千葉市生涯学習センターは、市民の生涯学習を総合的に推進するための中核的施設として以下の6つの学習事業体系による学習事業を実施しています。6つの事業が相互に関連しあい、千葉市における生涯学習を推進しています。

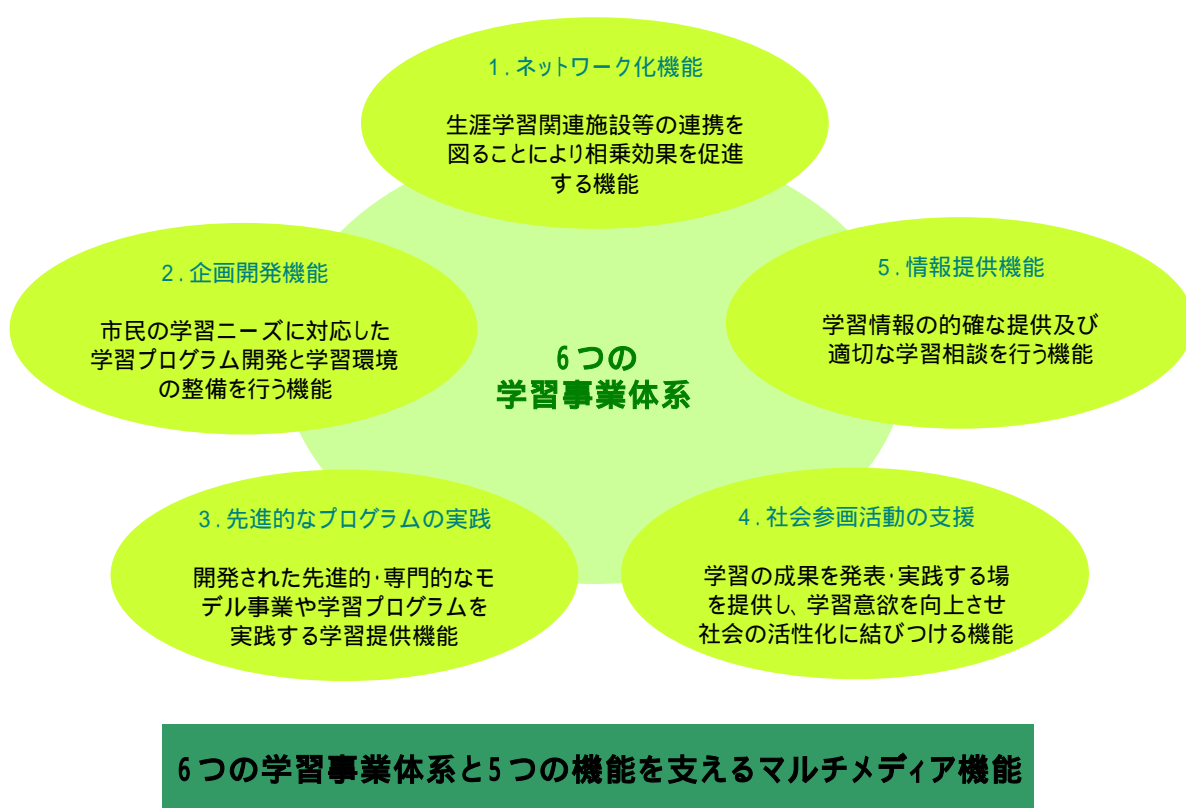


(2) 5つの機能とマルチメディア機能

6つの学習事業体系は「ネットワーク化機能」、「企画開発機能」、「先進的なプログラムの実践」、「社会参画活動の支援」、「情報提供機能」の5つの機能によって、運営されています。

5つの機能が相互に結びつき、総合的に事業体系を支えています。また、全ての機能の土台となるのは施設環境としてのマルチメディア環境整備です。

6つの学習事業体系と5つの機能とマルチメディア機能によって、千葉市生涯学習センターの生涯学習事業は進められています。



III . 事業の現状

1 学習活動の推進事業

(1) 先進的学習

ちばを学び創る学習

ア 現在行っている事業

【ちばカレッジ】

「ちばを学び創る学習」として、千葉市とその周辺を「ちば」と定義し、「ちば」に関わる事象をテーマとして取り上げる「ちばカレッジ」を実施しています。3年を目安に学習するテーマを変えて実施しており、現在までに「自然と人間」・「政治と社会」・「産業と交通」・「生活と文化」・「情報化と国際化」の分野を取り上げ、新たに「総合」の分野にも視野を置いて情報収集をしています。

イ 現状と課題

実費以外の受講料を徴収することのできる講座の一つです。そのため内容が専門的であったり、現地実習や記録集の刊行を行ったりするなど他の講座と比べても充実した講座内容となっています。開館当初からの重点事業ですが、受講料や実習、レポートの作成などの負担が多いためか、近年は受講者が減少傾向にあります。取り組むテーマとともに、受講者の講座への関わり方も含め新たな視点からのプログラムについて検討していく必要があります。

現代的課題学習

ア 現在行っている事業

【子育て支援・青少年育成・高齢者生きがいづくり学習】

社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、市民が学習する必要のある課題を取り上げ、プログラム化を図っています。

現在は主に子どもを持つ保護者、高齢者、子どもを対象とし、3事業を実施し、それぞれのライフステージの課題を意識した講座を展開しています。青少年育成事業では環境問題や子どもの科学離れの問題に対応した講座も実施しています。

イ 現状と課題

開館当初は、現代的課題として科学・環境・家庭教育をテーマとして講座を実施していました。現在では、当初の講座の組み替えや拡充を図る中で、市民一人ひとりに応じた学習機会の提供を行うため、ライフステージごとの学習として整理し直し、事業を実施しています。

しかし、今日の社会の変化の中でもライフステージごとの講座設定が有効であるのか、また何が現代的課題となっているのかを検討していく必要があります。

ります。

(ア) 子育て支援

現在行っている講座は市民からの人気も高く、高評価を得ています。しかし、平日の昼間に講座を開講しており、男性の参加がほとんどありません。

近年の傾向として、核家族化や地域の連帯感の希薄化により、周りに相談できる人が少ないという状況などがあり、講座は保護者同士の交流、情報交換の場にもなっています。

(イ) 青少年育成

現在の講座は体験型の学習を重視した小中学生対象のものしかなく、高校生以上の青年層を対象とした講座を実施していません。こうした世代に対しての講座を検討する必要があります。

(ウ) 高齢者生きがいづくり学習

本事業は、対象を高齢者として実施していますが、「高齢化」に関わるテーマは他の世代にとっても関心が高いテーマです。もっと多岐にわたる講座展開を検討する必要がありそうです。

生涯学習センターでは、対象を高齢者に限らない学習成果の活用・発表の場の提供や学習ボランティアの養成等も行っていますが、60代以上の参加が多くなっています。センターの事業の充実が、結果としてこの世代の学習機会の充実につながるとも考えられますが、高齢者の地域参画や学習成果の活用が各方面から期待されている中、これとは別に高齢者に特化した取り組みが必要であるかを検討する必要があります。

(2) 学習活動支援

市民自主企画講座

ア 現在行っている事業

【市民自主企画講座】

市民自らの手で地域の課題解決や活性化を図るための講座を企画・運営するもので、学習ボランティア、学習グループ、NPOなどを対象としています。毎年公募で企画を募り、選考委員会による選考の上、実施団体を決定しています。市民が日ごろの学習活動によって得た成果を地域に還元し、市民相互の学習を通じた交流を図る場となっています。

イ 現状と課題

すでに地域や他の施設での講座の実施経験が豊富な団体から、初めて講座を実施する団体まで様々な団体が参加しており、団体に合わせた職員のサポートは欠かせません。

本事業は、講座を企画した経験が少ない団体の参加も多く、市民団体の育成・活動支援に主眼をおくのか、受講者となる市民の充実した学習機会の提供に主眼をおくのが課題となっています。

まなびフェスタの企画・実施

ア 現在行っている事業

日ごろ学習活動を行っている団体から参加者を募集し、展示・発表の場、自主講座の開設の場を提供しています。また、生涯学習センターの主催講座の受講者による発表や各種イベント、講座も行っています。

イ 現状と課題

市民の学習成果の発表の場であると同時に、生涯学習の啓発の場でもあります。学習成果を発表しようとする市民とそれに参加しようとする市民の両方が楽しめる場づくりを考えていかなければなりません。

発表・鑑賞機会の提供

ア 現在行っている事業

【やすらぎのアトリウムコンサート・ミュージックフェスタ・合唱祭・高等学校演劇発表会・ボランティアによる学習成果の発表等】

鑑賞機会の提供として、市民が気軽に音楽に親しむことのできるコンサートや、市民が参加し、日ごろの活動の成果を発表することができる場の提供を行っています。

また、生涯学習センターのホールの持つ機能を有効活用し、近隣の高校の演劇部と連携して演劇大会を実施しています。

イ 現状と課題

鑑賞機会の提供は全て無料で実施しており、多くの市民が参加しています。音楽等の鑑賞は市民からの人気も高く、一部のコンサートなどを有料で実施し、金額にみあった事業を提供することも考えられます。

2 ネットワーク化事業

(1) 関係機関との連携

現在行っている事業

【大学連携講座・企業連携講座等】

高等教育機関及び企業と連携した各種講座を行っています。また、教育委員会をはじめ、他の行政機関とも連携し事業を実施しています。

現状と課題

連携、ネットワーク化については、様々な形が想定されるため、生涯学習センターにおける方向性、理想的な連携、ネットワークの形について検討を重ねていく必要があります。

(2) 調査・研究

現在行っている事業

調査研究事業については、年度ごとにテーマを決めて実施しています。平成19年度は、生涯学習に関する市民意識調査を実施しました。

現状と課題

今後も、千葉市の生涯学習の中核を担う施設として、生涯学習に関する調査研究を継続して実施していく必要があります。

3 指導者の養成事業

(1) 生涯学習指導者（コーディネーター）研修

現在行っている事業

【生涯学習指導者研修・生涯学習関係職員研修等】

日ごろ様々なボランティア活動や地域活動を行っている市民の支援を目的に、活動に役立つ実践的な内容を学ぶ機会を提供しています。

また、生涯学習関係職員研修として、公民館職員等を対象にした研修を行うとともに、生涯学習センター職員を各種研修に派遣しています。

現状と課題

生涯学習による地域づくりを進めていくためには、学習団体やサークル、社会教育団体などの活動の活性化が不可欠です。また、職員研修を行うことで市民や学習団体などに、より質の高い情報提供や助言を行うことができるような体制をつくっていく必要があります。

(2) 学習ボランティア活動

現在行っている事業

【施設ボランティア（まなびサポーター）養成研修・学習ボランティア活動の支援・生涯学習ボランティア研修等】

施設ボランティア養成研修では、生涯学習センターで活動する「まなびサポーター」とともに、他の生涯学習関連施設とも連携し、各施設で活動する学習ボランティアの養成を行っています。同時に、学習ボランティア活動の支援として、まなびサポーターによるパソコン相談会や市民向けの講座など、まなびサポーターが学習で得た成果を社会へ還元する活動を支援しています。

生涯学習ボランティア研修では、ちば生涯学習ボランティアセンターに登録している団体・個人などを対象に、生涯学習に関する理解を深め、活動に必要な知識、技術について学習する機会を提供しています。

その他、学習ボランティア活動を推進するために必要な研修を実施しています。

現状と課題

生涯学習センターで育成した「まなびサポーター」は、活動分野・グループに分かれて活動しています。グループごとに目的を持ち、近年は、活動の範囲を広げ、その内容も発展してきています。そのため、生涯学習センターの支援の方法や内容について、現状に即して見直していく必要があります。

現在行っている講座の一つ、生涯学習コーディネーター研修は、コーディネートをやる力は、あらゆる活動において重要であるという観点から、生涯学習・社会教育に携わる市民全般を対象として行っています。しかし、受講者の活動領域が様々であるため、それぞれの活動の実態に即した学習機会の提供という点において課題が残されています。また、今後、講座を充実させるためにもコーディネーターの意味や役割について明確にしていく必要があります。

(3) 研修生等の受け入れ

現在行っている事業

【教職員社会体験派遣研修・社会教育実習・職場体験学習等】

各教育機関や学生の要望により受け入れを行っているため、年度により受け入れ件数や事業数は異なります。

現状と課題

希望者がいた場合、できる限り受け入れを行っています。研修や実習の目的がそれぞれ異なるため、各研修に即したプログラムの提供を行っていく必要があります。

4 情報提供事業

(1) 生涯学習情報の提供

現在行っている事業

案内情報の整備・提供、専門情報の整備・提供を行っています。

案内情報の整備・提供は生涯学習に関する案内情報（ポスター・チラシ等）を収集・整理し、生涯学習広場で閲覧（一部持ち帰り可能）に供しました。また、専門情報誌の整備・提供については生涯学習に関する専門情報（図書・定期刊行物等）を収集・整理し、調査・資料室で閲覧に供しました。生涯学習広場は市民一般に向けて、調査・資料室は研究者・大学生に加えて教育委員会等の行政職員に向けた情報提供を行っています。

現状と課題

市民が必要な情報を優先し収集・提供しています。今後、生涯学習に関する情報を必要とする市民はますます増加すると考えられるため、事業の継続が必要です。

5 学習相談事業

(1) 生涯学習相談

現在行っている事業

専門の生涯学習相談員を配置し、利用者の求めに応じて、面談・電話・FAX等による相談に対応しています。また、各区の区役所等に生涯学習相談員を派遣し、「生涯学習出前相談」を実施しています。生涯学習をはじめのきっかけをつかめるよう、また、より広く、深く理解してもらえるよう学習相談員により情報の提供を行いながら学習活動のサポートを行っています。

現状と課題

市民に対して個別相談に応じています。改正された社会教育法にも、学習相談が市町村の役割として明記されており、今後も事業を継続、拡充していく必要があります。

(2) ちば生涯学習ボランティアセンターの運営

現在行っている事業

ちば生涯学習ボランティアセンターは、公民館や学校、学習グループにおいて講師や助言者を必要としている市民と、知識や技能、経験があって、何か人の役立ちたいと考えている市民との橋渡しをすることを役目として設立されました。専門の職員を配置し、登録、コーディネート、相談等を行なっています。また、登録ボランティア向けの研修や、活動紹介の展示を行なうとともに、情報紙の発行、登録ボランティア自身が学習活動の紹介や発表を行う場であり、他の市民との交流を図る場でもあるボランティアパーク事業等も行なっています。

現状と課題

ちば生涯学習ボランティアセンターの利用者は年々増加傾向にありますが、まだ十分に活用されているとはいえません。今後も、更なる利用促進を図る必要があります。そのためには登録者のフォローとボランティアを利用したい市民のサポートを積極的に行なうことが必要です。

6 メディア学習事業

(1) メディア学習の推進

【パソコン講座、視聴覚事業、マルチメディア体験ブースの運営等】

現在行っている事業

市民から要望の高いパソコン学習やAV機器を使った新しい時代の学習活動を積極的に取り入れた学習機会を提供するとともに、視聴覚機器やコンピュータに関する学習教材の整備を行っています。

メディア学習では『パソコン講座』と『視聴覚事業』の大きく分けて、二つの事業を行っています。

パソコン学習については、能力に応じて効果的な学習ができるよう、各講座の難易度を、初級、中級、上級に分け、習熟度別の講座を実施しています。また、パソコンに関する市民自主企画講座も実施しています。

視聴覚事業については『視聴覚ライブラリー』、『映画鑑賞会』、『マルチメディアスペースの運営』に分かれています。

視聴覚ライブラリーの事業では、視聴覚教材や機材の貸出し、ビデオ等映像に関する学習、16ミリ映写機操作講習会などを実施しています。

映画鑑賞会では、生涯学習センターが所有する視聴覚教材を活用し、市民に名画の鑑賞機会を提供するため、メディアエッグやホールの大型画面で上映する映画鑑賞会を実施しています。

マルチメディアスペースの運営では、子どもから高齢者まで誰もが、インターネットやデジタルの映像を体験できる場を市民に無料で提供しています。

このほか、映像に関する講座を実施しています。

現状と課題

パソコン講座については市民のニーズも高く、開講数も多くなっています。一方で、当初計画されていたメディアリテラシー学習については現在のところ独立した講座としては行われていません。

現在、実技を中心とした講座としては、パソコン講座のみ実施しています。しかしながら、昨今の様々なメディア機器の登場とその普及により、他のメディア機器の学習を取り扱うことについても検討する必要があります。

パソコン講座は初級、中級、上級に分かれています。今後は、難易度別ではなく、内容別（操作講習、ワード、エクセル、情報表現発信等）の講座の開設について検討することも必要です。

映画鑑賞会やマルチメディア体験ブースに対する市民のニーズも高く、視聴覚機能を持った施設として、内容は充実しています。

7 施設管理運営事業

(1) 施設の維持管理業務

現在行っている事業

生涯学習の中核的施設として建設された生涯学習センターを市民に快適に利用していただくため、建築物の維持・保守、清掃、警備、植栽の維持、衛生管理、備品等の管理等を行っています。

現状と課題

必要な人材を確保し、「千葉市生涯学習センター管理運営の基準」及び関係法令を遵守して、これらを実施しています。

(2) 施設の貸出し等の管理業務

現在行っている事業

研修室等の各施設を、生涯学習活動のための場所を有料で提供しています。

生涯学習センターのホームページの運営を行い、主催講座・イベントの予定や施設案内等の情報をインターネットで配信しています。

平成20年度は、生涯学習センターの利用促進と認知度の向上を目的に、新聞広告、交通機関の中吊り広告を利用し、PRを図りました。

現状と課題

市民に対して、学習活動を行う場を提供しています。学習を行う市民や団体が主な利用者ですが、民間企業などの営利団体の利用もあり、その場合、割増料金を徴収しています。

市民意識調査の結果から、「生涯学習」の認知度は高いものの、「生涯学習センター」の認知度は低く、利用経験のある市民はさらに少なくなっています。多くの市民に活用される施設となるためには、積極的な広報・PRが必要です。

IV. 市民の現状～市民意識調査から～

(1) 調査の概要

この調査は、千葉市生涯学習センターにおける学習事業体系を見直し、新しい事業体系を構築するための基礎資料であり、市民に学習の機会を提供する機関として、今後の生涯学習センターが担うべき役割を明確にし、生涯学習センターと生涯学習に対する市民のニーズを把握することを目的に実施しました。

【調査実施概要】

調査種別		調査の対象	配布数	回収数	回収率	調査の方法
児童・生徒調査	小学生調査	対象校 各区から対象校1校を無作為抽出(全6校) 対象者 第4～6学年から1クラスを無作為抽出	571	548	96.0%	学校を通じて 依頼・回収
	中学生調査	対象校 各区から対象校1校を無作為抽出(全6校) 対象者 第1～3学年から1クラスを無作為抽出	589	554	94.1%	
	高校生調査	対象校 市内の高等学校3校 対象者 第1～2学年から各2クラスを無作為抽出	433	428	98.8%	
一般市民調査		対象者 無作為抽出した市内在住の19歳以上の男女 (1,500人)	1,500	569	37.9%	郵送による 配付・回収

【調査期間】

児童・生徒調査：平成19年12月17日～平成20年1月18日

一般市民調査：平成19年11月30日～平成19年12月17日

【調査票】

調査ごとに小学生・中学生・高校生・一般市民を対象とした4種類の調査票を作成。小学生調査及び中学生調査、高校生調査及び一般市民調査をそれぞれ同様の調査内容とし、年代による意識の差を分析しました。

(2) 調査結果の概要

本調査結果によると、「生涯学習」という言葉の認知度は9割近くにのぼっています。このことから、生涯学習についての認識は、少なからず市民に浸透しているといえます。しかし、「千葉市生涯学習センター」の認知度となると、認知度は半減し、5割を切っています。

現在行っている学習活動で最も多いのが「文化・芸術鑑賞」、「健康づくり」でした(一般市民調査)。しかし、「何も活動していない」と回答した市民も16.5%あり、これらの生涯学習活動を行っていない市民が、少しでも活動しやすい条件を整えるなど、事業や環境をさらに充実する必要があります。特に、生涯学習活動を行っていない層は、50歳以上の中高年齢層に多いことから、今後時間的余裕が出てくる層が興味を持ち、学習していくことで、それぞれの生きがいづくりの一助となるような事業が必要になってくると考えられます。

活動してよかったことをみると、多くの市民が「仲間が増えた」、「情報収集できる」などその活動の直接の効果だけでなく、活動することで得られる付随的なメリットをあげています。これからの生涯学習活動では、事業そのものの効果だけでなく、付加価値をつけていく必要があります。

また、児童・生徒調査の結果からは、生活を送るうえの悩みとして、「将来どんな職業につくか」が中学生、高校生で多くみられました。このことから、学校教育の中の職場体験などではカバーしきれない、働くことや職業について学習する機会を提供することが求められています。

生涯学習に興味のない市民に対しては、学ぶことの楽しさ、大切さを伝えるため、積極的な広報・PR 活動を行っていく必要もあります。

(3) 調査結果

生涯学習の認知度

「生涯学習」という言葉の認知度についてみると、小学生では 27.7%、中学生では 33.6%、高校生では 54.7%、一般市民では 89.1%と、年齢が高くなるにつれて認知度が高くなっています。一方、「千葉県生涯学習センター」の認知度について、高校生及び一般市民にたずねたところ、高校生では 24.3%の認知度、一般市民では 49.6%と約半数にとどまっています。

また、生涯学習センターの利用経験についてみると、高校生、一般市民ともに2割を下回っています。

図3 「生涯学習」の認知度

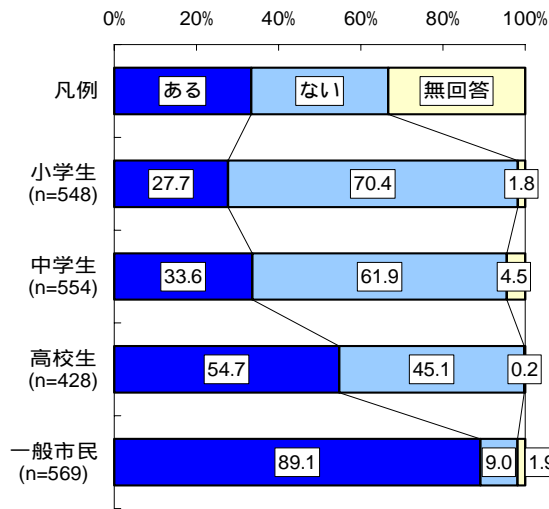


図4 生涯学習センターの認知度

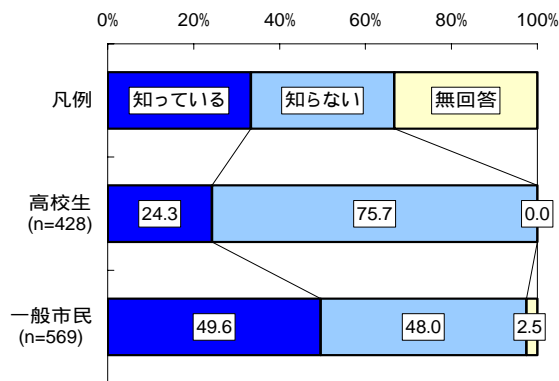
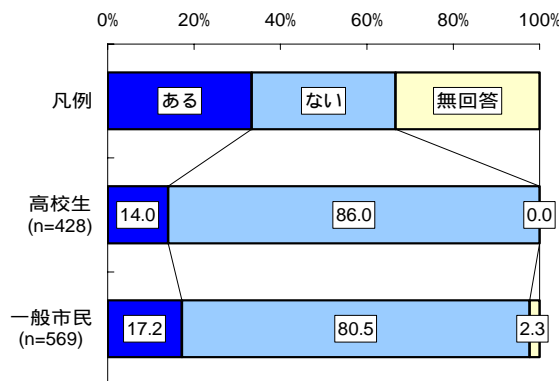
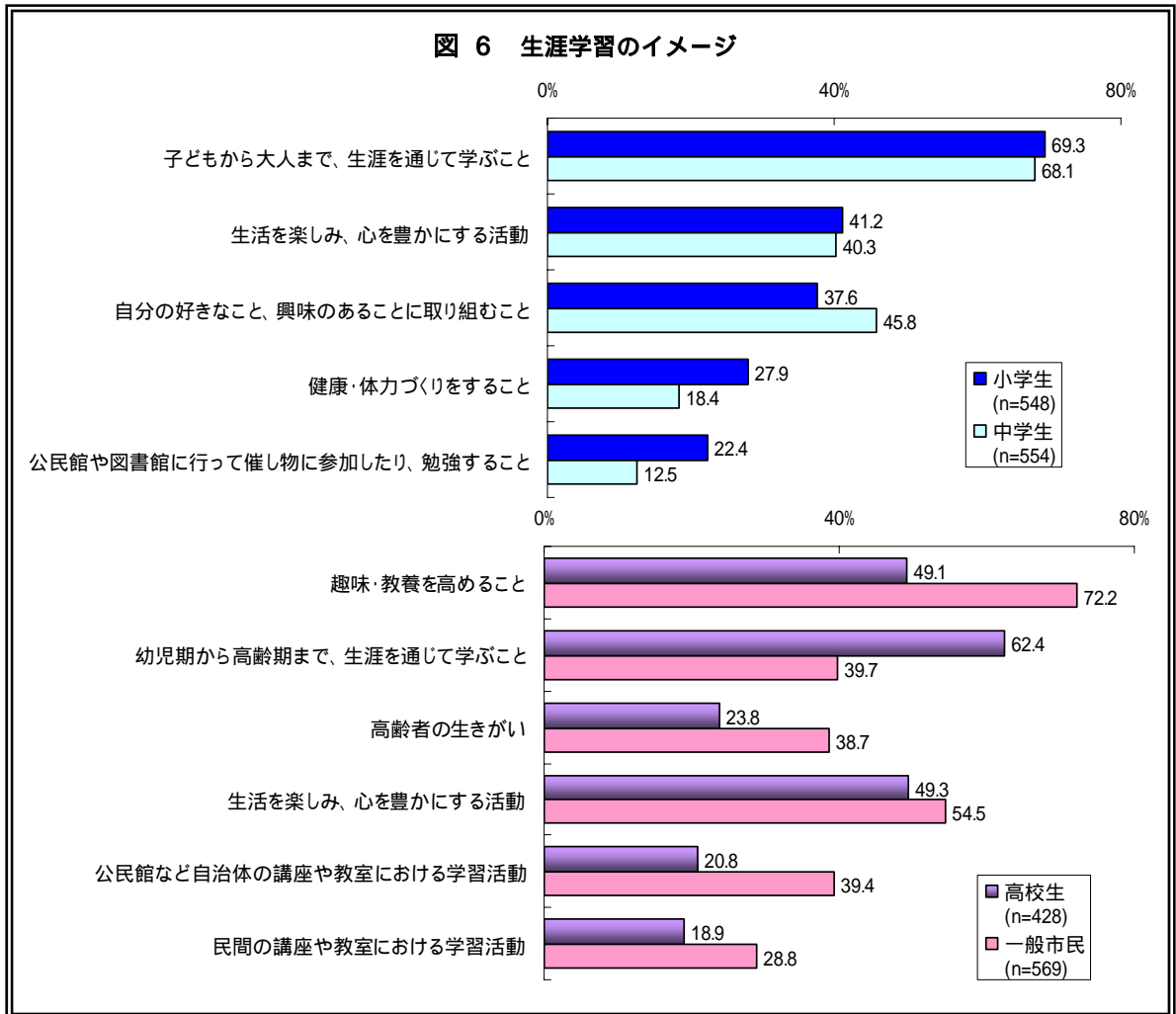


図5 生涯学習センターの利用経験



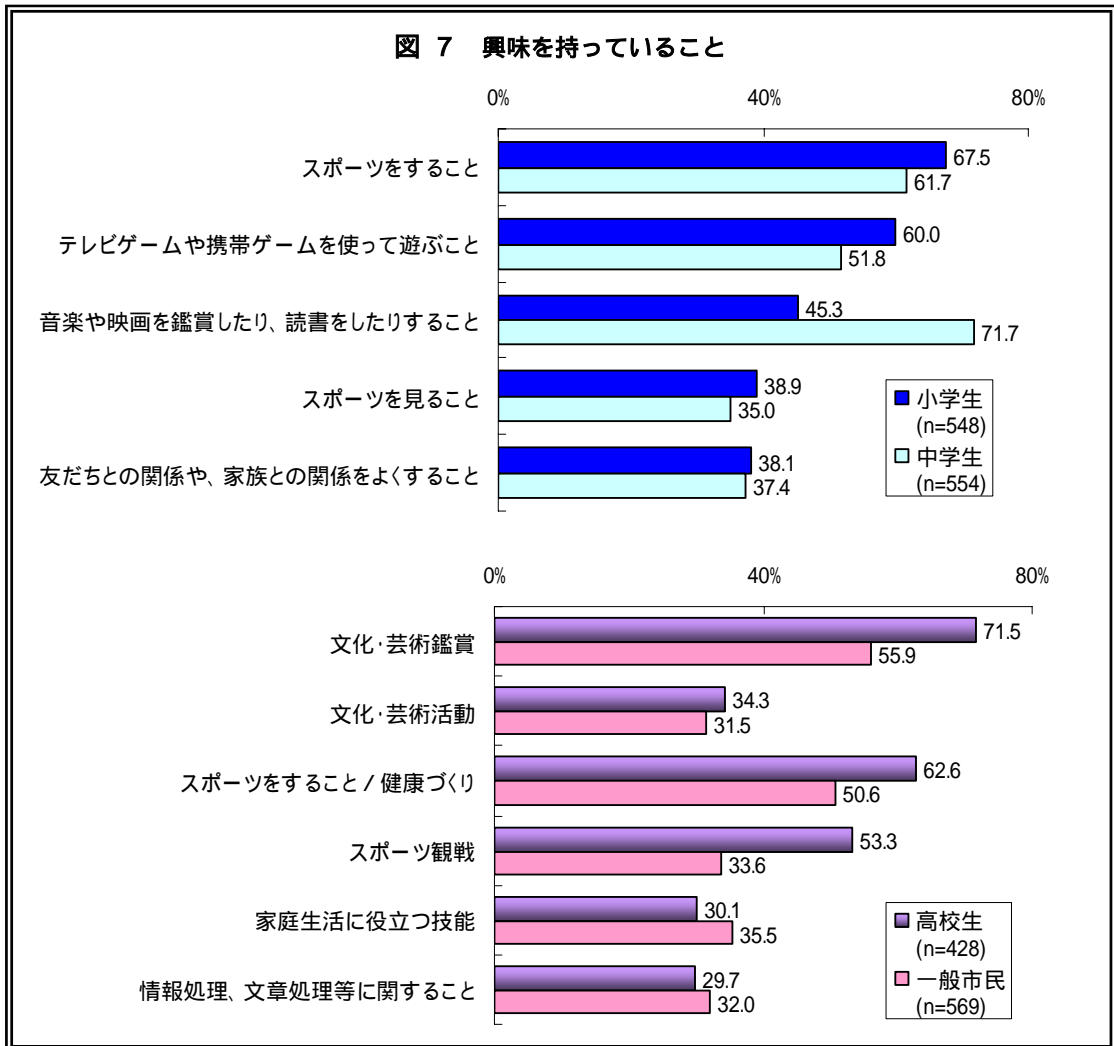
生涯学習のイメージ

小学生、中学生、高校生では年齢に関わらず“生涯を通じて学ぶこと”というイメージを持っている傾向がみられました。一方、市民の意識は「趣味・教養を高めること」が最も高く、7割を超えています。本来、生涯学習は、年齢や性別に関わりなく、生涯を通じて学び続けることであり、小学生～高校生の意識は本来の生涯学習の意味に近い結果となっています。反対に、一般市民は「趣味・教養」という特定の分野に意識が集中する結果となりました。



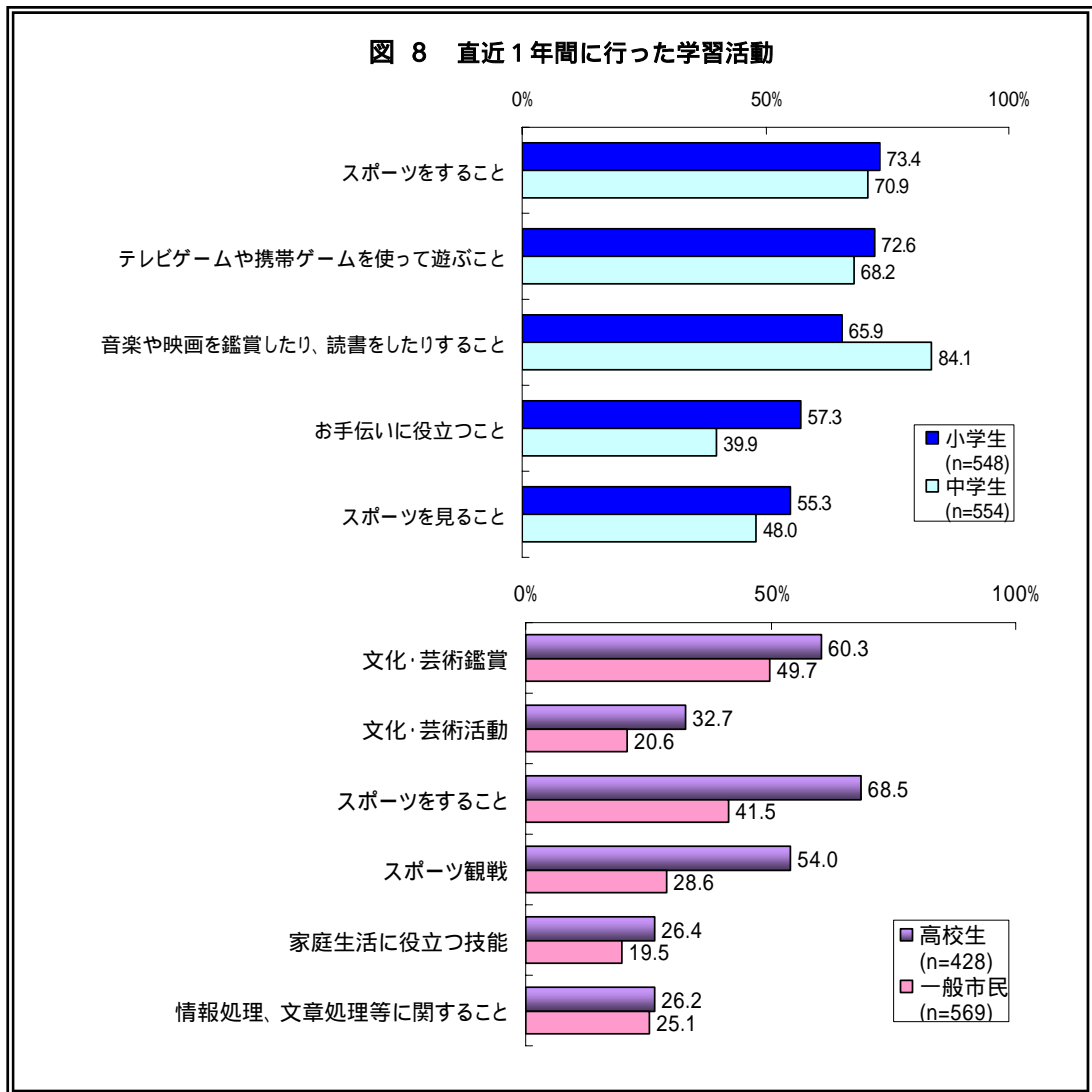
興味を持っていること

年齢にかかわらず、市民の文化・芸術鑑賞に対する関心が高くなっています。小学生では「スポーツをすること」が最も高くなっていますが、「音楽や映画を鑑賞したり、読書をしたりすること」も第3番目に上げられているうえ、中学生、高校生、一般市民調査でも「スポーツをすること」、「健康づくり」に対する関心は高くなっています。



直近1年間に行った学習活動

実際にこの1年間に行った活動をみると、どの層においても興味があることとおよそ一致しています。小学生、中学生は『興味を持っていること』の割合よりも、実際に行った学習活動の割合が高くなっていますが、高校生、一般市民は『興味を持っていること』の割合の方が高くなっています。このことから、小学生、中学生においては、“やりたいことができていない”といった現象はあまり起きていないと考えられますが、大人になるにつれて“やりたいけれど、実際活動するまでには至っていない”ケースが多くなると予測されます。

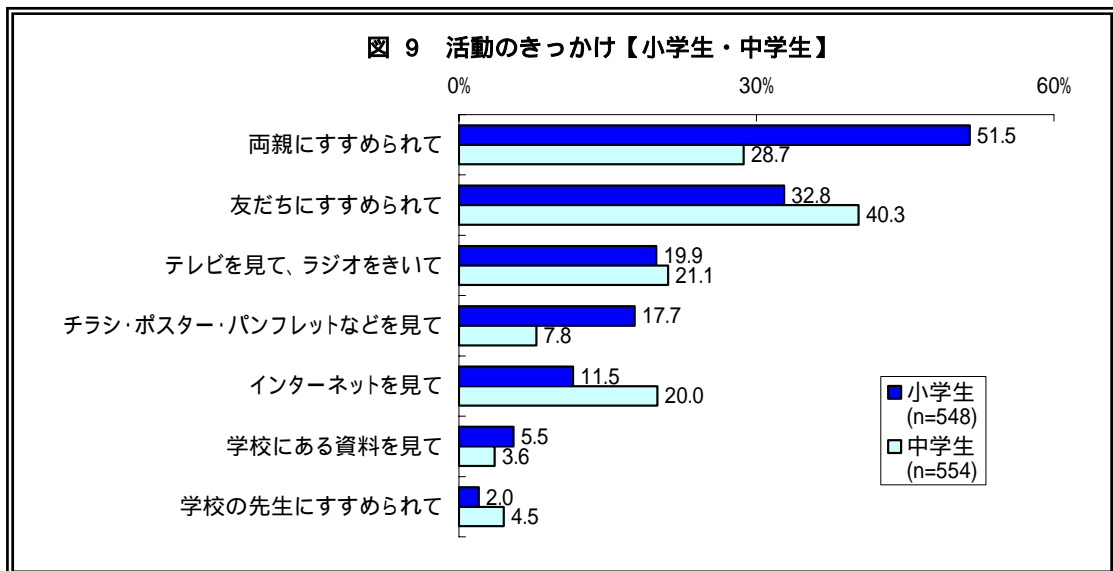


活動のきっかけ【小学生・中学生のみ】

活動をはじめたきっかけについてみると、小学生では「両親にすすめられて」、中学生では「友達にすすめられて」が最も高くなりました。小学生は保護者の影響を、中学生は友人の影響を受けやすいと考えられます。

ラジオやテレビなど、チラシやポスターなどもそれなりの割合を占めている一方で、「学校にある資料をみて」、「学校の先生にすすめられて」の割合は低く、生涯学習活動については学校から活動のきっかけを得るケースは少ないものとみられます。

その一方で、中学生では「インターネットを見て」が2割を占めるなど、インターネットの利用が中学生にも広がってきていることがうかがえます。



活動をしていて良かったこと

活動をしていて良かったことについては、属性にかかわらず、挙げられた意見は共通しています。「体力がついた」、「健康によい」、「勉強になった」、「将来の役に立つ」、「友人ができた」、「活動が楽しいなど」の意見が多く回答されました。生涯学習のメリットは年齢や属性にかかわらずおよそ共通していることが明らかとなりました。

図 10 活動していて良かったこと

小学生		高校生	
意見内容	件数	意見内容	件数
友達ができた	73	体力がついた	37
勉強ができるようになった・勉強がいやではなくなった	27	活動が楽しい	32
活動が(もっと)好きになった	24	友達ができた	27
活動が楽しい	22	知識が身に付く	18
体力がついた	20	ストレス解消になる	8

中学生		一般市民	
意見内容	件数	意見内容	件数
体力がついた	43	健康になった	38
活動が楽しい	42	友人ができた	26
将来の役に立つ・勉強になった	34	視野が広がる、情報収集できる	24
仲間とのコミュニケーションがとれる	23	仕事で役に立つ	23
ストレス解消になる	13	活動が楽しい	22
良い経験ができる	8	ストレス解消になる	21

活動形態

実際に行った活動の形態は小学生では「習い事」という回答が多く、中学生以上については「部活動」や「同好者の集まり」など、活動が好きな人が集まって行うケースが多く見られました。しかし、一般市民調査の詳細を見ると、男性、会社員、20歳代、30歳代などの年齢の低い層は、「インターネットを利用」している割合が最も高いなど、属性によって活動形態は異なることがわかりました。

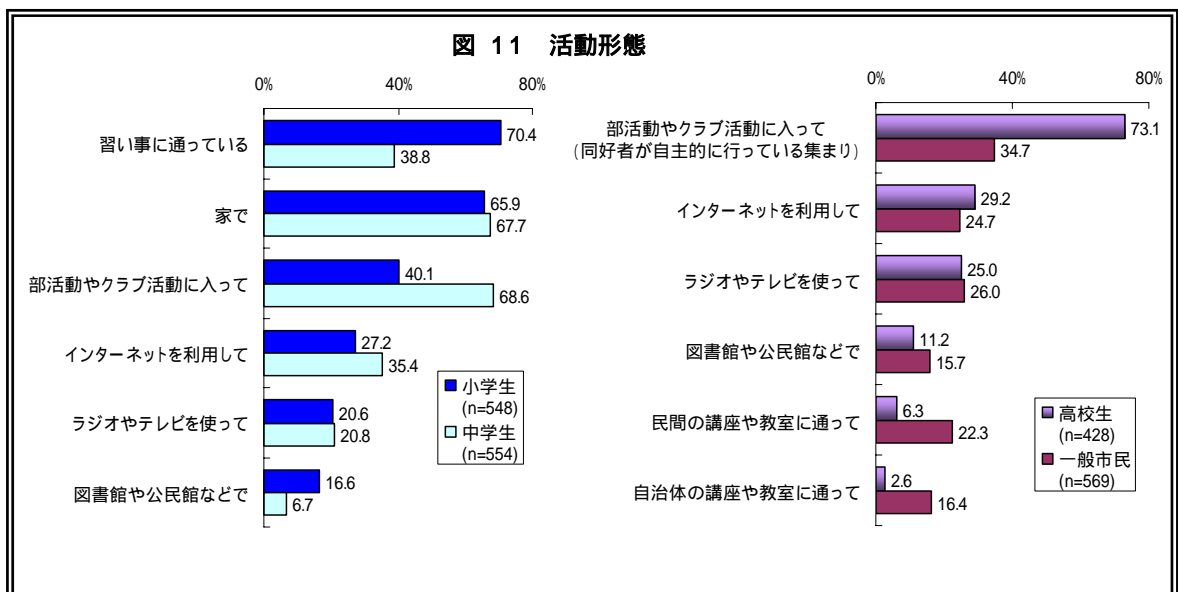
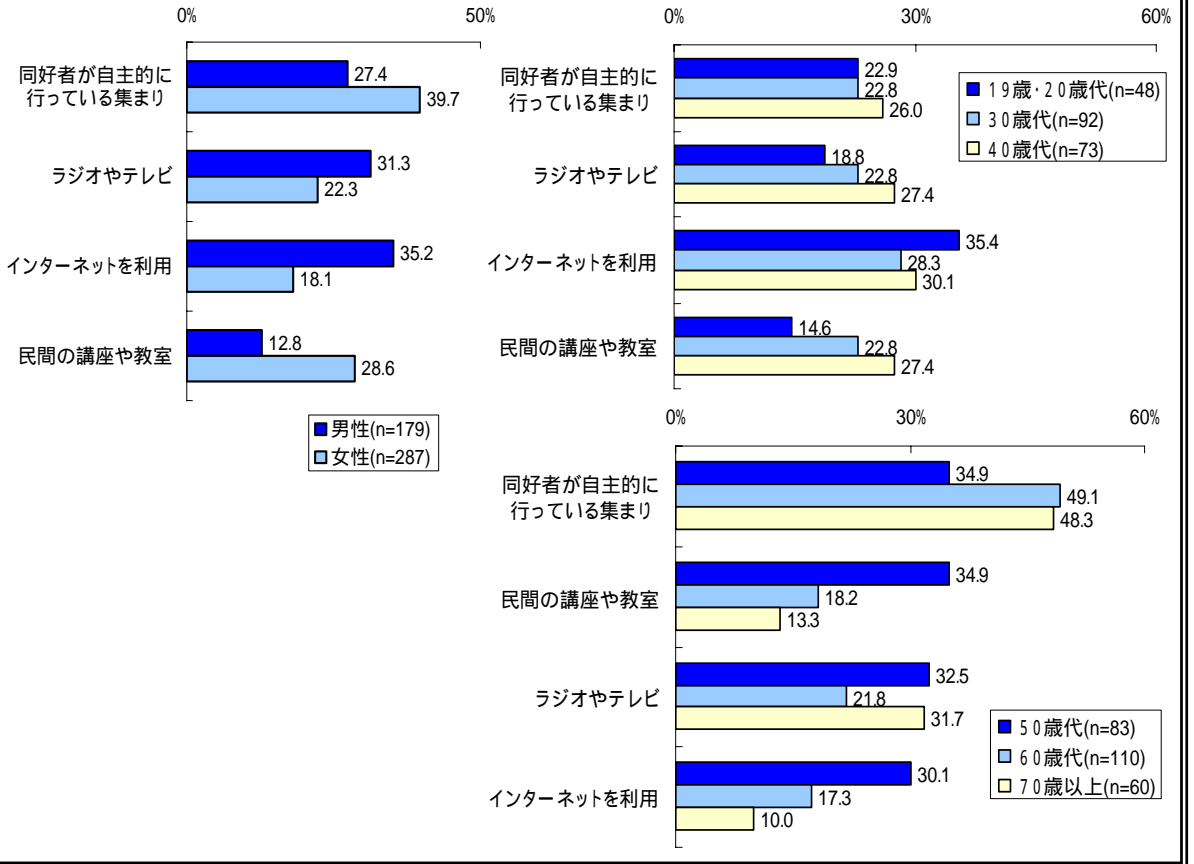


図 12 活動形態・一般市民調査属性別回答



日常生活で不安なこと

日常生活において不安に感じていることは、年齢層によって大きく異なることが明らかとなりました。小学生については「強盗、殺人などの犯罪」の他に、環境問題や災害など社会問題的なことについても関心が高いことが注目されます。一方で、将来の進路について方向性が定まっていない中学生、高校生は、将来の職業についての不安が圧倒的に高く、特徴的でした。

一般市民は「健康」や「老後」などが高く、将来の自分の生活や体について不安を抱えているという意味では、将来のことが不安という中高生と意見が共通しています。『興味を持っていること』の回答で、健康づくりの割合が高かったのも、健康や老後に不安があることが背景と考えられます。

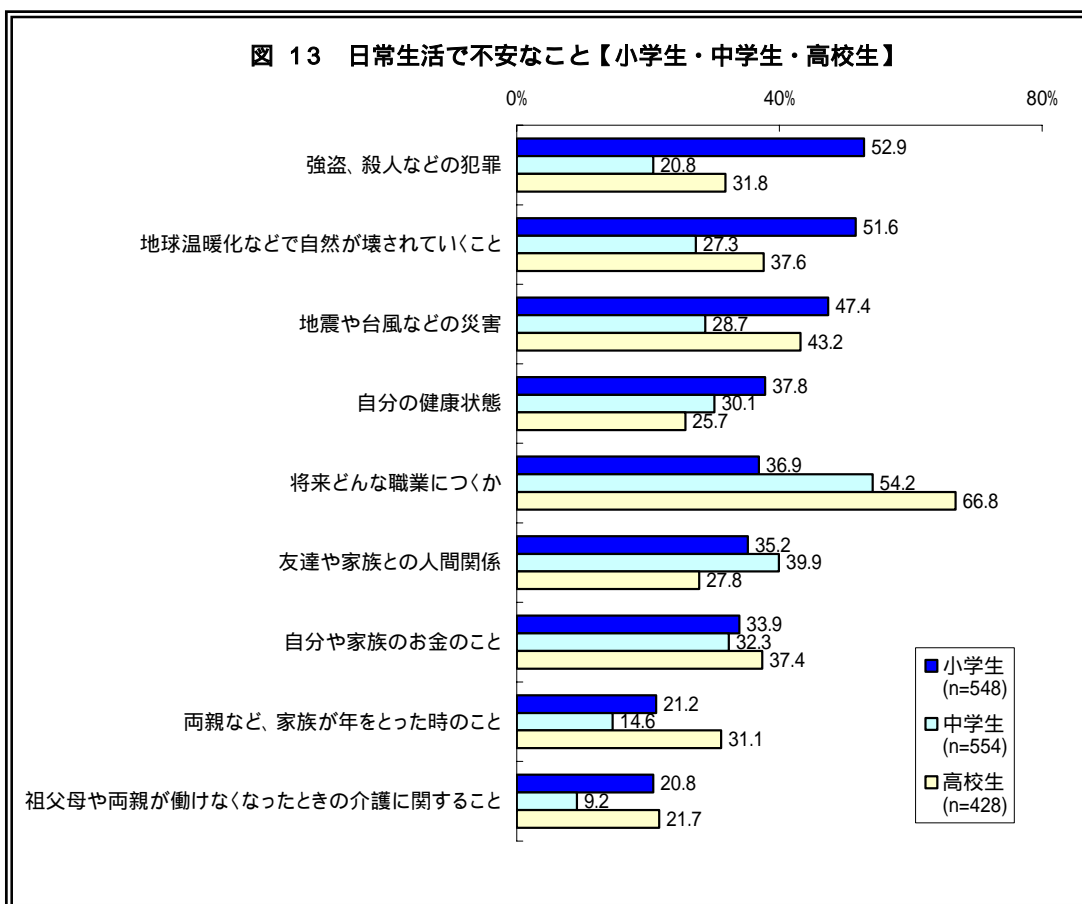
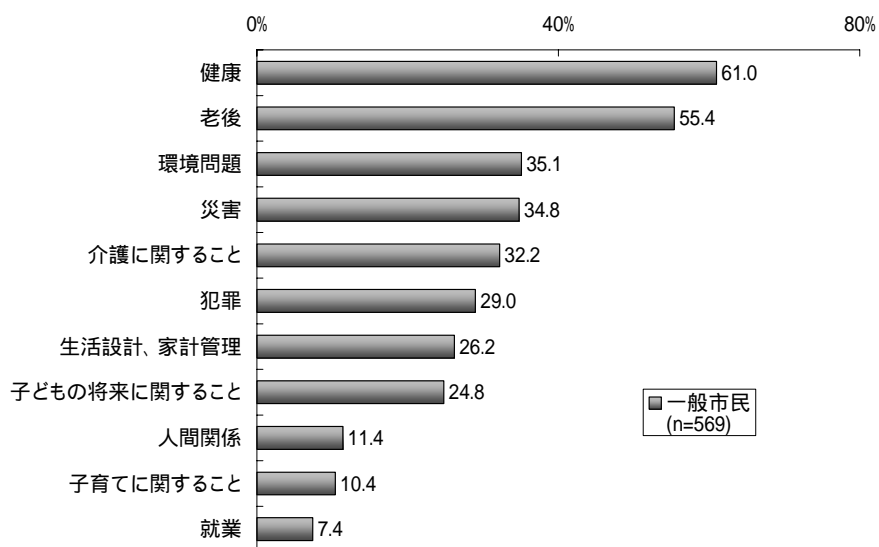
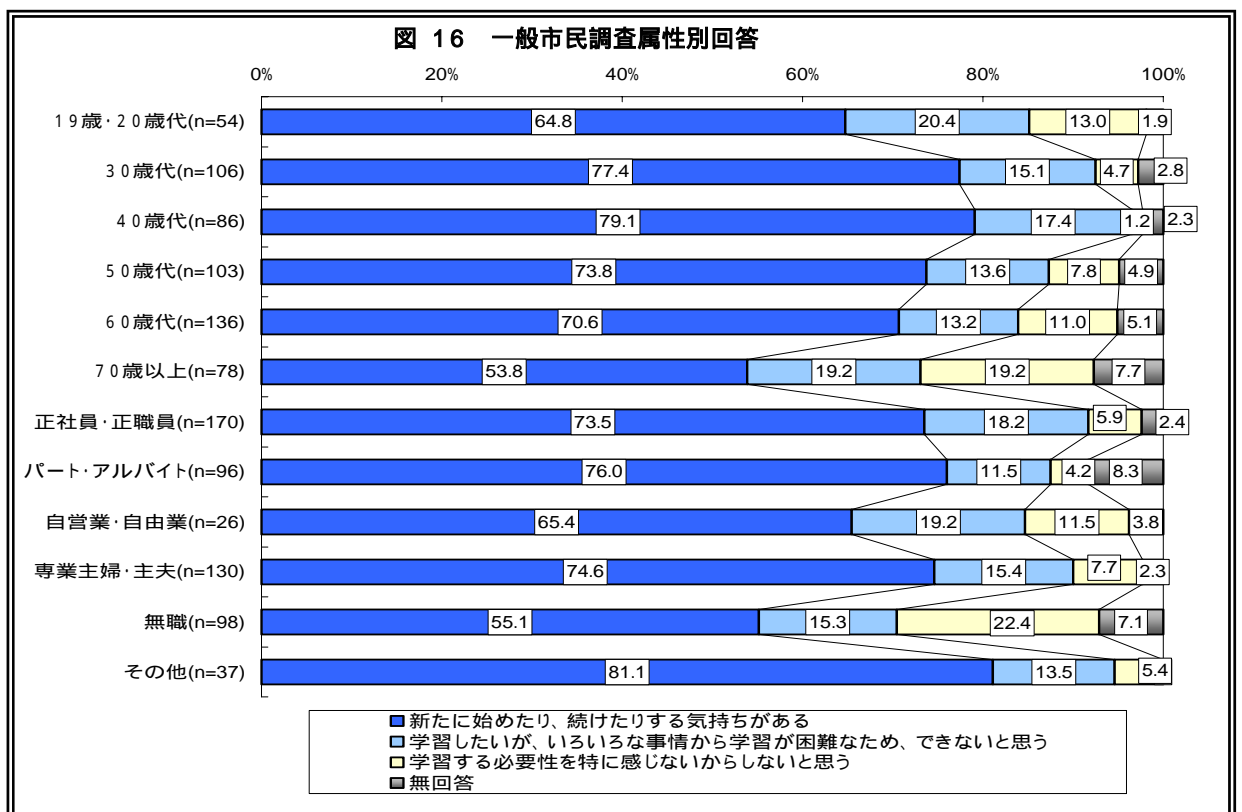
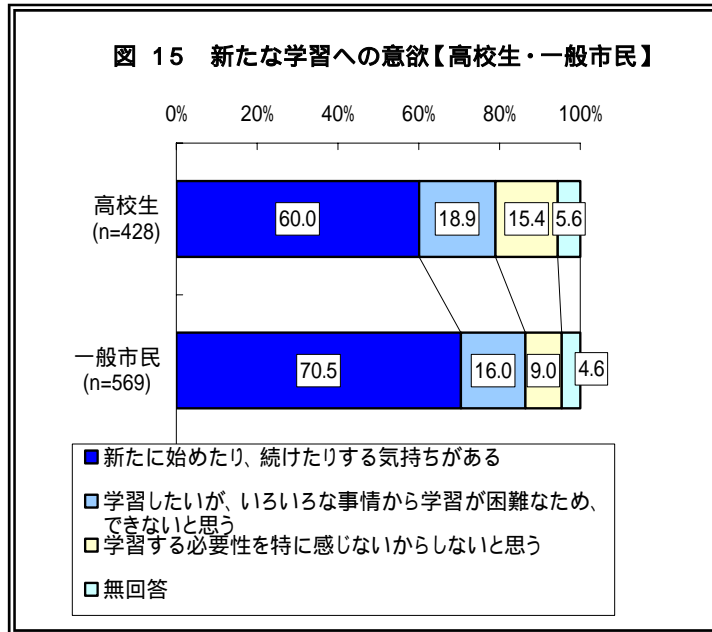


図 14 日常生活で不安なこと【一般市民】



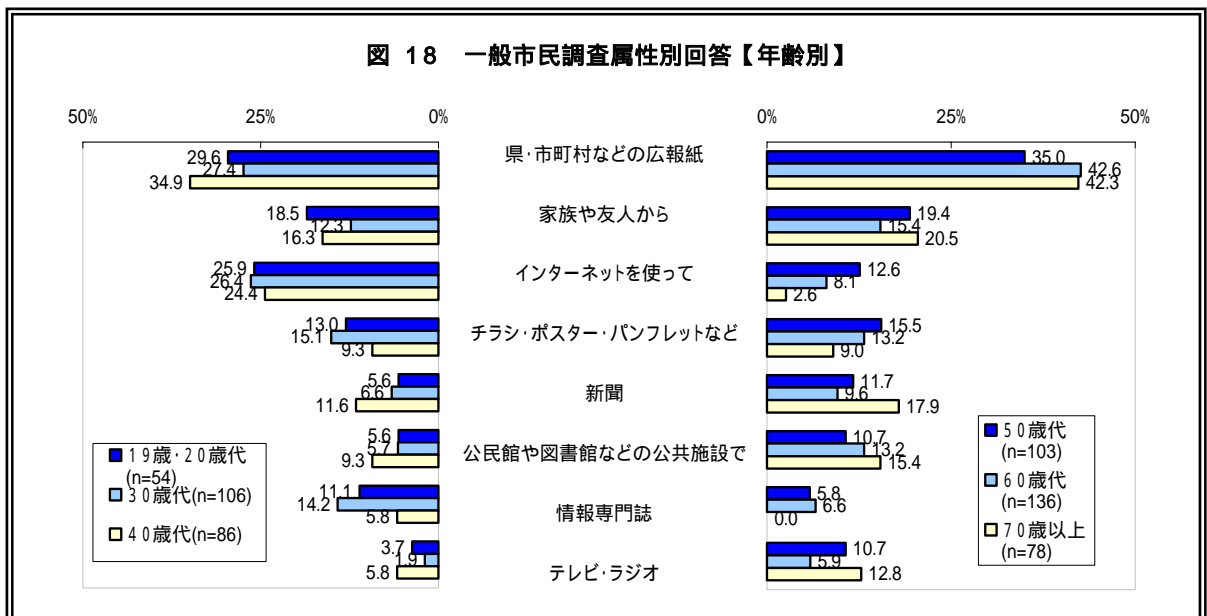
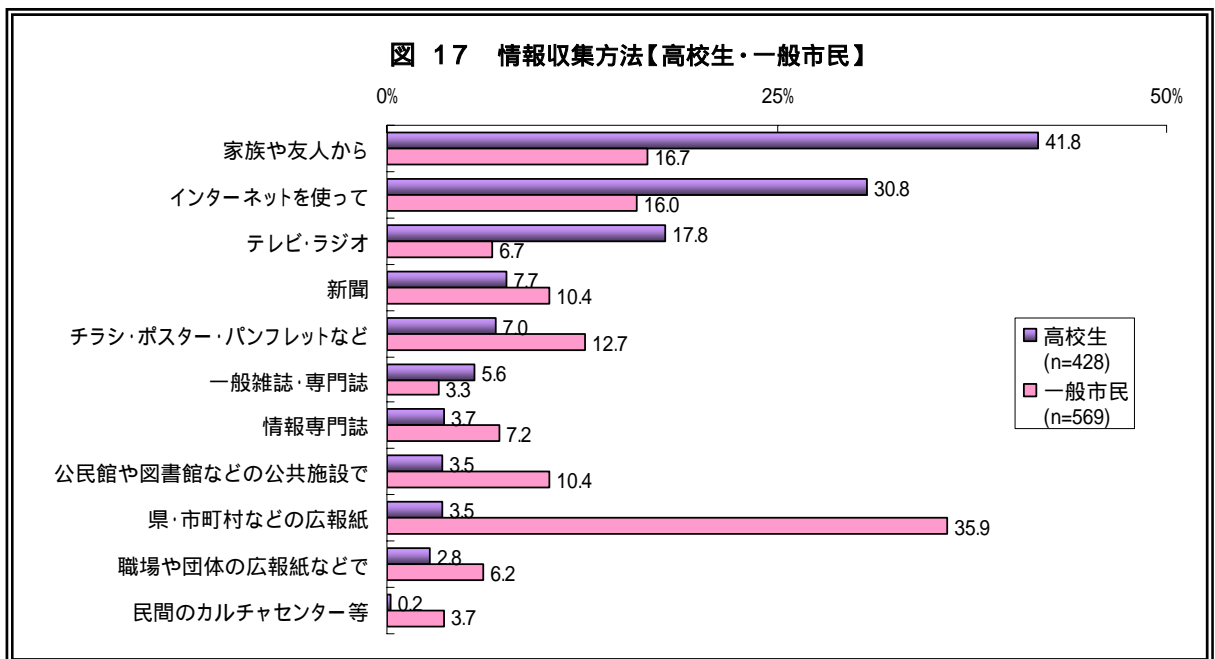
新たな学習への意欲【高校生・一般市民のみ】

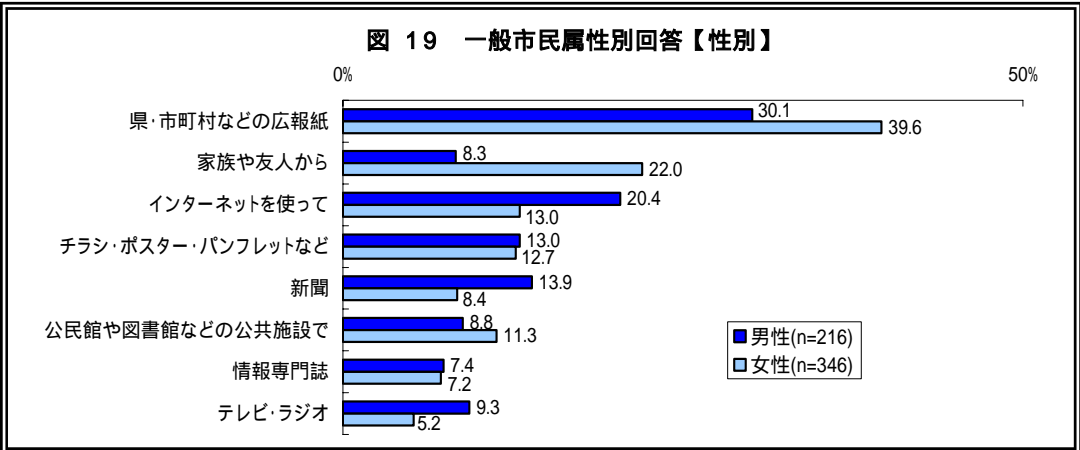
高校生、一般市民ともに、新たな学習への意欲を持っている回答者が多い傾向がみられました。しかし、一般市民調査の回答別属性をみると、年齢の高い70歳以上や、職業では無職の人において、「新たな学習は必要ない」と考えている人が多く、年代や職業、生活スタイルによって生涯学習に対する意欲が異なっていると考えられます。



情報収集方法【高校生・一般市民のみ】

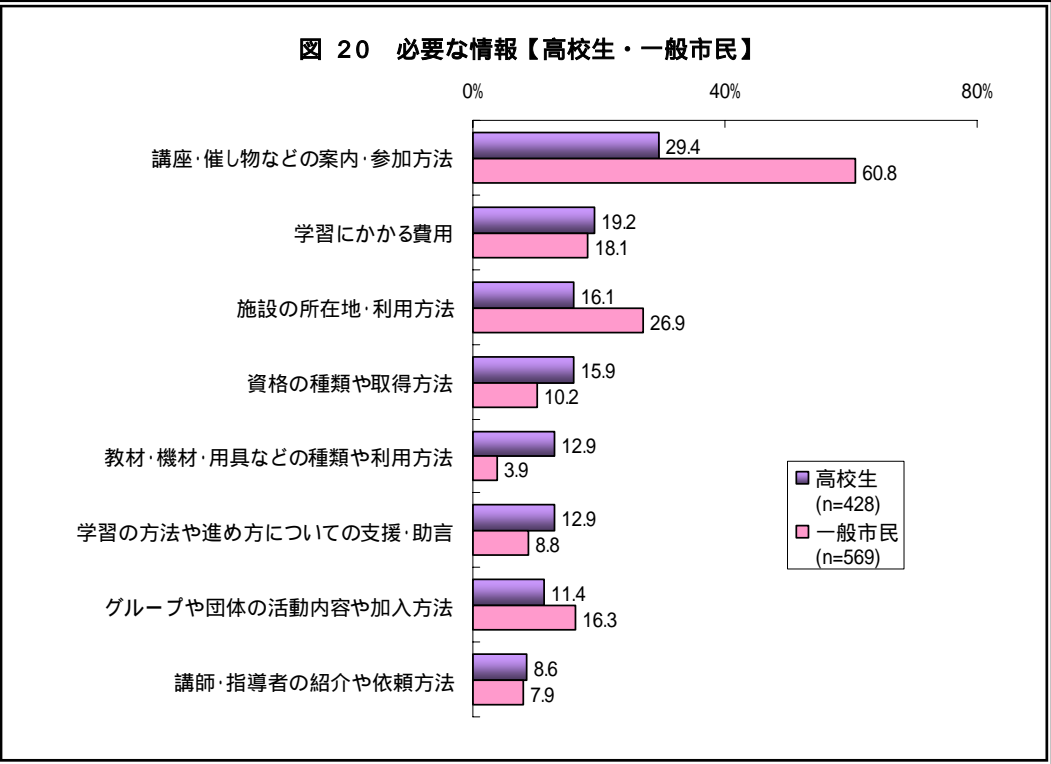
生涯学習に関する情報をどのように得ているかについてみると、高校生と一般市民では主たる情報源が異なっています。市民については、県・市町村の広報紙による情報の入手が主たる情報源となっていますが、属性によってインターネットと回答する者も多く、インターネットに対するニーズは高いといえます。また、高校生については、今後も家族や友人などをたよりに、生涯学習に関する情報を得ていく傾向は根強いものと考えられますが、第2番目に「インターネットを利用して」が入っており、インターネットの利用が進んでいることがうかがえます。





必要な情報【高校生・一般市民のみ】

高校生、一般市民ともに最も必要だと感じている情報は「講座・催し物などの案内・参加方法でした。何か学習を始めるにあたって、講座やイベントなど、学習のきっかけを与えてくれる場所や機会を欲しているといえます。



V. 受講者アンケート

1 調査概要

(1) 調査方法

- ・ 講座より平均 20 サンプルを無作為抽出。
- ・ 母集団が 20 に満たない場合は、講座の全サンプルを調査対象としました。
- ・ 講座により、一部設問について異なる部分がありますが、共通の設問のみを集計対象としました。

(2) 調査期間

- ・ 平成 20 年 4 月～10 月

(3) 調査対象

- ・ 平成 20 年 4 月～10 月に実施された講座の受講者。
- ・ 受講後のアンケートを対象としました。
- ・ アンケートの書式が極端に違う講座については調査対象外としました。

(4) 調査項目

- ・ 性別
- ・ 年齢
- ・ 居住区
- ・ 講座の情報入手経路
- ・ 満足度
- ・ 参加回数（一部）

(5) 集計にあたって

- ・ 講座により、全ての問を設けていない場合があり、集計上「無回答」に計上されるため、無回答の割合が高くなる場合があります。
- ・ その際は、無回答を除いた割合を集計結果として採用しています。

(6) 調査対象講座

1 【ちばカレッジ】

講座・行事名	対象
ちばカレッジ ちばの大地と自然	市民
ちばカレッジ おゆみ	市民

2 【子育て支援】

講座・行事名	対象
わらべうたと絵本の会	1歳児とその保護者 2歳児とその保護者
知ろう！話そう！PTA！～PTA役員研修会2008～ とっても簡単！子育て手作り絵本講座	PTA・保護者会新任役員 市民
子育てママの自分を楽しむ11の話～子どもと一緒に大きくなる～	10歳以下の子どもを持つ 保護者

3 【青少年育成】

講座・行事名	対象
環境学習講座「地球は、みんなのおともだち」	小学2年生～ 中学3年生
子ども科学講座「電気をつくろう」	小学4年生～ 中学3年生
子どもチャレンジ教室・ 「かぶき」をみよう～国立劇場歌舞伎鑑賞教室	小学生～中学生
子どもチャレンジ教室・ 千葉公園を歩いて「世界に1つの本をつくろう」	小学3年生～ 小学6年生
子どもチャレンジ教室・フィンガーペインティングで 「みんなの木」をかこう	小学生

4 【高齢者生きがいづくり学習】

講座・行事名	対象
まなびサポーター企画講座 デジカメピクニック	60歳以上
まなびサポーター企画講座 わかばマークの学習ボランティア～仲間といっしょに地 域デビュー～	55歳以上

5 【各種機関との連携】

講座・行事名	対象
ガス管をリサイクルしてペンダントを作ろう！（東京ガスと の連携事業）	小学3年生～ 小学6年生 保護者も可
植草学園大学・短期大学公開講座「日用品で楽しめる簡 単マジック - 子どもと仲間と楽しもう！ - 」	市民

6 【指導者の養成】

講座・行事名	対象
公民館職員研修 - 公民館基礎研修	公民館職員等
公民館職員研修 - 館長研修	公民館長等
公民館職員研修 - 学習プログラム立案基礎研修	公民館職員等

7 【学習ボランティア活動の支援】

講座・行事名	対象
施設ボランティア養成研修基礎講座（対象施設：生涯学習センター・加曽利貝塚博物館）	18歳以上(高校生不可)で研修修了後ボランティアとして活動できる人
施設ボランティア養成研修基礎講座（対象施設：生涯学習センター・中央図書館）	18歳以上(高校生不可)で研修修了後ボランティアとして活動できる人(中央図書館は20歳以上)
まなびサポーターフォローアップ研修	まなびサポーター(非公募で実施)
生涯学習ボランティア基礎研修「ワード de ちらし」	ちば生涯学習ボランティアセンター登録者
生涯学習ボランティア基礎研修「講座で使えるスライドショーとテキストの作成」	ちば生涯学習ボランティアセンター登録者
生涯学習ボランティア基礎研修「ボランティア講師のためのユーモア講演術」	ちば生涯学習ボランティアセンター登録者・市民

8 【市民自主企画講座】

講座・行事名	対象
市民自主企画講座 傾聴講座	20歳以上
市民自主企画講座 食料問題と地球環境～エコで安心安全な食生活とは～	18歳以上
市民自主企画講座 PTA・子ども会等に役立つ井戸端会議を仕切る術	子育てサポート活動に携わっている人
市民自主企画講座 国際交流イベントコーディネーター養成講座	小学生以上の子どもとその保護者
市民自主企画講座 人間関係が潤うカウンセリングとアロマ療法入門	20歳以上
市民自主企画講座 ナチュラル・ライフを楽しみま専科 ～ 私達の生活が世界を変える2008～	乳幼児を持つ20～40代の保護者
市民自主企画講座 知ればなるほどまちの魅力 ～まちづくりコト始めのマップ作り～	市民
市民自主企画講座 ゲームで創る良い人間関係 『遊んで、笑って、コミュニケーション』	小学生から年齢に関係なくどなたでも(簡単な動きが出来る方)

9 【発表・鑑賞機会の提供】

講座・行事名	対象
やすらぎのアトリウムコンサート	市民
けやきコンサート (千葉県消防音楽隊による)	市民
国際音楽の日ミュージックフェスタ	市民

10 【パソコン講座】

講座・行事名	対象
入門パソコン操作A ・	成人
入門パソコン操作B ・	成人
子どもパソコン講座	小学4～6年生
親子パソコン講座	未就学児と保護者
ワード2003であいさつ ・	成人
ワードでチラシ作成 デジカメと写真集づくり ・	成人
デジカメと紀行文づくり ・	成人
(の講座名は「デジカメの基礎と活用」) マウスで水彩画 ・	成人
ホームページ作成講座 ・	成人
フォトショップエレメンツ基礎 ・	成人
エクセル自動計算 書類の作成 ・	成人
まなびサポーター企画講座 ワード2007入門	成人
まなびサポーター企画講座 ワード2003で日本画を描きましょう	成人

2 調査結果

(1) 全体の概要

集計結果

サンプル数	924件
集計対象講座数	56講座

- ・講座によって設問が設定されていない場合、無回答にて取り扱うものとします。
- ・そのため「年齢」以外の項目は、無回答を除いたサンプルを母数とした割合を集計結果として採用しています。

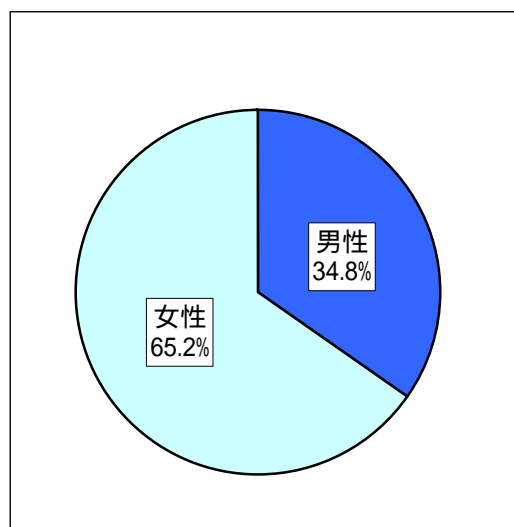
性別

受講者の性別は男性が 34.8% (256 件)、女性が 65.2% (480 件) でした。

図 21 性別 (全体・n=736)

	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	256	27.7	34.8
2	女性	480	51.9	65.2
	無回答	188	20.3	
	サンプル数	924	100.0	736

*無回答には調査票に本問が含まれていなかったサンプルを含む



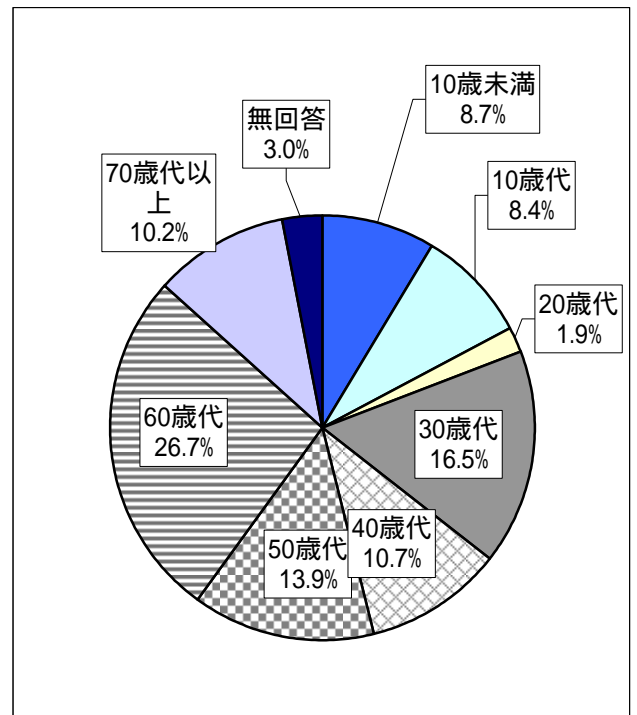
年齢

受講者の年齢は 10 歳未満が 8.7% (80 件)、10 歳代が 8.4% (78 件)、20 歳代が 1.9% (18 件)、30 歳代が 16.5% (152 件)、40 歳代が 10.7% (99 件)、50 歳代が 13.9% (128 件)、60 歳代が 26.7% (247 件)、70 歳代以上が 10.2% (94 件) でした。

構成比を見ると、60 歳代が 4 分の 1 を占めており、20 歳代が少なくなっています。

図 22 年齢 (全体・n=924)

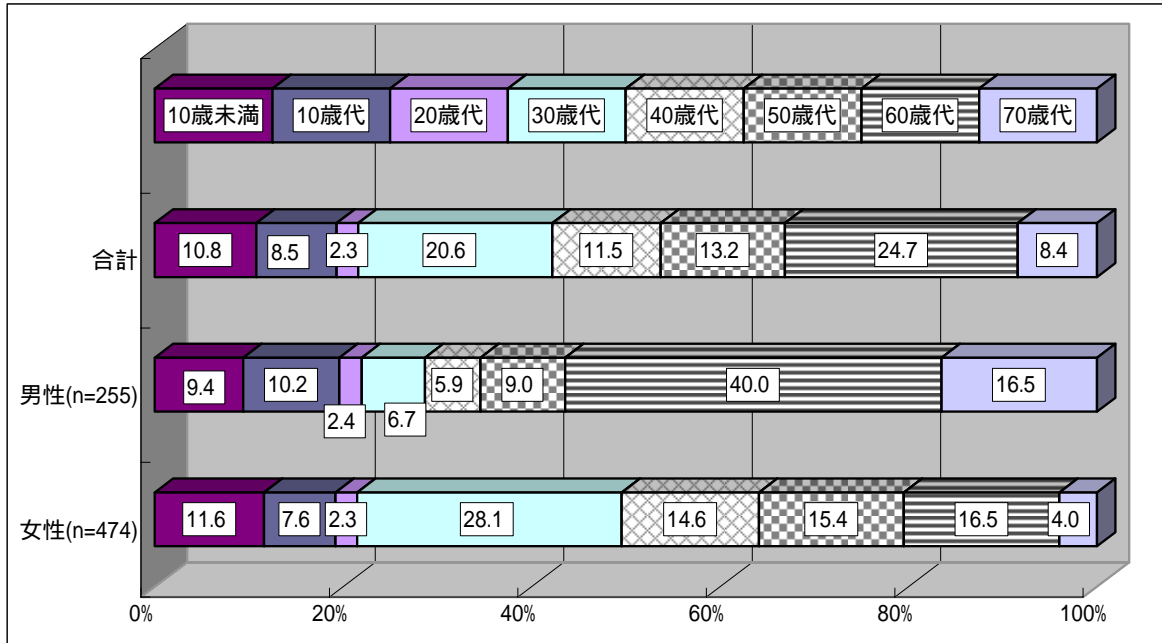
	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	10歳未満	80	8.7	8.9
2	10歳代	78	8.4	8.7
3	20歳代	18	1.9	2.0
4	30歳代	152	16.5	17.0
5	40歳代	99	10.7	11.0
6	50歳代	128	13.9	14.3
7	60歳代	247	26.7	27.6
8	70歳代以上	94	10.2	10.5
	無回答	28	3.0	
	サンプル数	924	100.0	896



男女別の年齢構成比をみると、男性では 60 歳代が最も高く 40.0%、次いで 70 歳代以上が 16.5%とリタイア世代の割合が高くなっています。一方、30 歳代～50 歳代の働き盛りの世代の受講率は低くなっています。

他方女性は 30 歳代が最も高く 28.1%、次いで 60 歳代が 16.5%、50 歳代が 15.4%、40 歳代が 14.6%と男性とは異なる傾向がみられ、女性は子育て世代の参加者も多いことがわかります。

図 23 年齢（性別・全体）



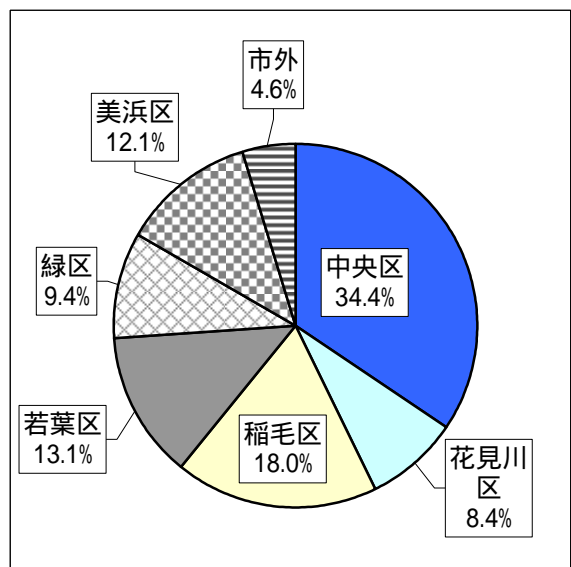
住所

受講者の住所は中央区が最も多く 34.4% (204 件)、次いで稲毛区が 18.0% (107 件)、若葉区が 13.1% (78 件)、美浜区が 12.1% (72 件)、緑区が 9.4% (56 件)、花見川区が 8.4% (50 件)、市外が 4.6% (27 件)でした。

図 24 住所（全体・n=594）

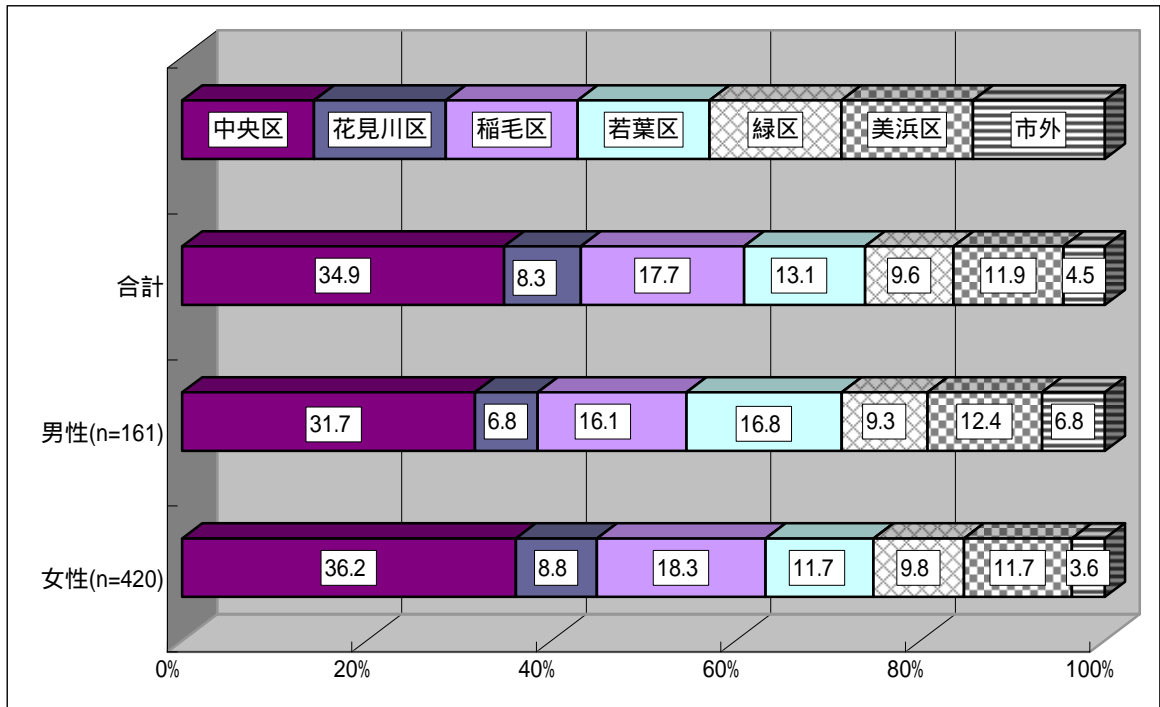
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 中央区	204	22.1	34.4
2 花見川区	50	5.4	8.4
3 稲毛区	107	11.6	18.0
4 若葉区	78	8.4	13.1
5 緑区	56	6.1	9.4
6 美浜区	72	7.8	12.1
7 市外	27	2.9	4.6
無回答	330	35.7	
サンプル数	924	100.0	594

* 無回答には調査票に本問が含まれていなかったサンプルを含む



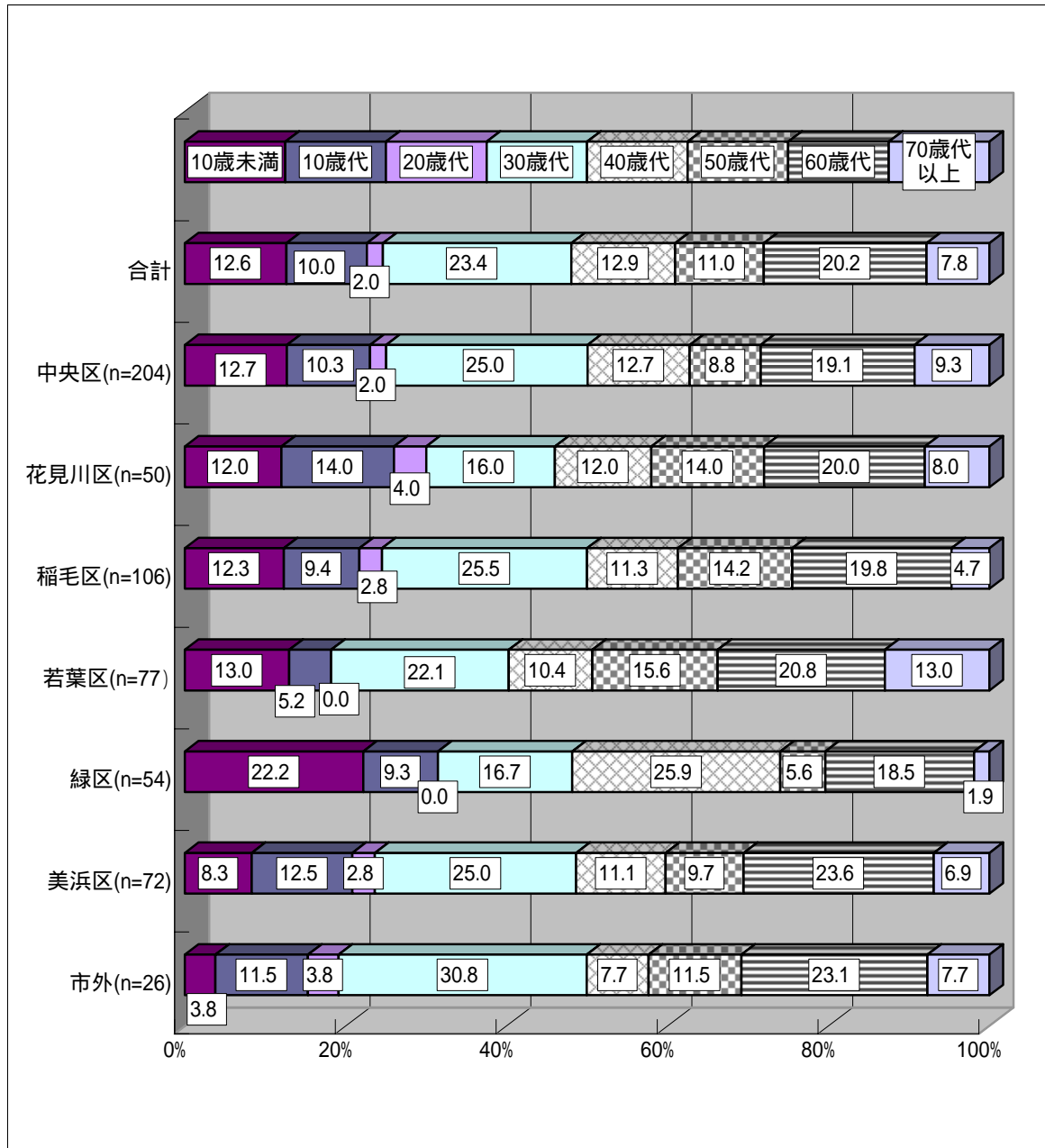
男女別に住所をみると、市内では男女ともに中央区が最も高く、花見川区が最も低くなっており、男女で大きな差はみられません。

図 25 住所（性別・全体）



住所別に年齢をみると、中央区、稲毛区、若葉区、美浜区、市外では30歳代が最も高く、花見川区では60歳代、緑区では40歳代が最も高くなっています。緑区については10歳未満が22.2%と他地区と比較して高くなっています。

図 26 年齢（住所別・全体）

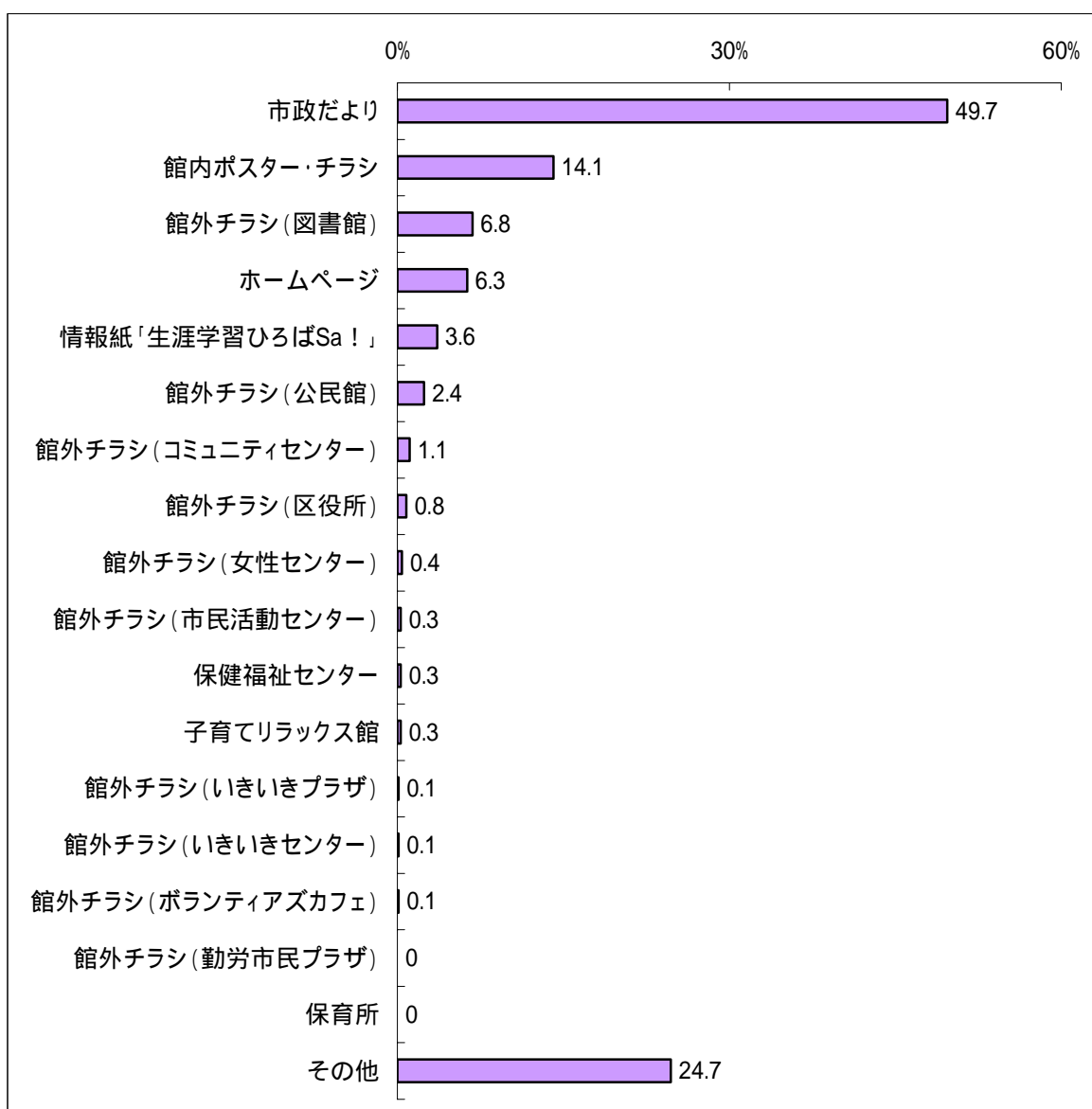


入手経路

講座の情報を入手した経路についてみると、「市政だより」が目立って高く49.7%でした。次いで「館内ポスター・チラシ」が14.1%、「館外チラシ(図書館)」が6.8%、「ホームページ」が6.3%などとなっています。

半数近くが「市政だより」に拠る情報入手となっており、他の広報媒体を入手経路とする受講者は多くありません。また、講座によって特別な情報源(本調査では「その他」に含む)により受講している者も多く、安定した情報源が不足しているともいえます。今後、市政だより以外のPR方法を検討する必要があります。

図 27 入手経路(全体・n=717)

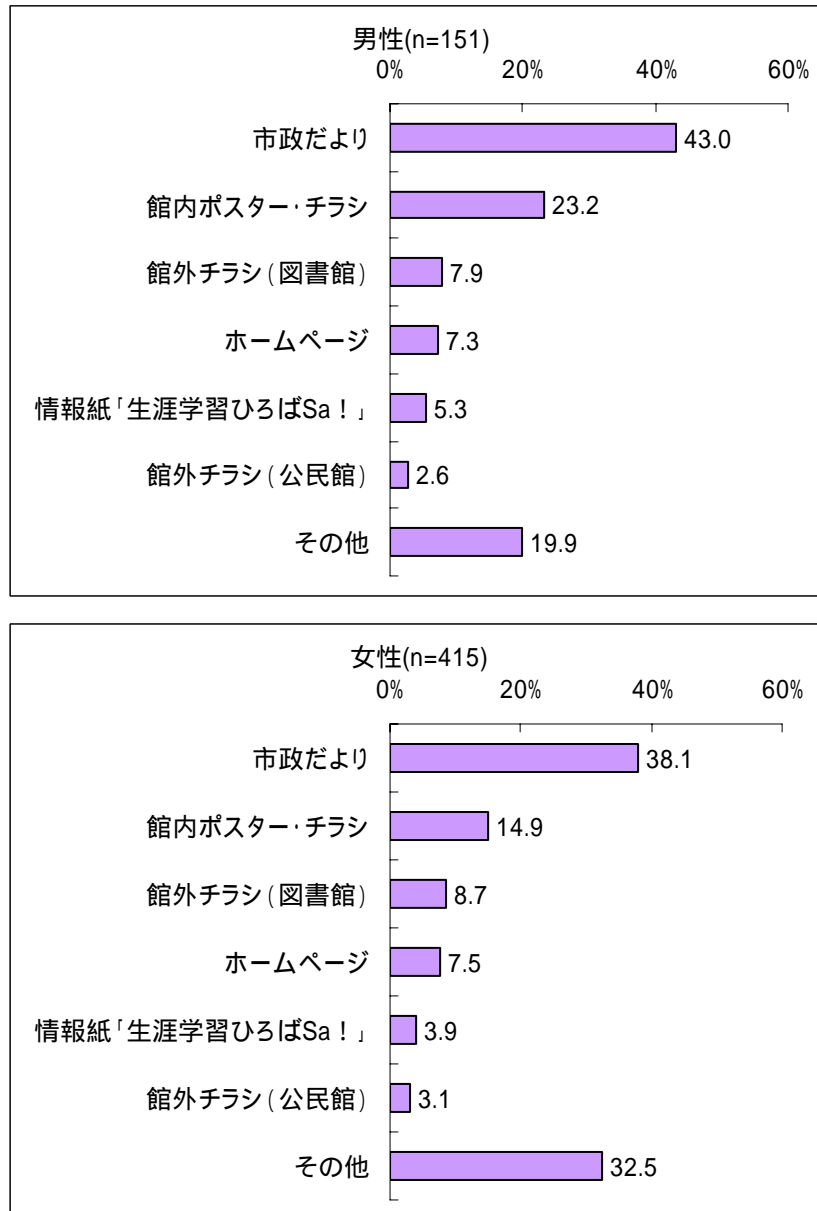


	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	市政だより	356	38.5	49.7
2	ホームページ	45	4.9	6.3
3	情報紙「生涯学習ひろばSa!」	26	2.8	3.6
4	館内ポスター・チラシ	101	10.9	14.1
5	館外チラシ(公民館)	17	1.8	2.4
6	館外チラシ(コミュニティセンター)	8	0.9	1.1
7	館外チラシ(図書館)	49	5.3	6.8
8	館外チラシ(区役所)	6	0.6	0.8
9	館外チラシ(いきいきプラザ)	1	0.1	0.1
10	館外チラシ(いきいきセンター)	1	0.1	0.1
11	館外チラシ(勤労市民プラザ)	0	0.0	0.0
12	館外チラシ(市民活動センター)	2	0.2	0.3
13	館外チラシ(ボランティアズカフェ)	1	0.1	0.1
14	館外チラシ(女性センター)	3	0.3	0.4
15	保健福祉センター	2	0.2	0.3
16	保育所	0	0.0	0.0
17	子育てリラックス館	2	0.2	0.3
18	その他	177	19.2	24.7
	無回答	207	22.4	
	サンプル数(%へ入)	924	100.0	717

*無回答には調査票に本問が含まれていなかった
サンプルを含む

男女別に入手経路をみると、男女ともに「市政だより」が最も高く、その他の上位項目も性別による差はみられません。

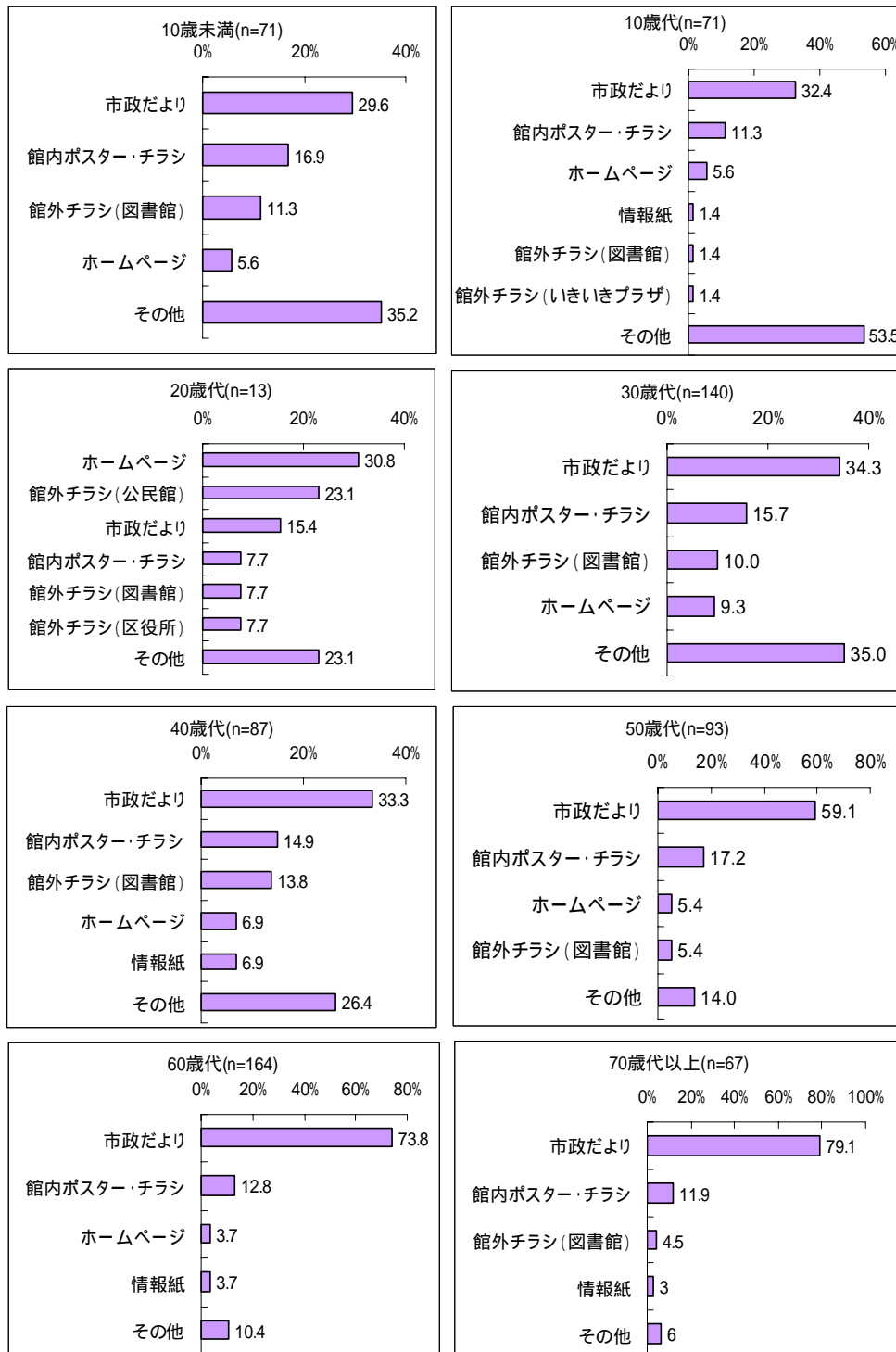
図 28 入手経路（性別・全体）



年齢別に入手経路をみると、20歳代を除き全ての年齢で「市政だより」が、最も高くなっています。特に、年齢が高くなるほど、「市政だより」に拠る割合が高くなっており、60歳代、70歳代では7割を超えています。館内ポスター・チラシはどの年代でも上位に入っていますが、その割合は「市政だより」には遠く及びません。

20歳代では「ホームページ」が30.8%と最も高く、30歳代でも9.3%と比較的低い年齢層にとってホームページは重要な情報源となっていると考えられます。

図 29 入手経路（年齢別・全体）



満足度（パソコン講座を除く）

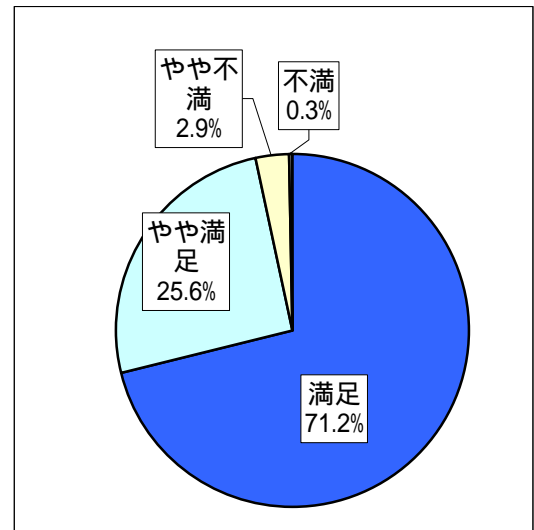
受講者の満足度は「満足」が71.2%（462件）、「やや満足」が25.6%（166件）、「やや不満」が2.9%（19件）、「不満」が0.3%（2件）でした。

内容を問わず、センターで行っている講座の満足度は総じて高いといえます。

図 30 満足度（全体・n=649）

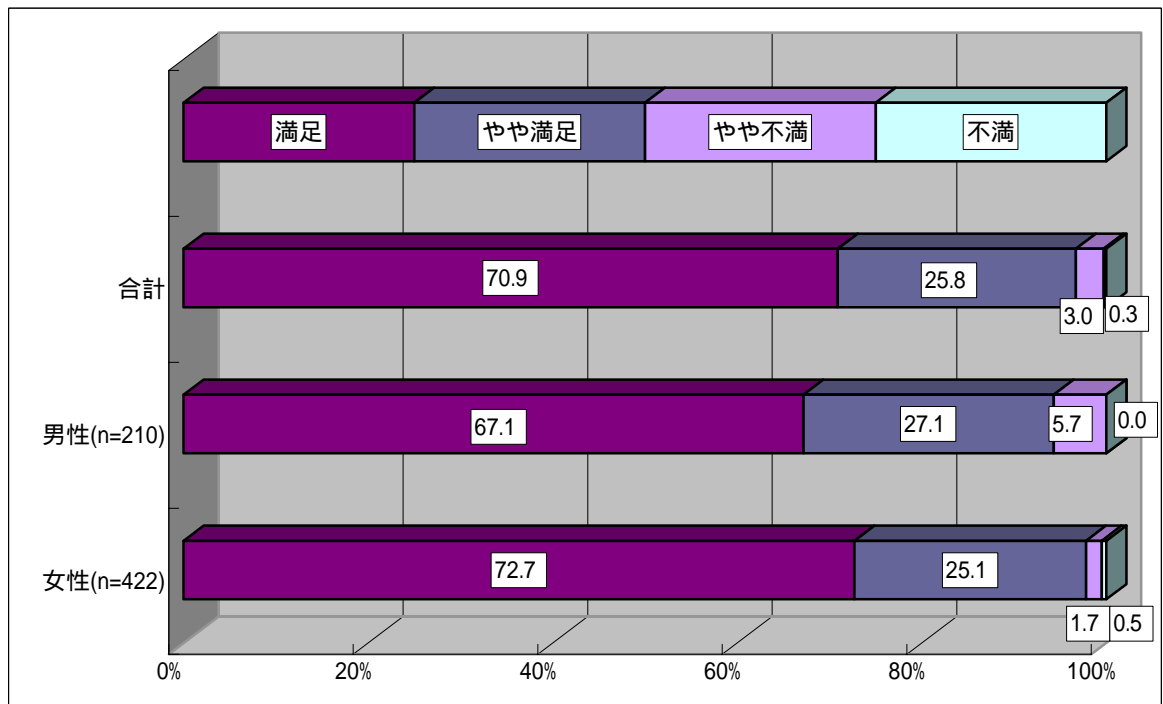
カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 満足	462	50.0	71.2
2 やや満足	166	18.0	25.6
3 やや不満	19	2.1	2.9
4 不満	2	0.2	0.3
無回答	275	29.8	
サンプル数	924	100.0	649

* 無回答には調査票に本問が含まれていなかったサンプルを含む



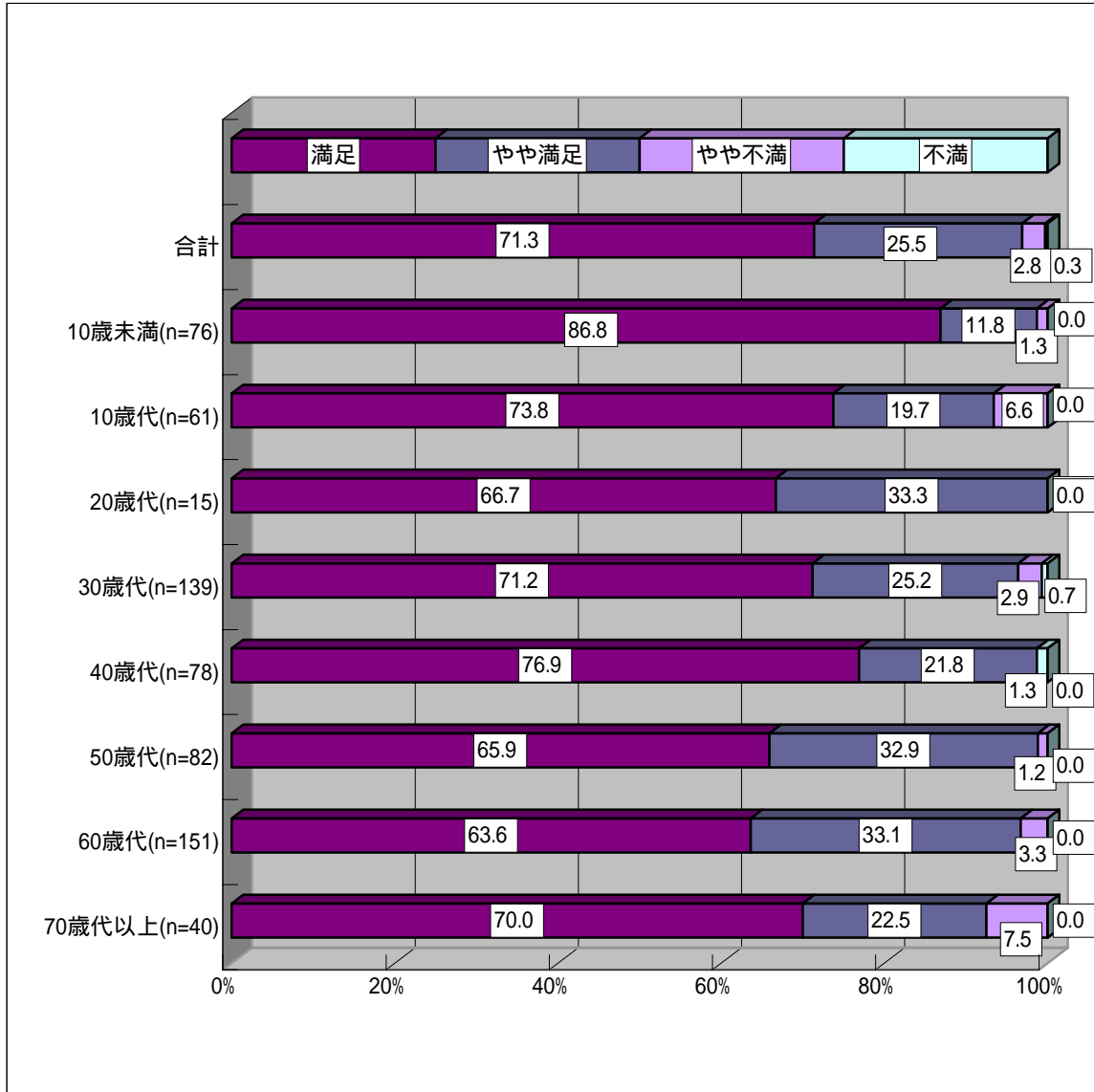
男女別に満足度をみると、男女ともに満足度は高く、大きな差はみられませんが、女性は「満足」の割合が、男性は「やや不満」がわずかに高くなっています。

図 31 満足度（性別・全体）



年齢別に満足度をみると、「満足」の割合が最も高いのは10歳未満で86.8%、一方、最も低いのは60歳代で63.6%でした。しかし、「満足」と「やや満足」を合わせた満足度は、年齢に関わらず高く、総じて千葉市生涯学習センターの講座満足度は性別、年齢を問わず高いといえます。

図 32 満足度（年齢別・全体）



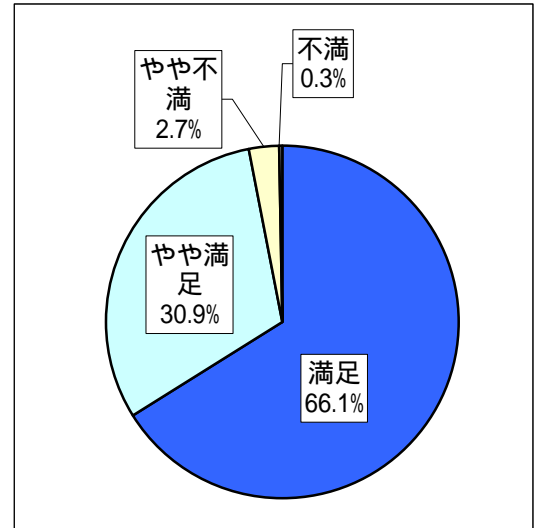
満足度（パソコン講座を含む）

パソコン講座を含んだ満足度についてみると、「満足」が 66.1%（519 件）、「やや満足」が 30.9%（242 件）、「やや不満」が 2.7%（21 件）、「不満」が 0.3%（2 件）でした。

図 33 満足度（性別・全体）

カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1 満足	519	61.5	66.1
2 やや満足	242	28.7	30.9
3 やや不満	21	2.5	2.7
4 不満	2	0.2	0.3
無回答	60	7.1	
サンプル数	844	100.0	784

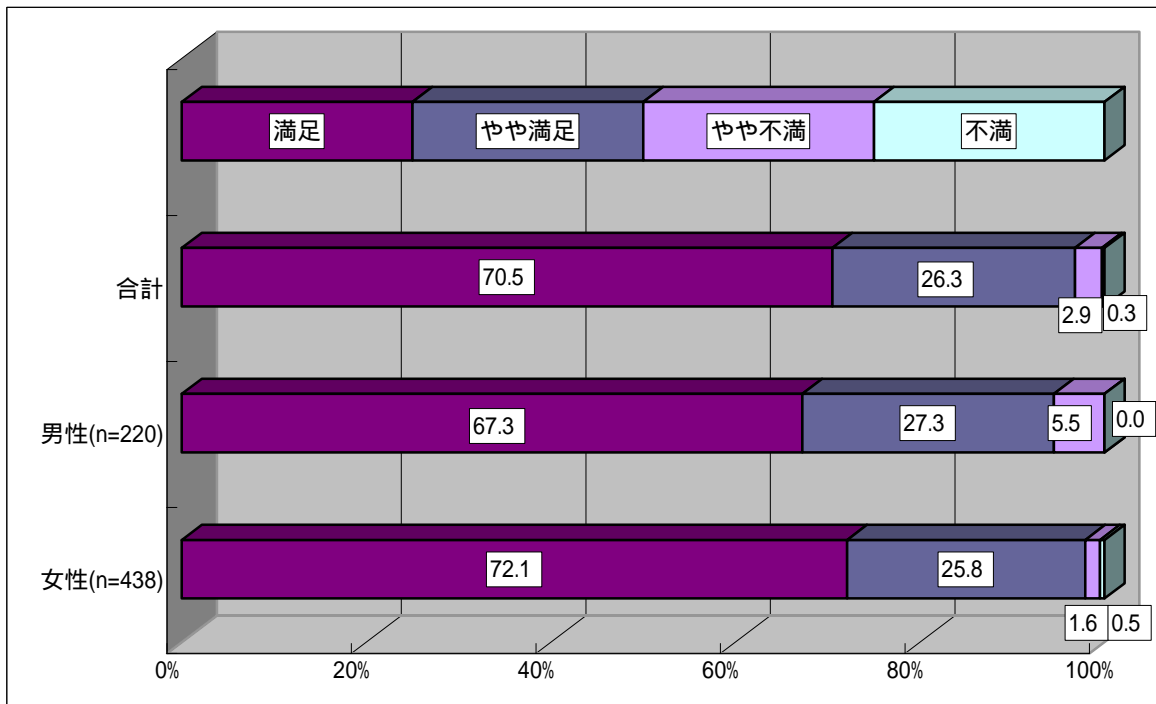
* 無回答には調査票に本問が含まれていなかったサンプルを含む



パソコン講座の満足度は、講座の内容、講師の指導・進行、テキストの内容、講座の回数・時間帯、センターの対応・学習環境の 5 項目についての満足度を平均した値を採用。

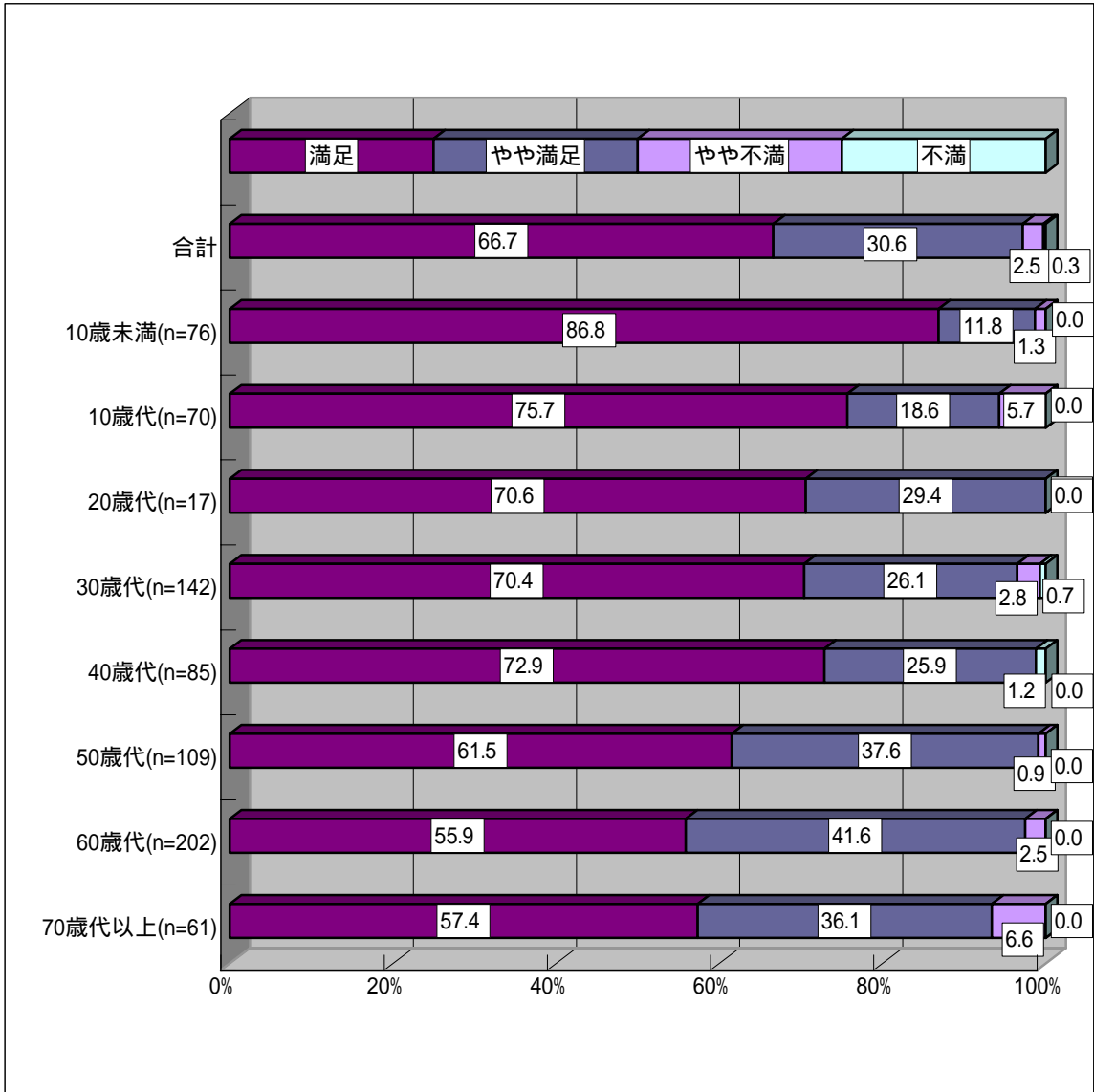
男女別に満足度をみると、男女ともに「満足」の割合が最も高く、性別による差はみられません。

図 34 満足度（性別・全体）



年齢別に満足度をみると、「満足」が最も高いのは10歳未満、一方、最も低いのは60歳代でした。パソコン講座を含めると、高い年齢層でやや満足度が下がる傾向にありますが、総じて満足度は高くなっています。

図 35 満足度（年齢別・全体）



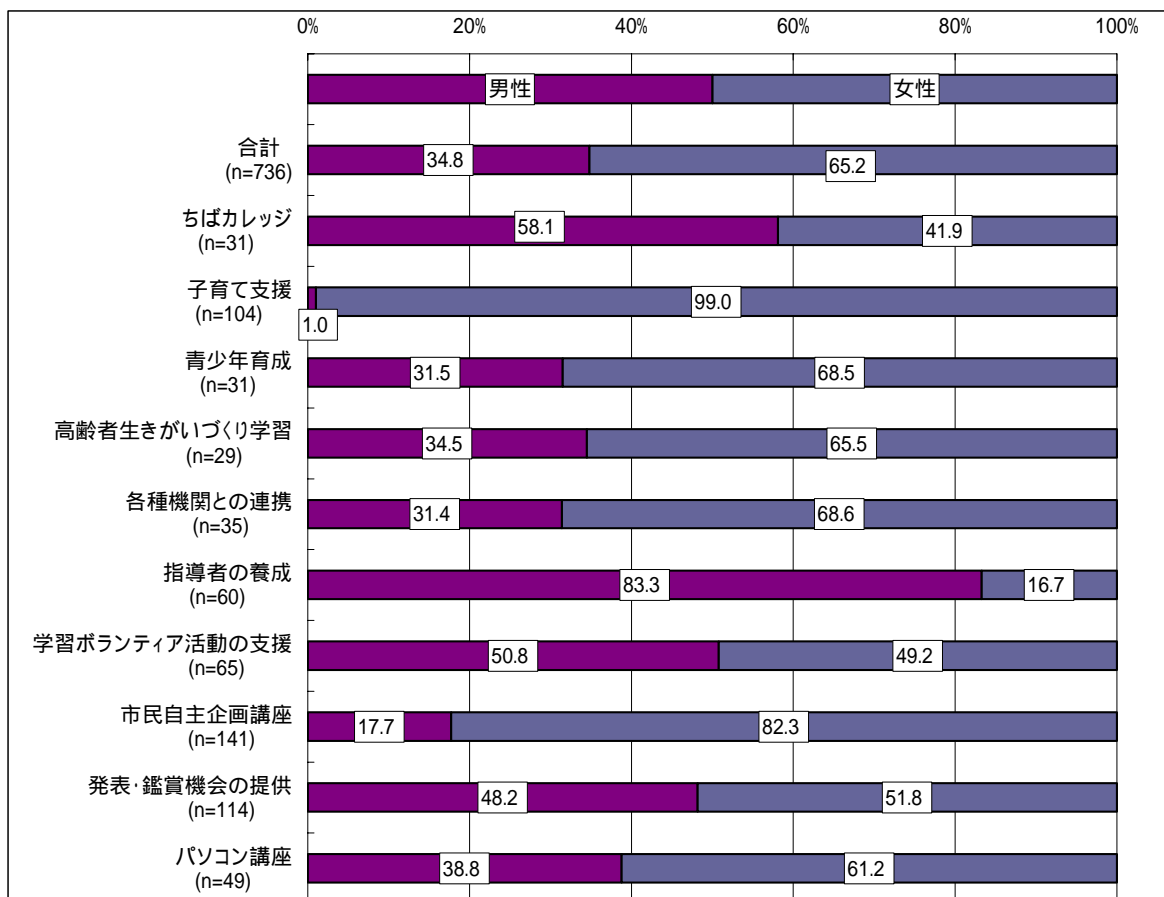
(2) 事業ごとの比較

性別

事業ごとの性別をみると、子育て支援は99%が女性と男性の受講率が極めて低くなっています。市民自主企画講座も82.3%が女性と男性は少なくなっています。

ちばカレッジ、学習ボランティア活動の支援、鑑賞・発表機会の提供については男女の割合が4～6割ずつとなっており適正と考えられます。それ以外の事業については女性の割合が高く、総じて男性の参加が少ない傾向がみられます。

図 36 性別（事業ごとの比較）



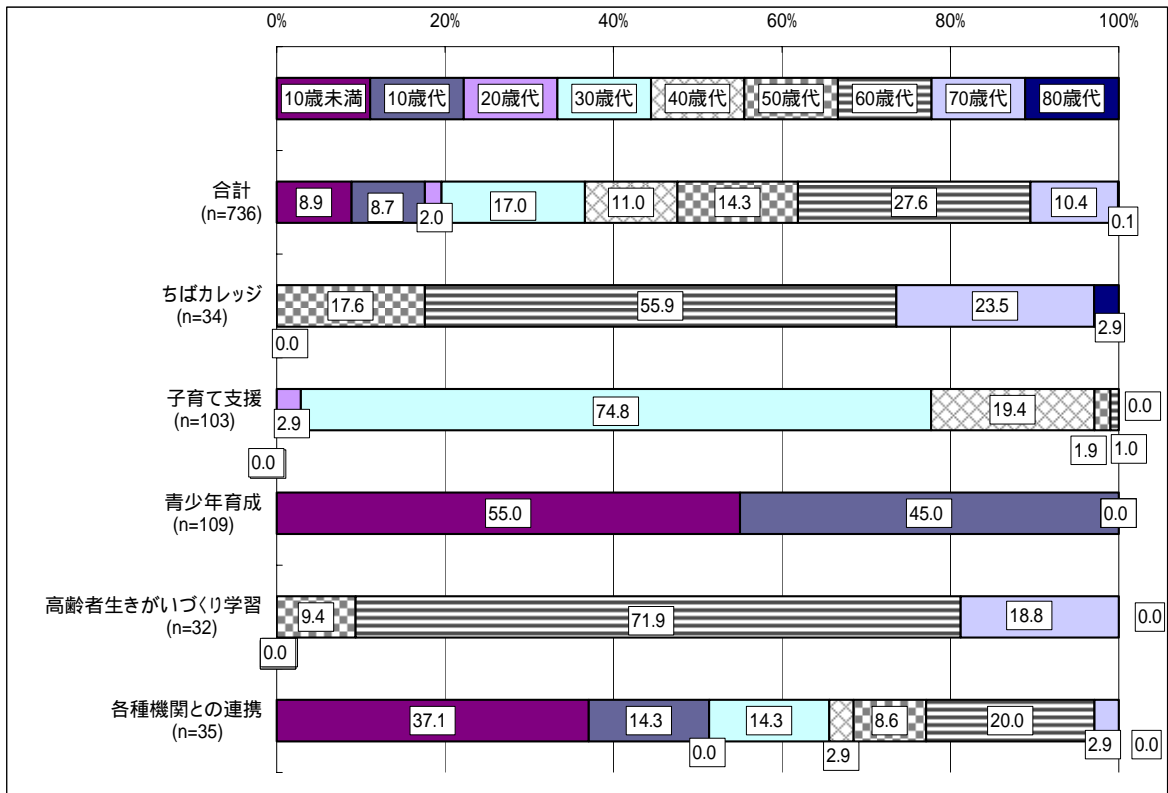
年齢

対象年齢を限定した講座も多く開設されているため、受講者の年齢は事業によって大きく異なります。

ちばカレッジは年齢制限を設けていませんが、主な受講者は50歳代～80歳代となっており、若年層の受講が少なくなっています。

子育て支援、青少年育成、高齢者生きがいづくり学習についてはそれぞれ講座の対象年齢層と一致しています。

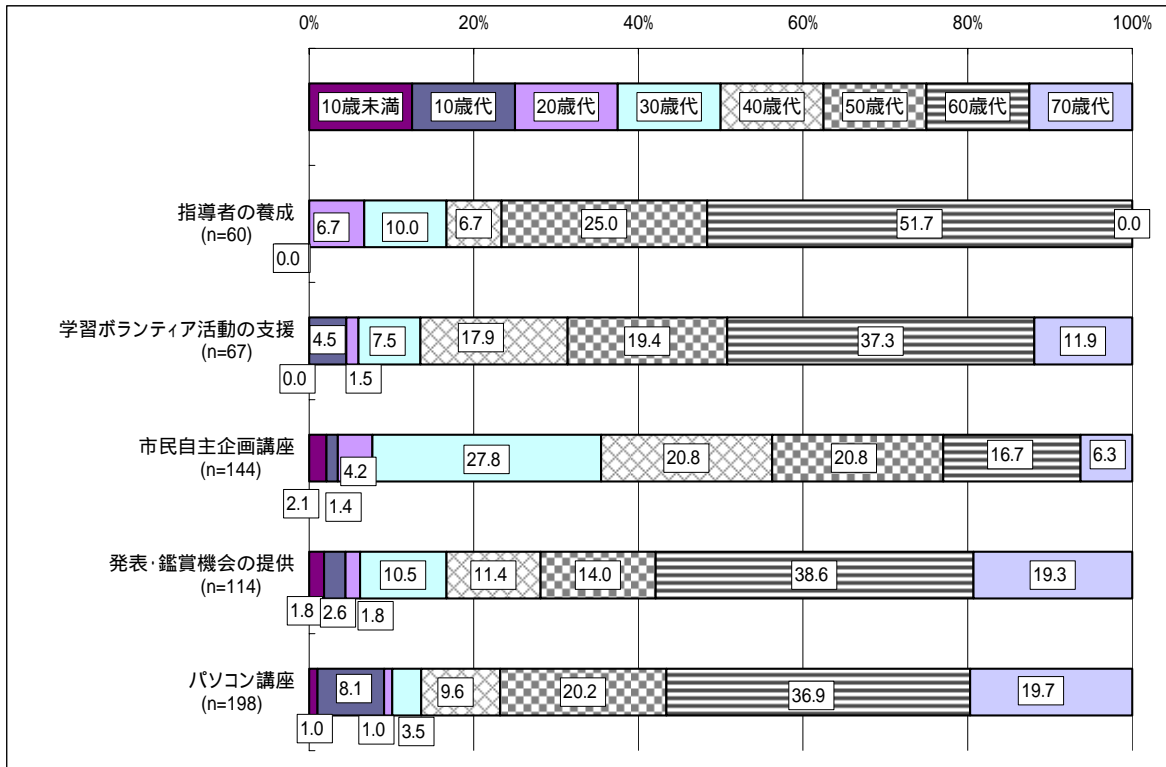
図 37 年齢1（事業ごとの比較）



学習ボランティア活動の支援、 発表・鑑賞機会の提供、 パソコン講座については、60歳以上が半数を占めており、若年層の参加が少なくなっています。

一方、市民自主企画講座は、年齢にばらつきがみられ、受講者の幅が広く、比較的バランスがとれています。

図 38 年齢 2 (事業ごとの比較)

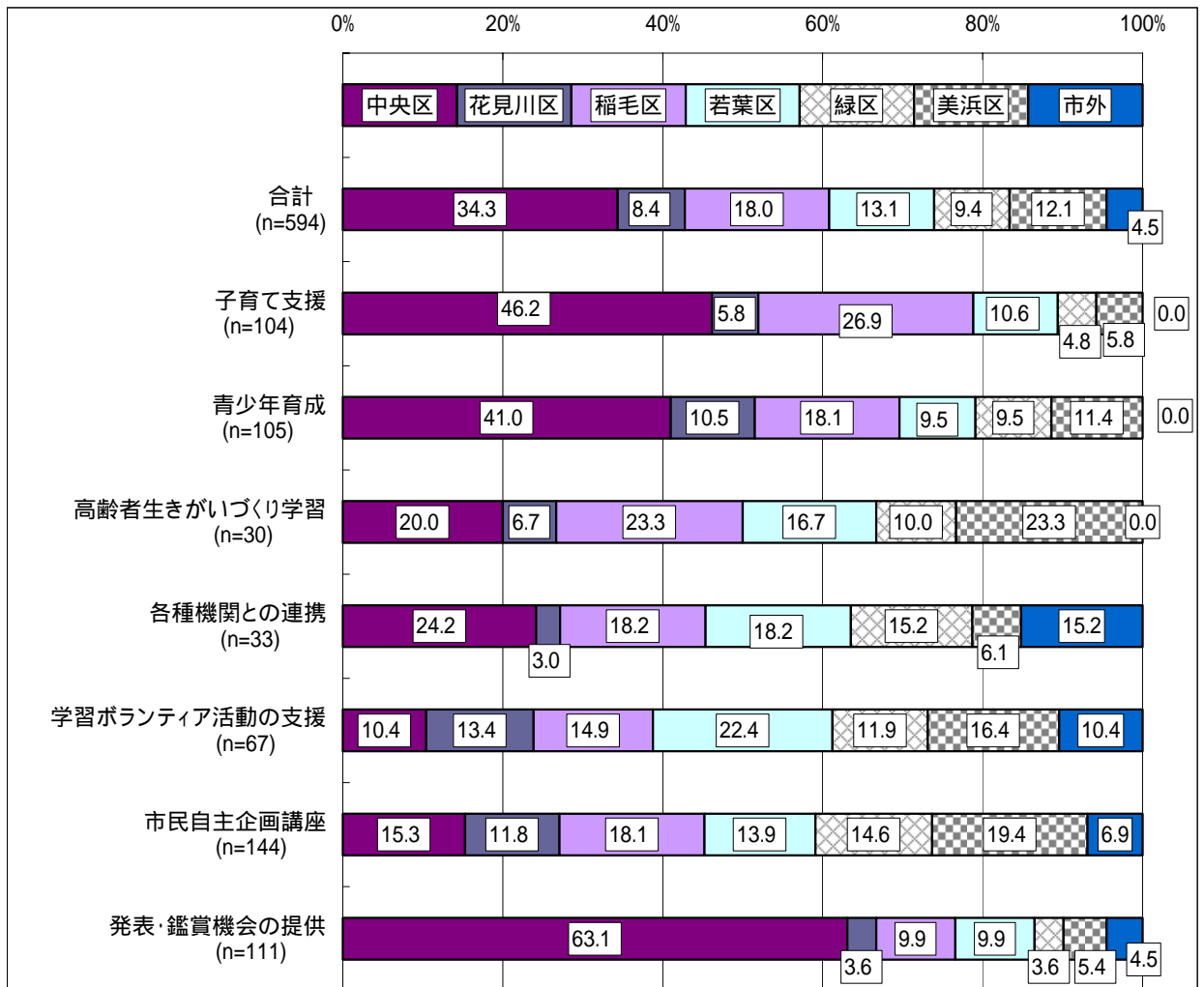


住所

受講者の住所（居住区）についてみると、総じて中央区、稲毛区の割合が高くなっています。特に 発表・鑑賞機会の提供については、63.1%が中央区となっています。

一方、高齢者生きがづくり学習、学習ボランティア活動の支援、市民自主企画講座については、受講者の居住区は均等に分かれています。講座の内容や対象によっては、遠方からの受講者もみられます。

図 39 住所（事業ごとの比較）



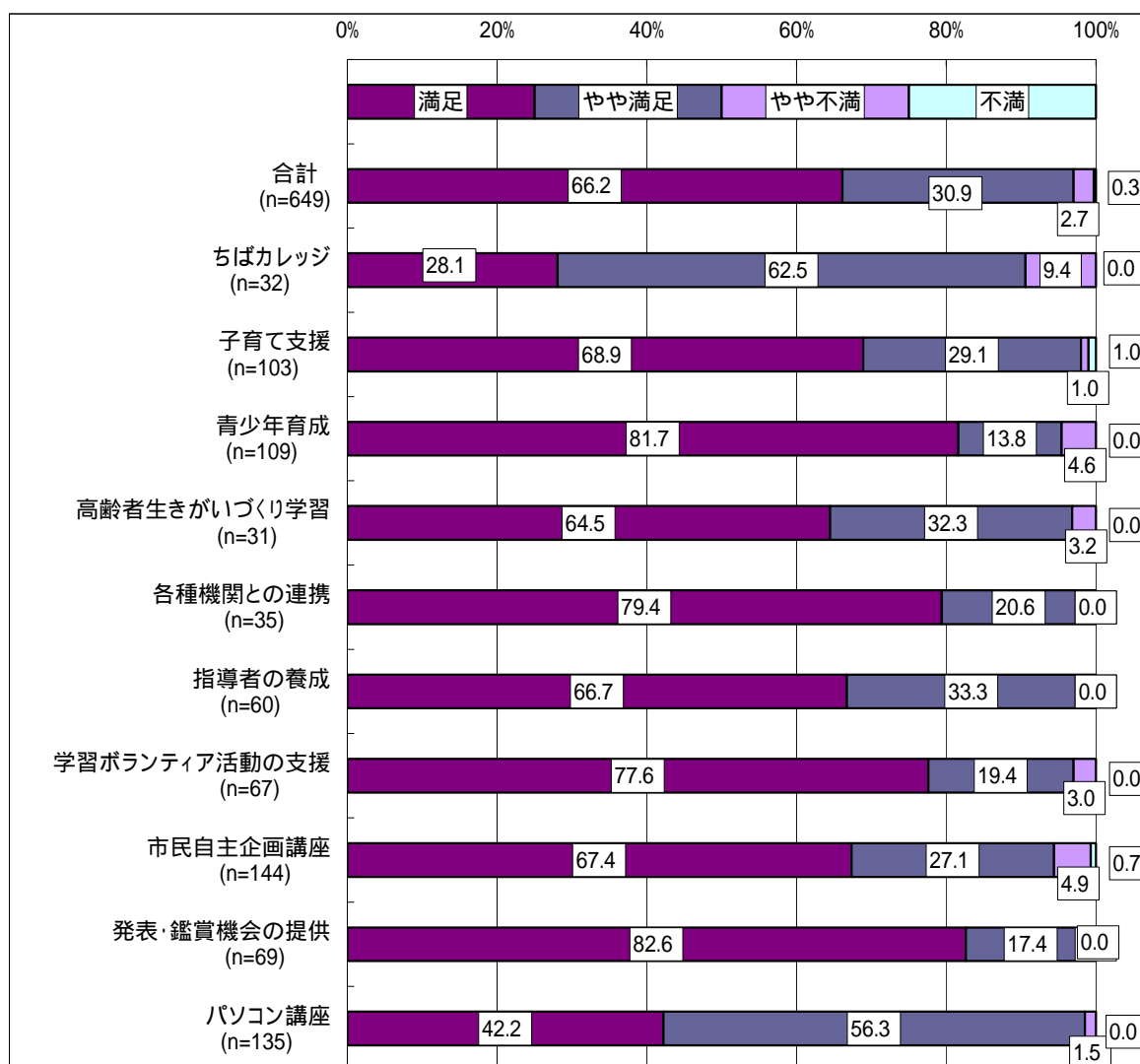
満足度（パソコン講座を含む）

パソコン講座の満足度は、講座の内容、講師の指導・進行、テキストの内容、講座の回数・時間帯、センターの対応・学習環境の5項目についての満足度を平均した値を採用。

事業の満足度についてみると、総じて満足を感じている受講者が多く、「やや不満」「不満」の回答は少なくなっています。

ちばカレッジ、パソコン講座以外の事業では6割以上が「満足」と回答しています。ちばカレッジについては、「やや満足」をあわせた満足度は高いものの、「満足」の割合が低く、他の事業と比較した満足度は低くなっています。また、パソコン講座についても同様の傾向がみられます。

図 40 満足度（事業ごとの比較）



入手経路

入手経路については全ての事業で「市政だより」が最も高く、最も主要な情報源となっていることがわかります。一方、事業によっては独自の手段で広報を行なっているケースも多く、「その他」が高い事業もみられます。

発表・鑑賞機会の提供については、「市政だより」に続き、「館内ポスター・チラシ」も高くなっています。

市政だよりでの広報を引き続き行なうとともに、その他の広報ツールについても検討、改善が必要と考えられます。

図 41 入手経路 1 (事業ごとの比較)

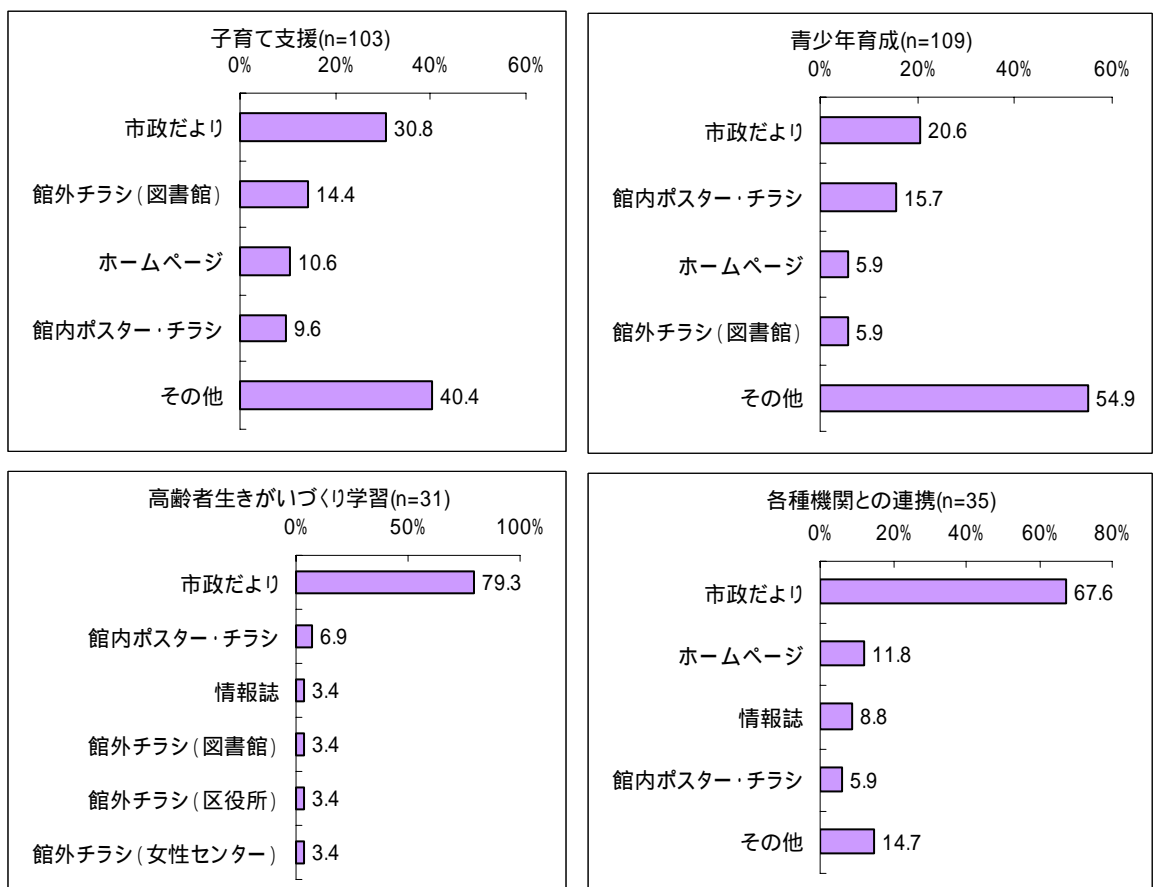
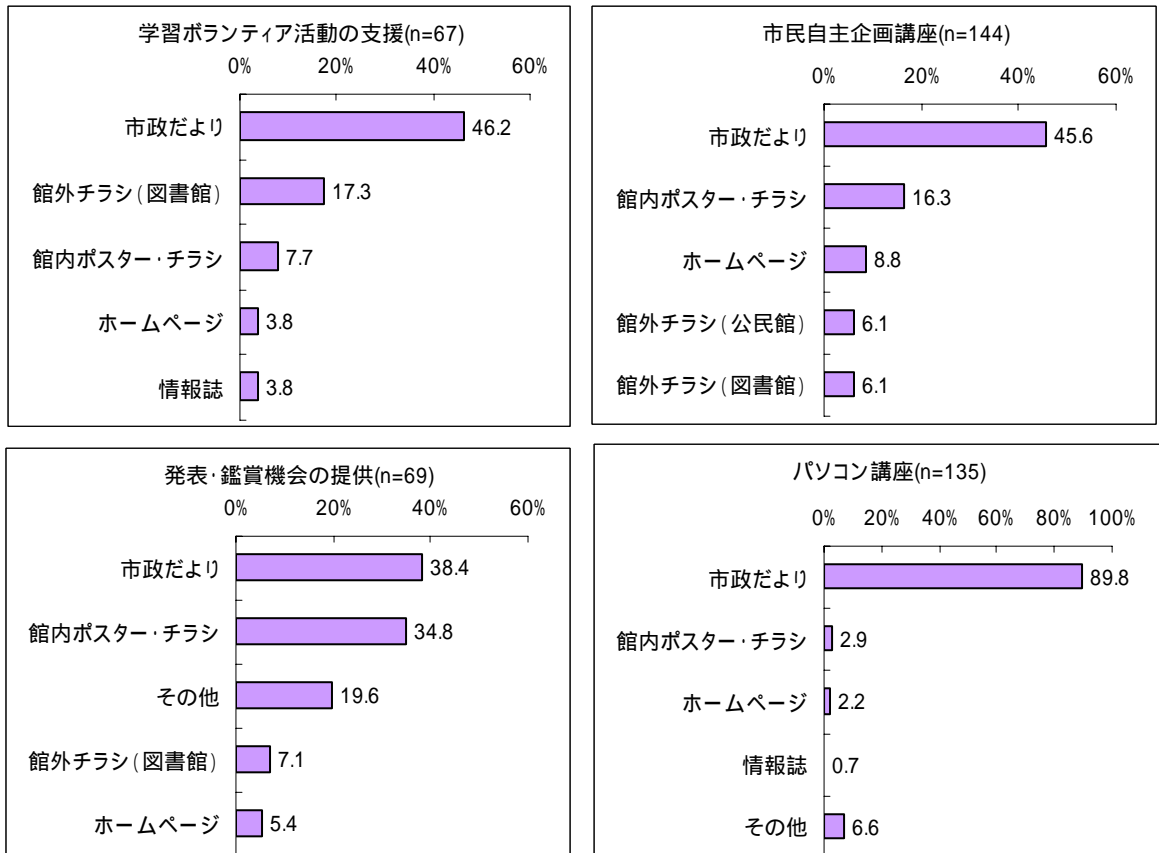


図 42 入手経路 2 (事業ごとの比較)



VI. 検討委員会

1 委員会の設置

(1) 委員会の設置にあたって

社会情勢は変化する中で、ライフスタイルの変化や少子高齢化などに伴う市民ニーズの変化や社会要請を加味し、より充実した市民の生涯学習活動を支援するための千葉市生涯学習センターにおける事業体系のあり方を検討するため、設置するものです。

(2) 委員名簿

	氏名	役職等
1	しみず ひでお 清水 英男	聖徳大学人文学部生涯教育文化学科教授
2	すぎもと あけみ 杉本 明行	千葉市女性団体連絡会事務局長
3	まえだ ひでのり 前田 秀典	元千葉市生涯学習センター学習課長

(3) 委員長

委員の互選により選出。

清水英男聖徳大学人文学部生涯教育文化学科教授を委員長に選任。

(4) 委員会の開催

ア 第1回委員会

平成21年2月25日

参加委員 3名

イ 第2回委員会

平成21年3月16日

参加委員 3名

2 第1回委員会

(1) 会議詳細

日 時 平成21年2月25日(水) 13:30~15:30
場 所 千葉市生涯学習センター 特別会議室
参加者 委員会委員:3名
事務局 :6名
コンサル : (株)ちばぎん総合研究所 2名

次 第

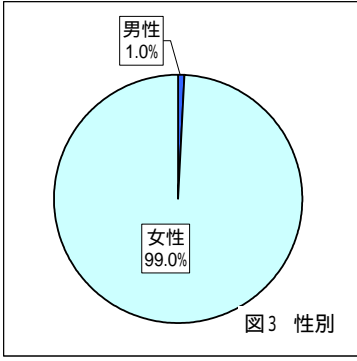
1. 開 会
2. 所長挨拶
3. 委員長の選出について
4. 議 事
 - (1) 千葉市生涯学習センターの現状と課題について
 - (2) 各事業の課題と今後の方向性について
5. 事務連絡・閉会

(2) 課題と今後の方向性

1 学習活動の推進事業	
(1) - 1 先進的学習事業(ちばカレッジ)	
調査結果からみえること	
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・他の講座と比較して満足度が低い。 ・受講者は50歳以上のみ、若年層がいない。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図1 年齢</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>図2 満足度</p> </div> </div>
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
内セのン課タ題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の講座の方向性としてどのような展開が考えられるか。 ・有料講座として他の講座との差別化をどのように図るべきか。

委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在求められているのは、学習の成果を地域社会にどう活かすか、役立てるかが課題。そういう意味で受講生が地域に戻って、千葉学、千葉のよさを多くの人に知らせて、地域社会を形成するという役割がある。この分野をもっと充実させる必要がある。 ・学習した方々が、自ら地域に残って、学習活動の核として活躍するまでの対応ができていない。そういうフォローもするべき。 ・生涯学習センターにおいても、基礎的な講座を受けたいと言う人は多いが、自分がグループを作って自分の地域でやるというまでには至っていない。勉強してそれっきり。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の基礎単位は家庭なので、家庭の一員として、自治会の一員として、あるいはグループの一員として、千葉市の市民として何をしたらよいかということを考えるということの分野を充実させるべき。 ・千葉学は団塊の世代に受けると思う。学習活動に入るきっかけを作る意味で、有料で、大学でやっているレベル並みに高かった場合に、センターとしてどういう講座が組めるのか。 ・千葉に関する検定を、子ども向きでも大人向きでもいいのでつくる。 ・参加者が減っているのなら、千葉氏の分野が人気があるので、再度取り上げてもいいのでは。 ・フォローの講座が必要。 ・年齢の偏りは時間帯等の問題もあるので仕方ないが、ちばカレッジの中で、若い人たちの意見を聞くようなことがあるといい。 ・有料か無料かということについては、無料でなくても良いということを知る。お金を払ったほうがきちんと教えてもらえる気がする。

(1) - 2 先進的学習事業(現代的課題学習)	
現代的課題学習全体	
調査結果からみえること	
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援、青少年育成に男性の参加が少ない。 ・どの講座も20歳代の参加が極めて少ない。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で不安なことは「健康、老後(市民)」、「将来の職業(中高生)」、「犯罪、安全、人間関係(小学生)」。
センター内の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現代的課題として時事性、普遍性(学習の継続性)どちらを負うべきか。センターの現代的課題の位置づけをどうするか。 ・ライフステージごとの講座にすべきか、ライフスタイルごとの講座にすべきか。 ・変化の激しい社会の中において、年齢に応じたライフスタイルの様式や価値観は多様化している。このような環境の中でも自分の生き方を主体的に設計できるよう支援していく必要があると考える。
委員会での意見	
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決めることがそもそもの課題。 ・新たな講座を進める必要はあると思うが、センターが行うとなると、千葉市全体を対象にしないといけない。そうなったときに、その次の段階でどうするか考えないといけない。例えば、センターでモデル的な事業を行い、その成果を生かした事業を公民館へ移すようなことを考えるならよいのでは。 ・今の社会が抱えている問題を解決するためにやるべきだと思うが、社会にはいろんな問題があるので、全部満遍なく取り組むのは非常に難しい。その中で、この年ではこれを最優先に取り組むという絞込みが必要。
【方向性】	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の政策課題、総合行政として取り組んでいるようなものが今の解決すべき現代的課題だと思う。そういう中から現代的課題が選ばれるとよい。 ・今の社会だからこれに取り組んだんだという引っかかりが必要。

子育て支援	
調査結果からみえること	
受講者	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者はほとんど女性。 <div style="text-align: center;">  <p>図3 性別</p> </div>
センター内の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てを支援する人材の育成や社会づくりを目指す講座は地域を繋いでいく意味でも行なうべき。 ・子育て世代間の交流については他にも行なっている所が多いが継続すべきか。 ・参加者に偏りがあるため土日開催を考えるべきか。 ・実際に役立つこと(知識や技術の習得)を重視するのか、人との交流のもとで子育ての悩みを解消することに主眼をおくべきか。

委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館で子育て支援についてできているということであるなら、センターが固執する必要はないのでは。 ・子育て支援については継続しなくてはならないが、今は公民館でもやっているところが多いので、公民館がやってないことを、ここで先導的で実験的にやったものが波及していくような形にしないとけない。 ・公民館もだいたい子育て支援は揃えている。千葉市の生涯学習センターなので、もちろん子育ても必要だが、子育て中の人には午前中の早い時間が都合がよい。女性とは限らないが、ほとんどの男性は働いているので、女性が多いのだと思う。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間や休日など子育ての勉強したいが、平日は無理な市民にセンターとして対応する。 ・子育てを支援するボランティアを養成する。家庭教育サポーターなど。養成後公民館で各自活動してもらう。 ・難しく考えず、サポートしてあげられる人、ボランティアのような形で人を集められればいいのでは。

青少年育成

調査結果からみえること

受講者	・年代の偏り。高校生以上を対象とした講座がない。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>講座・行事名</th> <th>対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境学習講座 「地球は、みんなのおともだち」</td> <td>小学2年生～ 中学3年生</td> </tr> <tr> <td>子ども科学講座 「電気をつくる」</td> <td>小学4年生～ 中学3年生</td> </tr> <tr> <td>子どもチャレンジ教室・ 「かぶき」をみよう～国立劇場歌舞伎鑑賞教室</td> <td>小学生～中学生</td> </tr> <tr> <td>子どもチャレンジ教室・ 千葉公園を歩いて「世界に1つの本をつくる」</td> <td>小学3年生～ 小学6年生</td> </tr> <tr> <td>子どもチャレンジ教室・ フィンガーペインティングで「みんなの木」をかこう</td> <td>小学生</td> </tr> </tbody> </table>	講座・行事名	対象	環境学習講座 「地球は、みんなのおともだち」	小学2年生～ 中学3年生	子ども科学講座 「電気をつくる」	小学4年生～ 中学3年生	子どもチャレンジ教室・ 「かぶき」をみよう～国立劇場歌舞伎鑑賞教室	小学生～中学生	子どもチャレンジ教室・ 千葉公園を歩いて「世界に1つの本をつくる」	小学3年生～ 小学6年生	子どもチャレンジ教室・ フィンガーペインティングで「みんなの木」をかこう	小学生
	講座・行事名	対象											
	環境学習講座 「地球は、みんなのおともだち」	小学2年生～ 中学3年生											
	子ども科学講座 「電気をつくる」	小学4年生～ 中学3年生											
	子どもチャレンジ教室・ 「かぶき」をみよう～国立劇場歌舞伎鑑賞教室	小学生～中学生											
子どもチャレンジ教室・ 千葉公園を歩いて「世界に1つの本をつくる」	小学3年生～ 小学6年生												
子どもチャレンジ教室・ フィンガーペインティングで「みんなの木」をかこう	小学生												

市民	・子どもは「将来の職業(中高生)」、「犯罪、安全、人間関係(小学生)」に不安を持っている。																																							
	<p>図4 日常生活における悩み</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>悩み</th> <th>小学生 (n=548)</th> <th>中学生 (n=554)</th> <th>高校生 (n=428)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>強盗、殺人などの犯罪</td> <td>52.9</td> <td>20.8</td> <td>31.8</td> </tr> <tr> <td>地球温暖化などで自然が壊されていくこと</td> <td>51.6</td> <td>27.3</td> <td>37.6</td> </tr> <tr> <td>地震や台風などの災害</td> <td>47.4</td> <td>28.7</td> <td>43.2</td> </tr> <tr> <td>自分の健康状態</td> <td>37.8</td> <td>30.1</td> <td>25.7</td> </tr> <tr> <td>将来どんな職業につくか</td> <td>36.9</td> <td>54.2</td> <td>66.8</td> </tr> <tr> <td>友達や家族との人間関係</td> <td>35.2</td> <td>27.8</td> <td>39.9</td> </tr> <tr> <td>自分や家族のお金のこと</td> <td>33.9</td> <td>32.3</td> <td>37.4</td> </tr> <tr> <td>両親など、家族が年をとった時のこと</td> <td>21.2</td> <td>14.6</td> <td>31.1</td> </tr> <tr> <td>祖父母や両親が働けなくなったときの介護に関すること</td> <td>20.8</td> <td>19.2</td> <td>21.7</td> </tr> </tbody> </table>	悩み	小学生 (n=548)	中学生 (n=554)	高校生 (n=428)	強盗、殺人などの犯罪	52.9	20.8	31.8	地球温暖化などで自然が壊されていくこと	51.6	27.3	37.6	地震や台風などの災害	47.4	28.7	43.2	自分の健康状態	37.8	30.1	25.7	将来どんな職業につくか	36.9	54.2	66.8	友達や家族との人間関係	35.2	27.8	39.9	自分や家族のお金のこと	33.9	32.3	37.4	両親など、家族が年をとった時のこと	21.2	14.6	31.1	祖父母や両親が働けなくなったときの介護に関すること	20.8	19.2
悩み	小学生 (n=548)	中学生 (n=554)	高校生 (n=428)																																					
強盗、殺人などの犯罪	52.9	20.8	31.8																																					
地球温暖化などで自然が壊されていくこと	51.6	27.3	37.6																																					
地震や台風などの災害	47.4	28.7	43.2																																					
自分の健康状態	37.8	30.1	25.7																																					
将来どんな職業につくか	36.9	54.2	66.8																																					
友達や家族との人間関係	35.2	27.8	39.9																																					
自分や家族のお金のこと	33.9	32.3	37.4																																					
両親など、家族が年をとった時のこと	21.2	14.6	31.1																																					
祖父母や両親が働けなくなったときの介護に関すること	20.8	19.2	21.7																																					

センター内の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業では体験を重視した講座を実施しているため、今の講座でカバーしきれっていない年代については、他の分野で補完できないか。 ・社会教育法の改正にともない、子どもを対象とした学習機会の提供が求められているが、地域教育力向上の観点から地域の人々の協力を得ながら講座を開いていく必要がある。
----------	--

委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育法の一部が改正されて、その中で市町村教育委員会の事務として、学齢期の子どもを意識して、放課後の活動支援や、夏休みなどの長期休暇を利用して学習機会を提供するという項目が加わってきた。従来の青少年教育と違うのは学校を意識し活用するという点なのでセンターが直接関わることは難しい。 ・青年をなんとか呼び寄せたいが、子どもの興味関心は東京を向いている。昔は青年団があって、祭りがあれば集まってきたが、今の青年が公民館などに来るのがいいとか悪いとか言うことは出来ない。 ・中高生がぬけているので、そういう子達に対する講座を実施して、満遍なく出入りできるようにする必要がある。 ・学校への地域の参画は学校によって全然進み具合が違う。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用については公民館など、空いているところの利用ができるように施設間の連携を行い、市全体の施設の有効活用ができるようになればいい。 ・今後は子どもたちを地域ぐるみで育てるためのリーダー、あるいは学校を中心にしながらリーダーを養成することが課題になる。 ・学校と社会教育を結ぶコーディネーターが大切。そのコーディネーター支援する研修が必要。 ・学社連携と融合、学校教育と社会教育が一体となって子どもの成長を支えていくには、教育委員会もセンター、図書館や公民館などの関係者が一緒になって進めていくきっかけが必要だと思う。 ・子ども学を勉強しているのは大人なので、青年たちにきてもらうということであれば、いつでも使える場所を提供する。

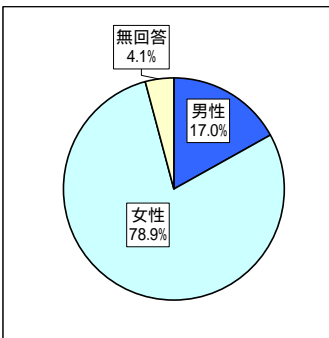
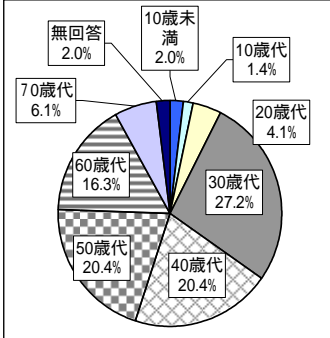
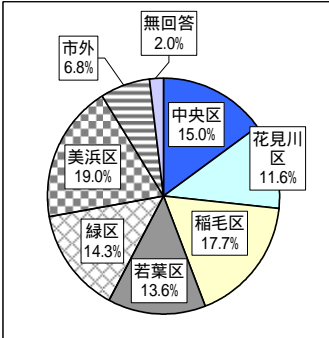
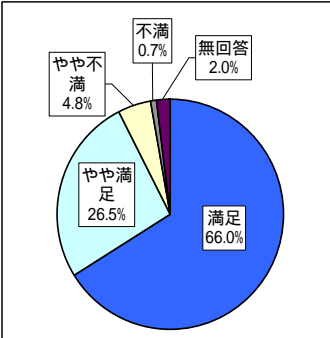
高齢者生きがいづくり																									
調査結果からみえること																									
<p>受講者</p>	<p>・本事業に限らず、高齢者の利用が多い。</p> <table border="1"> <caption>図5 年齢(全講座合計)</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>90歳以上</td><td>0.0%</td></tr> <tr><td>80歳代</td><td>3.5%</td></tr> <tr><td>70歳代</td><td>11.0%</td></tr> <tr><td>60歳代</td><td>21.3%</td></tr> <tr><td>50歳代</td><td>13.2%</td></tr> <tr><td>40歳代</td><td>13.2%</td></tr> <tr><td>30歳代</td><td>16.1%</td></tr> <tr><td>20歳代</td><td>1.5%</td></tr> <tr><td>10歳代</td><td>8.4%</td></tr> <tr><td>10歳未満</td><td>8.7%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>3.0%</td></tr> </tbody> </table>	年齢	割合	90歳以上	0.0%	80歳代	3.5%	70歳代	11.0%	60歳代	21.3%	50歳代	13.2%	40歳代	13.2%	30歳代	16.1%	20歳代	1.5%	10歳代	8.4%	10歳未満	8.7%	無回答	3.0%
年齢	割合																								
90歳以上	0.0%																								
80歳代	3.5%																								
70歳代	11.0%																								
60歳代	21.3%																								
50歳代	13.2%																								
40歳代	13.2%																								
30歳代	16.1%																								
20歳代	1.5%																								
10歳代	8.4%																								
10歳未満	8.7%																								
無回答	3.0%																								
<p>市民</p>	<p>・健康、老後に対する不安が圧倒的に高く、これからますます充実させる必要がある。</p> <table border="1"> <caption>図6 日常生活における悩み</caption> <thead> <tr> <th>悩み</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>健康</td><td>61.0</td></tr> <tr><td>老後</td><td>55.4</td></tr> <tr><td>環境問題</td><td>35.1</td></tr> <tr><td>災害</td><td>34.8</td></tr> <tr><td>介護に関すること</td><td>32.2</td></tr> </tbody> </table> <p>■ 一般市民 (n=569)</p>	悩み	割合	健康	61.0	老後	55.4	環境問題	35.1	災害	34.8	介護に関すること	32.2												
悩み	割合																								
健康	61.0																								
老後	55.4																								
環境問題	35.1																								
災害	34.8																								
介護に関すること	32.2																								
<p>センター内の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関わるテーマは重要なものではあるが、もっと多岐にわたる講座展開に力を入れる必要があるか(現在は健康な高齢者のみを対象としているが、介護が必要な人も生涯学習を求めているか) ・センターの利用者層として高齢者が多いため、センターの講座全体の充実がこの分野の充実になると読み替えてもいいのか = 現代的課題として扱わないということはあるのか ・高齢者に特化して地域社会で活動する人材の育成を進める必要があるか。 																								

委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本には技術や知識を持った高齢者が多い。しかし、多くの高齢者は教えることが難しいと思っているので、例えば、子どもやお年寄りの意識行動を勉強して、教えることに自信を持つと活躍する場が出てくる。 ・年齢層についてはバランスがとれている。(高齢者だけにかたよっているわけではない) 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この世代の関心事は、自分の健康の維持管理(ヘルスプラン)、経済的自立(マネープラン)、家族関係への対応(ファミリープラン)、クリエイトプランということで社会貢献の4つの分野があると思う。はじめの3つの分野はほとんどが、企業内教育で退職予定者に教育しているが、自営業や農業などの方をやっている人には勉強の機会が少ない。そういう人たちが、自分に自信を持って老後を暮らしていくために、必要な教育かもしれない。 ・センターの事業を高齢者に特化する必要はないが高齢者は必要。高齢者をターゲットにしながらそこに若い人を巻き込んで、進めていければよいと思う。超高齢社会を活性化するには、高齢者がいかに活躍するかにかかっている。 ・高齢者にサービスを提供するだけでなく、むしろ高齢者の力を地域社会の中で活用できるような講座を展開すべき。センターでモデル的に開発してそのプログラムを公民館に戻すような形が望ましい。 ・団塊の世代を対象に誰かが仕掛け人になって、グループを立ち上げてはどうか。

(2) 学習活動支援

市民自主企画講座

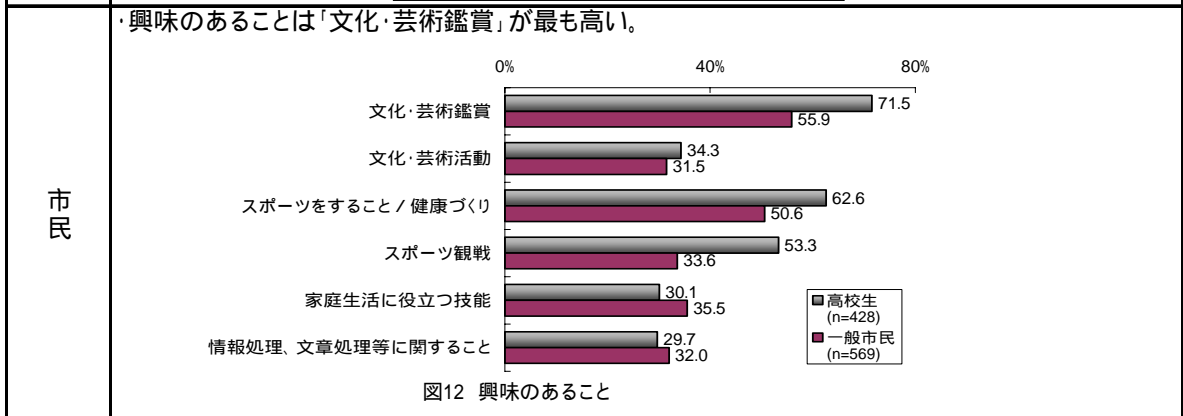
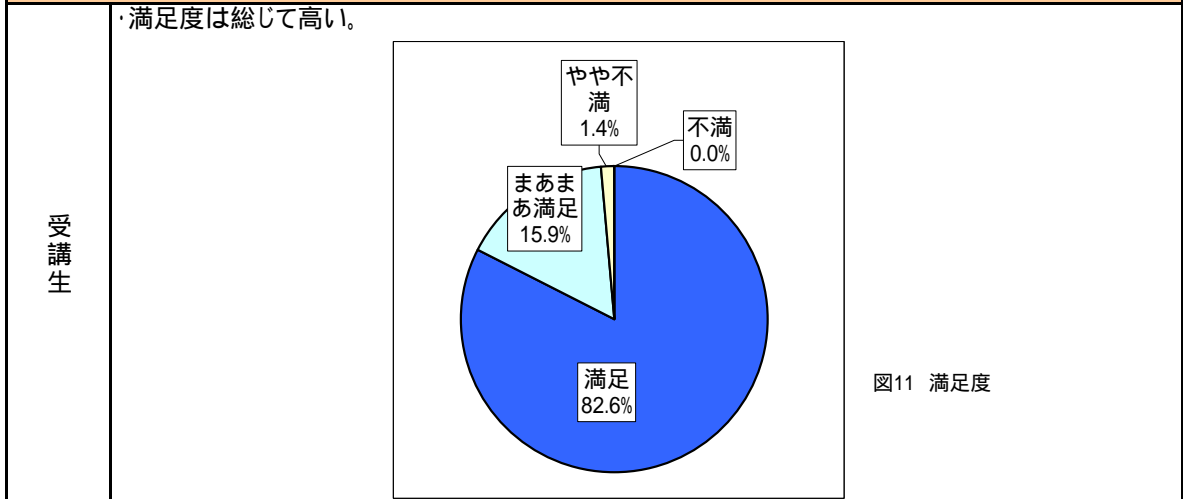
調査結果からみえること

<p>受講生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男性の参加者が少ない。 ・世代、居住区が分散している。 ・他の講座と比較して満足度がやや落ちる。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図7 性別</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図8 年齢</p> </div> </div>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>図9 居住区</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図10 満足度</p> </div> </div>
<p>内 の 課 題 ！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民自主企画講座における、団体育成と市民の学習機会の充実のバランスをどのように考えるべきか。

委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民自主企画講座の目的は、講座開設のノウハウを基礎から学んで力をつけて、やがて自分たちで講座を開くまでに育てるとのこと。このことに要するセンターのエネルギーは大変なものだと思うが、すごく大切だと思う。同時に、センターを支援しているグループのボランティアの場合はどうするのかという問題もある。 ・ボランティアを育てたら、その分職員が手を引けるという考え方にはならない。ボランティアを担当し、育てていく人、事前の準備をする人が必要になって、必ずしも安上がりをするためにボランティアを育てるとのことだと、うまくいかないし、かえって問題になることもある。 ・団体育成が目的だと思うが、もう少し団体の育成についての職員の支援が必要では。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの人たちは市民とセンター職員、両方の気持ちがわかっている人たちである。なんでもしてあげることではなくて、その人たちの感覚を非常に大切にすべき。市民の本当のニーズや、サークルの人が講座を企画、運営していく上でどんな問題点があるのか、生の声が聞ける。いずれにせよセンターの事業を補完するものではない。 ・職員が全てを企画して、職員の意に沿った事業しかできないというより、場さえ提供すれば、市民が企画から実施までやるのが理想。自立した学習ができるまでの間、職員は補佐的にサポートするということで、今後も広めていった方がいいのではないかと。 ・グループからの提案を待っているだけでなく、センター側からテーマを提案して、一緒に考えていく方法でもいいと思う。

発表・鑑賞機会の提供

調査結果からみえること



内セの課タ題

・鑑賞機会の提供は全て無料で多くの集客が見込めるため継続すべき。

委員会での意見

【方向性】

- ・継続で問題ない。ここで有料化を考えてもいいかもしれない。

2 ネットワーク化事業	
(1) 関連機関との連携	
調査結果からみえること	
セ ン タ ー 内 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターにおける「連携」、「ネットワーク化」とはそもそもどういう意味か。 ・本来の形と方向性、理想的な連携、ネットワーク化の中では、どのようなことが想定できるか。
委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターは、千葉市に1つしかない施設で、ここは生涯学習の言ってみれば機関車である。推進力になって、千葉市全体にある生涯学習施設、博物館、図書館、美術館、関係機関や大学と連携することにより何ができるかが課題。 ・生涯学習センターでは、それぞれの施設がうまくいくことによって、市民の生涯学習のレベルがアップするという考え方に立っている。美術館活動が盛んになることも、大学解放が盛んになることも、図書館活動が盛んになることについても、支援、あるいは連携していけるかという問題がある。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターとして生涯学習施設のコントロールタワーになる。生涯学習センターが中心となって独自に進めている事業やボランティアなどの活性化を図るために、他の機関と合同で行った場合と個々に独立して実施した場合とどちらがよいかを見据えて、共有したほうがいい部分をセンターが受け持つことが大切。 ・ネットワークにはフェイストゥフェイスが必要。 ・生涯学習センターが捉えているサークル活動が、元気で活躍できるようにするには、情報交換できるような場を提供することが必要。

(2) 調査・研究	
調査結果からみえること	
継続	
委員会での意見	
継続	

3 指導者の養成事業	
(1) 生涯学習指導者(コーディネーター)研修	
調査結果からみえること	
セ ン タ ー 内 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在行っている講座のうちコーディネーター研修は、「コーディネーター」という意味を広くとらえ、社会教育団体、ボランティア団体向けの研修になっている。「コーディネーター」という意味をどのようにとらえるのか。
委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターとは、何をコーディネートするかで研修の内容は変わってくる。センターとして何に特化すべきか検討しなくてはならない。市民に対して特化しているのは学習相談委員とか、生涯学習情報提供の方だと思う。 ・研修と自主企画講座が分断されてしまうと、研修したことが活用されているかわからない。 ・コーディネーター養成の講座は他にもあるが、講座を受けるだけで終わってしまって発展性がないものがほとんど。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センターの求めているコーディネーターがはっきりすれば、その中で方法論も変わってくる。同時にその初期の段階の活躍する場を想定しながら、修了した人たちが、まず実践として活躍できる場を、用意していかないといけない。その次の段階は自主性にまかせるとしても、最初の段階が必要。 ・どういう事業を開設していくのか、事業を開設できる人が欲しいのだから、事業開設のコーディネーターを養成して、その人たちがそこで事業の開設の仕方、注意事項などを研修して、その中から自主講座に応募してくれると一番いい。

(2) 学習ボランティア活動	
調査結果からみえること	
セ の ン 課 タ ー 内	・施設ボランティアの活動をどのように支援していくべきか。
委員会での意見	
【課題】 ・活動内容に限界を設ける必要はないのでは。施設ボランティア活動は、まなびサポーターをみても、技術的に職員よりももっと上をいくかもしれない。内容面の指導は高いので、逆に支援されるような形になっていくと思う。 ・ボランティアとしての活動は結果として制限されることがあるが、話し合いがもたれていない。	【方向性】 ・ボランティアの発達段階に応じて、センターが支援できることとできないことを明確にして話し合いを進めていくことが必要。施設ボランティアの理想と、センターが期待しているボランティア活動を明らかにする協議の場を設ける必要がある。

4 情報提供事業、5 学習相談事業	
調査結果からみえること	
継続	
委員会での意見	
【方向性】 ・情報提供は学習相談と合わせて今回改正された社会教育法で、市町村教育委員会の事務として明記された。その一つは周知。ホームページについては、常に新しい情報が得られるような情報提供が必要。 ・指導者養成やリーダー養成などの場合、地区ごとに受講生を把握することが大切。その受講生を通じて、情報公開、相談、アドバイスができるようなネットワークシステムをつくっておくと、情報提供や学習相談がより市民サイドに向けて発信できるようになる。センターは人と人とのつながりの中で、事業展開をしている。受講生を修了後どれだけ掌握しているのか、そしてその人たちに活動の場を提供できるのかが重要。	

6メディア学習事業	
調査結果からみえること	
セン 課 題 内 の	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はパソコン講座のみの実施。現在の講座は現状維持したい。 ・メディアリテラシー(有害情報と子ども、情報の取扱いに関する学習)については、重要性は認識していたが現状では実施されていない。 ・パソコン講座は初級、中級、上級に分かれているが実際にやっている内容は難易度別ではなく、内容別(操作講習、ワードエクセル、情報表現発信)。この切り分けでいいのか。 ・他のメディア機器の学習についても取り扱うべきか。
委員会での意見	
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難易度別にするのは難しい。募集するにあたって、できる人と募集しても、人によって差が大きくて難しい。とにかく抽選で、あたらぬ人が多いので、何でもいから応募してくるため現実的には難しい。 	<p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難易度別に扱うのは実際には難しい。これからも実態を把握しながらすすめていくしかない。 ・入院や介護しているなどで、センターに来られなかったりする市民の学習機会の提供にもパソコンは必要では。そういう意味ではパソコンの技術、初歩的なものを高齢者など必要とする市民を対象とした講座開設は意味がある。 ・メディアリテラシーは講座として開くのは難しいかもしれないが、ちばカレッジや他の講座の中に組み込んでいったらいいのでは。有害情報については1コマからでもよいので実施すべき。 ・他のメディア機器についても取り組むべき。 ・メディアリテラシーについては単体で人を呼ぶことは難しいので、例えば警察の楽隊を呼んでやるなど、集める方法を考えてやる。

3 第2回委員会

(1) 会議詳細

日 時 平成 21 年 3 月 16 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 30
場 所 千葉市生涯学習センター 特別会議室
参加者 委員会委員 : 3 名
事務局 : 6 名
コンサル : (株)ちばぎん総合研究所 2 名

次 第

- 1 . 開 会
- 2 . 議 事
 - (1) 課題と今後の方向性 (継続議題)
ちば生涯学習ボランティアセンター
施設貸出事業 (仮称)
 - (2) 基本方針について
 - (3) 新事業体系案について
 - (4) 事業内容と方向性について
- 3 . 事務連絡、閉会

(2) 課題と今後の方向性

(1) 課題と今後の方向性 (継続議題)	
ちば生涯学習ボランティアセンター	
要旨	発言内容
ボランティアをやりたい人とやって欲しい人のニーズのマッチングが難しい。	行政としては登録者を増やし、数をアピールしたいのだろうが、それをやると成功しない。本当に技量のある指導者かどうかつかめない。指導者としての得意分野とニーズとのマッチングが時としてうまくいかない難しさがある。マッチングするときに、この指導者は子どもの指導に向いていて、この人は高齢者に向いているといったところまで把握していないと、紹介してもなかなかうまくいかない。子どもには評判がいい人だが、お年寄りにはそうでないということもある。また、レベルの高さの問題もある。
ボランティアの顔が見えないことが不安材料なので、公民館などで登録した人を積極的に活用すべき。	新規事業としての取り組みは、活用の促進等明るい方向性が見えているのでよいと思うが、実際にボランティアとして指導を受けたい側の方々からの話を聞くと、「登録者の顔が見えない、その人と話をしたり、活動したりする場面が想像できない」という意見が多い。公民館などで登録した人を実際に活用していく。そのことによって、多くの市民に活動の実態を実感してもらえると次につながっていくと思う。そういう意味では学校地域支援本部事業でボランティア活動を希望しているような状況も今後出てくると思うので、そういうところにどんどんPRしていけば。
ボランティアを受け入れる側の理解も必要である。	センターの努力は別として、受け入れる側の問題が大きい。ボランティアに対してセンターが誠意をもって対応しても、受け入れる側に感謝の気持ちが通じなくて、ボランティアの人が来てその時間を過ごしてきてくれればよいということになりかねない場合がある。受け入れ先の意識改革が大切。
公民館にとってもボランティアの顔が見えないと頼みづらい。	公民館にとってもボランティアの顔が見えないのは頼みづらい。登録している方たちの中でも、技能のレベルがよくわからない人も登録しているので、受け入れ側のほうが素直に受け入れられないというのもわかる。
登録時にヒアリングを行なうことが大切。	ボランティアに登録するときに十分にヒアリングして、適任者をボランティアセンターでコーディネートすることが大切。
ボランティアセンターの登録者が活動しているところを、多くの人に見てもらうことで、信頼関係を作り上げていく。	センターではいろいろ指導者養成を行っているがその中で活用を行っていくということ。ボランティアセンターの登録者が活動している場面を多くの人に見てもらって、信頼関係を作りあげていくとより利用が高まるのではないかと。

(1) 課題と今後の方向性 (継続議題)	
施設貸出事業	
要旨	発言内容
利用者の立場に立って、事務の軽減と、弾力的な運営をやっていくことで利用率のアップになるのでは。	一般論として施設の利用率は生涯学習施設としてはよい方だと思う。さらに、心からサービスを提供するという気持ちになれば、利用率があがるのでは。最初に利用する人は意外と緊張している。そういう緊張感をほぐしてくれるような対応を心がけて欲しい。利用を申し込む際に間違いがあると何回も書類を書き直すということもあるようだが、そういった手間もできるだけ省略できるようにする。利用者の立場に立って、事務の軽減と、利用者に合わせて弾力的な運営を行っていくことが、利用率のアップにつながる。
センターの利用経験は少ない。図書館と一緒に建設されたので、混同している人も多い。	生涯学習センターの利用経験をみると、一般市民が17.2%で高校生が14%程度。生涯学習センターは、図書館と一緒に建設したので、両方をあわせた利用者がこの利用者という意識がある。図書館に来た人が地下のブースを利用したり、その逆もあるだろう。
PR不足。図書館とセットでしか見られていない。	PR不足だと思う。講座をやっていても、生涯学習センターとして意識されていない。図書館とセットでしかわかってもらえない状況を改善すべき。
親子で一緒に来たり、子どもだけで出入りできるような取組があっても良いのでは。	親子で一緒に来られる、子どもだけで自由に入出入りできるような取組みがあってもいいのではないか。
センターに市民を巻き込んでいくことで利用促進を図る。	市民を巻き込んで、センターと一緒にやって行く事業を多くすることによって利用の促進が図られる。

(1) 課題と今後の方向性 (継続議題)	
研修生受入れ	
要旨	発言内容
これからも充実させて続けていくべき。	生涯学習センターでなければ難しい事業の1つ。研修を受け入れるのは大事なことで続けるべき。

(2) 基本方針について	
要旨	発言内容
千葉市の生涯学習を引っ張っていくことが役割。	当初、生涯学習センターは千葉市の生涯学習を進めていく機関の役割を担っており、本来は生涯学習推進センターが名称だった。図書館、博物館、美術館を含め、大学等と連携をしながら市の生涯学習を引っ張っていくというイメージの施設だった。千葉市には中央公民館がないが、公民館の中に上下関係をつくるのではなくて、中央公民的な役割をセンターで担い、大学や博物館などとの連携を行い、情報を集約するような役割も必要かと思う。
生涯学習センターとしての位置づけを整理すること。中央公民館的な役割を担うのか否かによって方針は変わってくる。	本来は市民の学習要求を調査して、学習プログラムをつくり、実践して、全市に地区公民館を使って市民に広めていくのが一つの役割。同時に情報収集、発信の一元化の機能もあるが、情報収集、発信についてはすでに一元化していると言える。これからどういう方向にセンターが進んでいきたいのかを決めなくては今後の方針は見えてこない。公民館をリードする学習機関でありたいのか。学習機会を提供し、市民に親しまれ喜ばれるセンターとしての機能に力をいれるのか。どちらに軸足を置くべきかを固める必要がある。
公民館とも連携を取りつつ、センターならではのことをやって欲しい。	公民館の上に立つものではないが、中核的施設としての役割は果たして欲しい。公民館と同じようなことをセンターがしても、近いところにみんないる。そういう意味では公民館と連携をとって、公民館とは違うことをやって欲しい。指導者、リーダーをここで養成して、公民館とやっていくということをやってほしい。
ボランティアの養成はセンターの役割。	ここでボランティアの養成をやっているが、センターができる前は公民館で少しやっていた。しかし教育委員会主催のボランティア養成は、センターでやるのでということで辞めてしまった。それまでは中央コミュニティセンターで毎年やっていた。公民館の方に言わせれば、養成はできないという。養成はセンターでやっていただいて、養成された人が、地域に帰って、受けた学習を活かすという関係ができればいいと思う。千葉市は大きいので難しいかもしれないが。
広域施設としての特長を活かし、その学習成果を地区公民館に還元できるようにすべき。	センターとしての力、魅力があるので、それぞれの地区で単独で行うのが難しいような事業はセンターが実施すべき。千葉市生涯学習センターは、全市民を受講対象者としている。地区の公民館はその地域の人を対象にしているので、その点が違う。広域の事業を行なうべき。その学習の成果を、地区公民館が活かして行くという連携ができればよい。それがセンターの役割でもあると思う。
キーワードは広域、先導的モデル、支援。	生涯学習センターの方向性を考える上で、もう1つセンターの特質的なものでキーワードをあげていくと、広域、先導的モデル、支援。役割としては広域的な事業を行って、モデル的な事業の開発をすすめる。他の施設へのアドバイスや、団体の支援というキーワードがあるが、ただ、その場合だと堅苦しくて行政っぽいので、それよりはセンターが挙げってきたキーワードの方が市民にはフィットする。
養成された人を再び研修するようなシステムが必要。	連携、養成されたら、地域でリーダーとしてやってくださいといってもできないのが現状。それを支援するという観点では、文部科学省の生涯学習審議会の答申にあったように、生涯学習パスポートを持っているような人たちを、再びセンターに集めて研修していくような形をとれば、やってきてよかったということがあるのでは。

(3) 新事業体系案について	
要旨	発言内容
設立10年の記念事業をやって欲しい。	将来の希望だが、もう少しでセンター設立10年になる。その10年に向けて記念事業のようなものができればいい。例えば、ちばカレッジも非常に難しいものを勉強してきて、大学で勉強するような資料を使い、資料には十分なエキスが残っている。それを、千葉市に親しんでもらうために、子ども向きの読み物に見直して、冊子にして、学校の副読本にしてもらえるようなものを作れないか。また、子どもの事業に関して、センターでやってきたプログラム集を作って、公民館に配れるような、10年を期に今までやってきたことの成果が出せるような事業ができればと思う。記録に残して、次の10年にステップアップできるようなことができないか。
ボランティアセンターという事業名より、人材育成・ボランティア支援の方がふさわしい。	「4. ちば生涯学習ボランティアセンター」は、言葉としておさまりがつかない気がする。むしろ、括弧の中の、人材育成・ボランティア支援の方がすっきりする。例えば、市民参画活動支援などを入れたほうが、ちば生涯学習ボランティアセンターとするよりはよいと思う。その中に「(1) ボランティアセンターの運営」が先に出てしまうと、全体的にバランスが悪いので、ボランティアセンターは最後に出したほうがよい。
ボランティアセンターを全体に前面に出したいのであれば、人材育成とボランティアセンターの運営を2本の体系にする。一本化には違和感がある。	職員を配置して、独立したセンターの体系として、管理運営と対等に並ぶのであれば、ボランティアセンターがあってもよいと思う。組織として違和感がある。逆に言うと基本方針の中で養成とあるが、この事業の中で相当のウエイトを占めるはずだが、見えにくくなってしまう。市民主役など、そういう意味を含めた表記がよい。
福祉関係のボランティアと混同しないように、「学習」ボランティアとした方がよい。	センターで最初にボランティア養成をはじめたときに、福祉関係のボランティア要請が多かった。ここは学びを支援する人ということで、あえてボランティアと使わずに、まなびサポーターと言っていた。ボランティアというと、介護や入浴サービスということが出てきて誤解を生じたようだった。そのために学習ボランティアとしてはどうか。学習を頭につけないと誤解を受ける可能性がある。

VII . 新事業体系（まとめ）

1 千葉市生涯学習センターの基本理念

千葉市生涯学習センターの行う事業は、市民の学習活動を啓発・支援し、学習の成果を自らの人生や地域の活性化などに資することを目的としています。その事業全体を貫く理念は、次の通りです。

(1) 養成

千葉市の生涯学習を推進していくにあたり、各地域で活動する様々な分野の人材を養成することや、このような人材を支援していくことが重要です。

地域でリーダーシップを発揮し、個人や団体に行動の変化を促し、その力を十分に引き出すことのできる支援型のリーダーや、学習活動を地域へと広げていく学習ボランティア団体等を養成、支援していきます。

(2) 連携

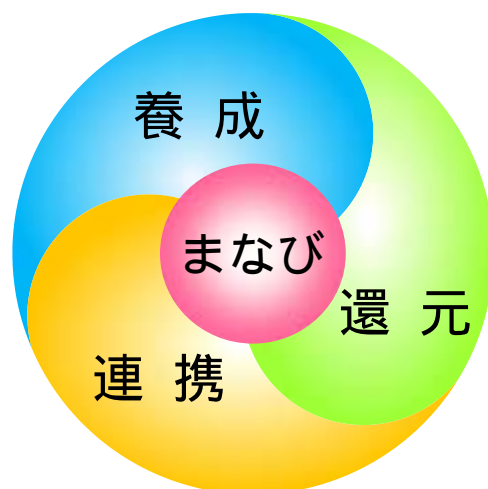
生涯学習活動の活性化のためには、生涯学習支援ネットワークの推進・拡大もまた重要です。

市内にある生涯学習関連機関、高等教育機関等との連携や、学習団体同士の交流などを総合的に進めていきます。また、市民同士の連携・交流を深めるため、各関係機関と連携して情報を共有し、市民に提供します。

(3) 還元

市民の地域への参画・協働を推進するためには、市民が学習で得た成果を自らの人生や地域社会のために還元しようとする事への支援が重要です。

自ら学んだ成果を、社会へと還元する仕組みや場を提供することで、市民一人ひとりが、地域づくりを担う存在になって活躍できるよう支援していきます。



2 新事業体系案

(1) 人材育成・学習ボランティア支援事業

学習ボランティア活動支援
生涯学習指導者研修
市民自主企画講座
ちば生涯学習ボランティアセンターの運営

(2) ネットワーク化事業

調査・研究
関連機関との連携
ネットワーク形成
研修生受入れ

(3) 生涯学習情報提供・相談事業

生涯学習情報の提供
生涯学習相談
普及・啓発
千葉市生涯学習情報提供サービス（ちばまなびネット）の運営

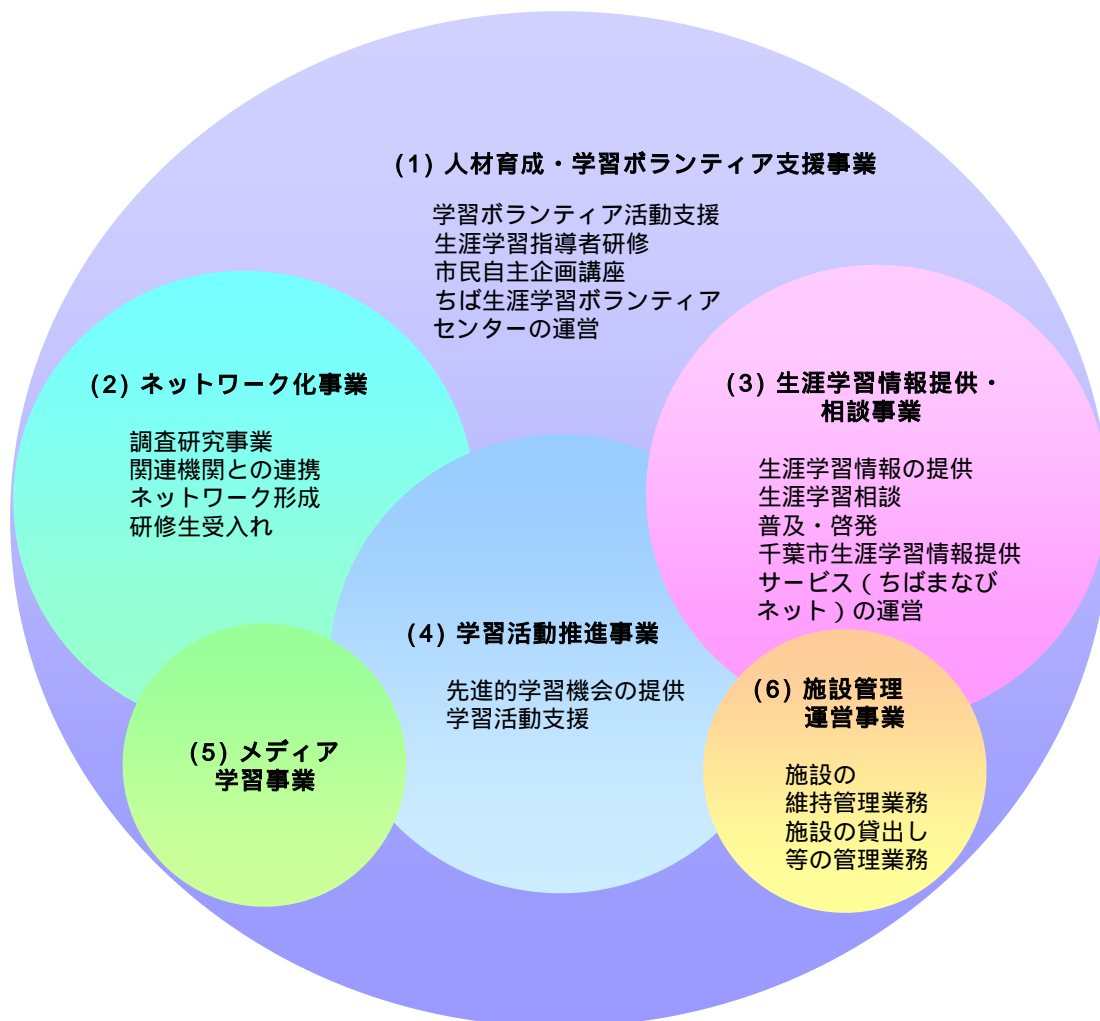
(4) 学習活動推進事業

先進的学習機会の提供
ア ちばカレッジ（ちばを学び創る学習）
イ 現代的課題学習
学習活動支援

(5) メディア学習事業

(6) 施設管理運営事業

施設の維持管理業務
施設の貸出し等の管理業務



3 事業内容と方向性

(1) 人材育成・学習ボランティア支援事業

学習ボランティア活動支援（施設ボランティア（まなびサポーター）養成研修、学習ボランティア活動支援等）

(ア) 事業の概要

豊かな生涯学習社会の構築を進めるうえで学習ボランティア活動は重要な役割を担っています。特に、施設における学習ボランティアの受け入れは、施設の提供する学習機会をより充実するばかりでなく、地域住民の希望や意見を施設の運営に反映させ、その活性化に大きく寄与するものです。

同時に学習機会を提供する学習ボランティアとそれを享受する市民との交流は、お互いの学びをより深める契機となります。また、学習ボランティア自身にとっても、自らの成長の場であり、学習で得た成果を活かす場でもあります。

このような趣旨を踏まえて、市民の生涯学習活動とその成果を社会に還元する活動を支援し、住民参加による活力あるまちづくりのための視点として、学習ボランティアの養成やその活動の支援を行い、地域で活躍できる人材を育成することを目的としています。

(イ) 事業の方向性

学習ボランティアの養成とともに学習ボランティアの活動支援については、今後も充実を図るべき事業です。

学習ボランティア活動の支援は、生涯学習センターと学習ボランティアが目的を共有し、対話を通して協働を進めていくという視点から行っていく必要があります。

生涯学習指導者研修(生涯学習コーディネーター研修、生涯学習関係職員研修等)

(ア) 事業の概要

生涯学習の推進には「人づくり」が重要であるという観点から生涯学習・社会教育に関わる市民や生涯学習・社会教育関係職員に向けた研修を行います。

生涯学習・社会教育団体や地域活動に関わっている市民が、活動を行うにあたり必要な知識、技術を身につける機会を提供するとともに、生涯学習・社会教育関係職員の資質の向上と職務上必要な基礎的・専門的知識や技術の習得を目的とします。

(イ) 事業の方向性

講座のプログラムを立案する際に、対象を具体的に絞り込むことが望ましいと考えます。また、市民を対象にした研修ではコーディネートのノウハウを身につけた団体の構成員が、学習した内容を実践できる場を提供していく必要があります。研修の修了者が、実際に市民自主企画講座などで講座を行

うことが考えられます。

市民自主企画講座

(ア) 事業の概要

市民の学習への関心・要求の多様化や活動領域の拡大が加速する中で、地域における生涯学習推進のために、市民相互の交流を促し、学習成果を活かした市民参画型の学習機会を提供することを目的としています。

生涯学習による地域づくりを進めていくためには、市民の参画と協力が重要です。意欲のある市民が学習によって得た成果を活かすことのできる場を提供します。また、学習グループ、団体が企画する事業の実施・運営を支援を通して、市民の自主的、主体的な学習活動を促進していきます。

(イ) 事業の方向性

地域づくりをすすめていくためには、意欲ある市民が地域づくりに参画できる場づくりが重要になります。講座を企画した団体の活動が本事業だけでなく、地域での活動にもつながっていくことを意識して、それぞれの団体に適した支援や助言を行っていきます。また、これから市民自主企画に応募しようとする団体の育成も重要であり、生涯学習指導者研修の一環としてプログラム企画・立案に関する講座を実施するなど、他の事業とも関連させて実施していく必要があります。

ちば生涯学習ボランティアセンターの運営

(ア) 事業の概要

講師や助言者が身近に見つからないという市民と、学習ボランティアとして地域社会に役立ちたいと考えている市民との橋渡しをするため、「ちば生涯学習ボランティアセンター」の運営を行ない、市民の学習ボランティア活動の活性化を図ることを目的としています。

学習ボランティア同士の交流をはじめ、情報の提供、相談等の受付を実施し、登録者の充実と利用促進を図ります。

(イ) 事業の方向性

登録を希望する学習ボランティアに対し、一人ひとりの特長や意向をフェイストゥフェイスで十分に把握し、利用する側のニーズとのマッチングに努めていく必要があります。また、ボランティアセンターの登録者が活動しているところを多くの人に見てもらい、信頼関係を作り上げていくことで、利用する側の不安を取り除き、学習ボランティアの活動の推進とボランティアセンターの活用を促していく必要があります。

(2) ネットワーク化事業

調査・研究

(ア) 事業の概要

社会の要請や市民の学習ニーズに合った事業の運営を行なうため、生涯学習に関する情報や市民ニーズの把握を行ないます。年度ごとにそのとき必要と考えられるテーマを選定し、調査・研究を行ないます。

(イ) 事業の方向性

継続して調査・研究を続けていく必要があります。千葉市の施策や他の事業とも関連させながら、市民のニーズ、国や市の動向に対応した学習活動の推進を図るための調査・研究を行う必要があります。

関連機関との連携、ネットワーク形成、研修生受入れ

(ア) 事業の概要

生涯学習関連施設だけでなく、教育機関や民間企業との連携を図るとともに、相互に補完しあう関係構築を図ります。

また、実習生や研修生の受入れを行い、人材育成を支援します。

(イ) 事業の方向性

生涯学習センターは千葉市の生涯学習の中核的施設として位置づけられていますが、ネットワークの中心としてどう対応していくかが課題です。ネットワーク化を進めていくためには、フェイストゥフェイスの連携を基本に考えていく必要があります。

例えば、学習グループの情報交換の場を提供します。また、大学の生涯学習部門との情報交換のためのネットワークを作ることで、生涯学習についての情報ネットワークの形成を図ることが考えられます。

実習生・研修生の受入れについては、各種機関との連携を図っていく観点からも、引き続き受け入れの体制を整える必要があります。

(3) 生涯学習情報提供・相談事業（生涯学習情報の提供、生涯学習相談、普及・啓発、千葉市生涯学習情報提供サービス（ちばまなびネット）の運営等）

(ア) 事業の概要

市民の多様な学習ニーズに対し、学習活動や調査研究を支援するため、生涯学習情報の整備・提供、また生涯学習に関する相談業務を行ないます。

(イ) 事業の方向性

社会教育法の改正によって、今後ますます重要と位置づけられた事業であり、引き続き積極的に取り組んでいく必要があります。

(4) 学習活動推進事業

先進的学習機会の提供

ア ちばカレッジ（ちばを学び創る学習）

(ア) 事業の概要

「ちばを学び創る」学習として、地域に対する愛着心や郷土意識を高め、地域づくりへの興味、関心を育むことを目指しています。

「ちばカレッジ」での学習は、千葉の魅力や文化の創造を再発見し、くらしの場に立って千葉という地域を知り、地域から学び、地域に生きる意味を考えていく、極めて実践的なものです。また、学習内容としては、「ちば」の自然・歴史・社会・産業・交通・生活・文化などの分野の他「ちば」に密着したものを取り上げ、講義を中心とした学習(知識型学習)、実践的に発展させる学習(体験型学習)、学習した成果を活かす学習(創造型学習)、この3つを柱としてプログラム化を図ります。

(イ) 事業の方向性

今後も「ちば」に関わる様々な分野の情報収集を行い、多角的な視点から有料ならではの魅力あるプログラムづくりを行っていくことが必要です。また、市民が講義を聞くだけでなく、自らも主体的に学習活動を進めていくことが重要であると考え、講座の中での支援や、学習した成果を活用していくための仕組みについても検討を重ねていくことで本事業の充実を図る必要があります。

イ 現代的課題学習

(ア) 事業の概要

少子高齢化、世帯構成の変化、社会経済の低迷、市民の価値観の多様化などを背景に、時代や社会変化に伴うさまざまな現代的課題への対応が求められています。

生涯学習センターでは現代的課題を、市民が人間性豊かな、充実した生活を営むために学習していく必要のある今日的な学習課題として位置づけ、プログラム化を図ります。現代的課題には様々なものがありますが、市民のニーズや取り巻く環境、社会の動向などを踏まえて、学習の機会を提供します。

(イ) 事業の方向性

現在実施している、「子育て支援」「青少年育成」「高齢者の生きがいづくり」に関わる事業は、近年の社会状況と照らし合わせても、継続して取り組んでいく必要がある重要なテーマです。しかしながら、現在の事業はライフステージごとに展開されているため、今まで以上に、市民一人ひとりのニーズに対応していくには、現在の事業の中では対応していない世代への学習機会の提供についても検討していく必要があります。

また、数ある現代的課題のうち、最優先に取り組むべき課題について、毎年

検討を行い焦点化する必要があります。その上で、既存の事業のプログラムに反映させる、あるいは新たな講座として取り上げていく必要があります。国の答申で例示された項目の他、今日の社会情勢や市民意識調査等により市民の抱える不安や学習ニーズをふまえて検討していくことや、生涯学習センターで実施する調査研究事業の中でライフスタイルや世代ごとの意識、行動分析に関する調査研究を行うことも必要です。

平成4年「生涯学習審議会 今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について(答申)」では、具体例を次のように挙げている。「例えば、生命、健康、人権、豊かな人間性、家庭・家族、消費者問題、地域の連帯、まちづくり、交通問題、高齢化社会、男女共同参画型社会、科学技術、情報の活用、知的所有権、国際理解、国際貢献・開発援助、人口・食糧、環境、資源・エネルギー等が考えられる。」

学習活動支援(まなびフェスタ、発表・鑑賞機会の提供等)

(ア) 事業の概要

学習した成果を地域に還元することを促すために、学習グループ、団体等が行う学習活動を支援します。また、市民が気軽に学習した成果を活かせる場を提供します。なお、学習活動支援では、学習活動への興味、関心を高めることもまたねらいとしています。

(イ) 事業の方向性

現在行っている事業は、今後も継続する必要があります。

このうち、鑑賞機会の提供として実施している事業は、「千葉市生涯学習センター管理運営の基準」により無料で実施していますが、市民意識調査からも分かるように市民の文化・芸術鑑賞に対する関心が高いことから、より質の高い講座を提供するために有料で実施する事業についても検討する必要があります。

(5) メディア学習事業(マルチメディア体験ブースの運営、視聴覚ライブラリーの運営、メディアリテラシーに関する講座等)

(ア) 事業の概要

生涯学習センターでは、特色的な学習事業のひとつとして、施設のマルチメディア環境を活かした、メディアリテラシーに関する講座を提供します。

実技を中心としたプログラムを展開し、子どもから高齢者までの全ての市民が社会生活の中で具体的に活用するための総合的なメディア学習を推進します。

(イ) 事業の方向性

パソコン講座については難易度ごとに取り扱うだけでなく、学習する内容

の特性を吟味し、取扱う内容ごとにプログラムを立案するなどして、柔軟に進めていく必要があります。初心者向けのを除き、パソコン講座は有料で展開していますが、金額面については社会の変化や状況を判断しながら決定する必要があります。

また、何らかの事情でセンターに来られない人に対して、受講しやすい環境を提供するために、公民館等で講座を実施するなどの方法を検討する必要があります。

また、今後は情報社会を意識した講座を展開していく必要があります。メディアリテラシーに関する学習は当初より重要と考えられてきましたが、その必要性は高まっています。また、パソコン以外のマルチメディアツールを取り扱うことも積極的に検討していく必要があります。

(6) 施設管理運営事業

施設の維持管理業務

(ア) 事業概要

生涯学習の中核的施設として建設された生涯学習センターを市民に快適に利用していただくため、建築物の維持・保守、清掃、警備、植栽の維持、衛生管理、備品等の管理等を行います。

(イ) 今後の方向性

今後も、継続して、「千葉市生涯学習センター管理運営の基準」及び関係法令を遵守し、施設の維持管理を充実させていく必要があります。

施設の貸出し等の管理業務

(ア) 事業概要

市民に対する生涯学習の場の提供の一環として、生涯学習センター内の施設貸出しを有料で行います。また、ホームページの运营管理などを行い、生涯学習に関する情報提供や生涯学習センターの利用促進を図るためのPR活動を行います。

(イ) 今後の方向性

市民の学習活動への側面的な支援としてとらえ、継続して積極的に行っていく必要があります。

生涯学習センターの認知度を高め、利用率の向上を図るために、ホームページの充実や各種の広報媒体の効果的な利用について検討していくことが必要です。さらに、生涯学習センターを市民が快適に利用できるよう、市民の立場に立ったサービスの提供に努めていく必要があります。そのため、職員の意識や待遇等に関する技能の向上を図るため、職員研修を行っていくことも必要です。

千葉県生涯学習センター
事業体系に関する調査・研究報告書

平成 21 年 3 月

発 行 千葉県生涯学習センター指定管理者
財団法人千葉県教育振興財団生涯学習センター
〒260-0045
千葉県中央区弁天 3 - 7 - 7
(電話) 043-207-5811(代表)

調査・製作 株式会社 ちばぎん総合研究所 受託調査部
〒263-0043
千葉県稲毛区小仲台 2 - 3 - 12
(電話) 043-207-0621